

診療部

総合内科

神経内科

消化器内科

肝・胆・膵疾患治療センター

循環器科

小児科

外科

形成外科・美容外科

脳神経外科

心臓血管外科

皮膚科

泌尿器科

産婦人科

眼科

耳鼻咽喉科

リウマチ科

脳卒中診療科

腎免疫血管内科

血液内科

糖尿病内分泌内科

血液浄化部（血液浄化センター）

ER（救急総合診療科）

放射線科

放射線腫瘍科

放射線診断科

IVRセンター

人工膝関節センター

呼吸器内科

麻酔科

腎移植外科

BeJOY会（美女医会）

総合内科



■北川 泉 総合内科主任部長

日本内科学会認定医、
日本内科総合内科専門医・臨床研修指導医、
日本高血圧学会専門医、日本循環器学会専門医、
日本プライマリーケア学会認定医・指導医

■小林 修三 副院長、腎臓病総合医療センター長、 内科統括責任者、検査部長

日本内科学会認定医、日本腎臓学会指導医・専門医、
日本高血圧学会専門医 (FJSH) 指導医、
病態栄養学会専門医、日本透析医学会指導医

■賀古 眞 臨床研修センター長、 肝・胆・膵疾患治療センター長

日本肝臓学会認定肝臓専門医、
日本消化器病学会認定消化器病専門医、
日本消化器内視鏡学会認定専門医、
日本内科学会認定内科医、
日本人間ドック学会認定人間ドック認定医

■ジョエル ブランチ 臨床研修アドバイザー

■中川 佳子

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医

■西口 翔

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、
日本プライマリーケア学会認定医・指導医

■工藤 まどか

日本内科学会認定医

■十倉 満

日本内科学会認定医

■佐藤 淑

日本内科学会認定医

■角谷 拓哉

日本内科学会認定医

■青松 昭徳

■渡邊 晋二

■伊藤 亮治

■富山 周作

■上原 幸治

■川治 崇泰

■関 健一

■高田 卓磨

■西増 理絵子

■正高 佑志

はじめに

当院の総合内科は2005年4月より、内科統括部長小林修三副院長のもと北川泉、守矢英和が内科部長に就任し、新体制でスタートしました。それまでの内科診療行為は、昭和63年11月の当院開設時には「内科」として内科全般を担当していました。その後日々細分化、向上化されていく医学知識や医療技術に対応していく必要性から、一般内科を担当する科以外に、新たに神経内科、腎臓内科、血液内科、リウマチ科などの各専門内科を標榜する科が新設されていきました。しかし専門内科の必要性が進んでいく中、救急病院でのニーズに応じる形で、臓器にこだわらず、全人的医療を中心とした医療を率先し、そしてそれぞれの専門内科と連携を持ちながら内科を取りまとめる科として、当総合内科は誕生しました。我々内科医全員は、「specialistである前にgeneralistであれ」という精神を大事にしています。

当科の特色と活動

外来診療、入院診療、研修医教育を3本柱とし、全人的医療を心がけております。最先端の専門分化の進んだ現代医療の狭間といえる部分も大事にしながら、患者さん中心の医療を行っていく理想の医師像を追求していこうと日々努力しております。私たちは総合内科のみで患者さんが本当に満足できる医療を提供できるとは考えてはいません。総合内科と専門内科がうまくかみ合っこそ初めて、患者さんが本当に満足できる医療の提供が達成できるものと思っております。外来診療においては、当科は内科新患外来を担当することにより、「内科」の外来を担っております。現在では、総合内科のみならず専門内科の先生方も内科と顔である内科外来を皆で担っております。夕診も同様に対応しております。また当科ではER、他科からのコンサルト、他院からの直接の窓口も担っております。入院においては、専門的な診断、治療が必要な場合は、各専門医の協力、指導を受けることができるスタイルをとっています。一方、研修医教育においては、臨床教育指導医のランチ先生との討論が行われており、また国内外の優れた指導医を多く招待し、病棟回診、症例検討、医学講義も行っています。一流の臨床家の診療技術や技能に接する中で、より新しい価値感による知的刺激を受けながら、常に診療の質を高める努力をしています。2005年に設立して以来、まだまだ試行錯誤の連続ではありますが、今後もより良いものを取り入れ、当院のみならず、世界に向けて情報を発信していきたいと思っています。

総合内科のホームページ <http://skghsogonaika.sl.bindsite.jp> を開設しており、またface bookでも発信しております。

過去から2012年度までの歴代チーフレジデントの動き

2005年総合内科が誕生してから歴代チーフレジデ

ントは、2007年岡村暢人、2008年の福田真、2009年阿多智之、2010年度は川島彰人、2011年度は西口翔が担当しました。2012年度は、チーフ不在の年となりました。現在は、西口翔医師が総合内科スタッフとして、頑張っております。

2012年度の学術業績

(1) 論文発表

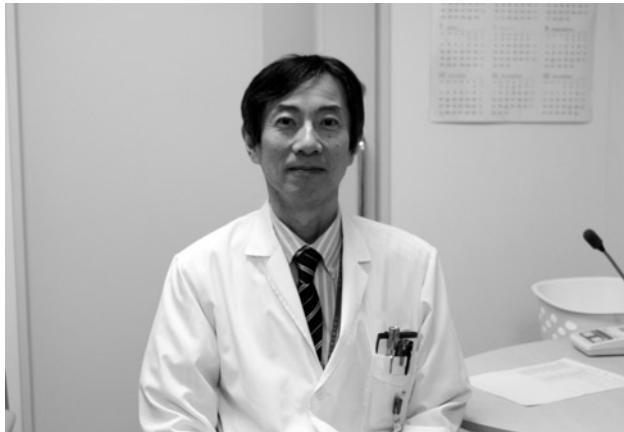
1. 北川泉：本態性高血圧，図説カラダ大辞典心臓と血管の病気，2012年；4巻：244-250.
2. 北川泉，菅波由有：巻頭特集INTERVIEW都市部における「総合内科」での取り組み，VOCA 2012年；4-5

(2) 学会発表

1. 日比美智子，成田健太郎，菅波由有，北川泉，魚嶋晴紀，賀古眞：胸腔鏡下横隔膜瘻孔閉鎖術と腹腔静脈短絡術が奏功した難治性肝性胸水の1例，第586回日本内科学会関東地方会，東京，2012.3
2. 古川龍太郎，魚嶋晴紀，賀古眞：急性膵炎を合併した分類不能な粘液産生嚢胞性膵腫瘍の1例，第587回日本内科学会関東地方会，東京，2012.5
3. 十倉満，木下大輔，稲田悠，田中江里：免疫抑制療法が奏功したAcquired pure megakaryocytic aplasiaの1例，第589回日本内科学会関東地方会，東京，2012.7
4. 稲垣俊一郎，森貴久，岩田智則，宮崎雄一，中崎公仁，溝上康治，高橋陽一郎，椎橋元：来院時高血圧がrt-PA静注療法後の頭蓋内出血頻度と臨床転帰に及ぼす影響，第589回日本内科学会関東地方会，東京，2012.7
5. 稲田悠，西口翔，菅波由有，川田純也，北川泉：B型インフルエンザとマイコプラズマの混合感染で発症した抗ガラクトセレブロシド抗体陽性

- Guillain-Barré症候群の1例. 第589回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012.7
6. 郭悠, 石岡邦啓, 西口翔, 佐藤友英, 菅波由有, 北川泉: 部分発作にて発症後、急速に意識障害に至りコドン 232の変異を認めた家族性Creutzfeldt-Jakob病 (CJD) の1例. 第590回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012.9
7. 工藤まどか, 渡邊晋二, 西口翔, 佐藤公俊, 北川泉, 川田純也: 遠隔転移のみで晩期再発した癌性髄膜炎の2例の検討. 第590回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012.9
8. 内田雅俊, 西口翔, 忠願寺絵理, 千野裕介, 小林裕幸, 徳田安春: 関節リウマチに対してメソトレキセート内服中に発熱、汎血球減少で発症したサイトメガロウィルス初感染の1例. 第592回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012.11
9. 佐藤淑, 和足孝之, 魚嶋晴紀, 金原猛, 賀古眞: 重症薬疹に対し集学的治療が奏功した1例. 第593回日本内科学会関東地方会, 東京, 2012.12

神経内科



■川田 純也 神経内科部長

日本神経学会専門医・指導医、
日本内科学会認定総合内科専門医、
日本臨床神経生理学会認定医(脳波部門・筋電図部門)、
日本認知症学会専門医・指導医、
日本頭痛学会専門医、日本脳卒中学会専門医、
日本医師会認定産業医

当院の神経内科は、急性並びに慢性を含む脳血管障害と脳神経外科診療を除く、その他の神経疾患を診療領域としています。担当医師一人で行っている関係上、基本的には外来とコンサルト業務を中心にしており、入院は総合内科との連携で行っています。MRIなどの画像診断や脳波・筋電図などの電気生理検査、筋生検、神経生検などの補助的検査はもちろんです、その特殊性から、病歴聴取、理学所見を特に重視しています。その中で、どの所見が特異的で、どのように診断を進めていけば、より効率的かを確認しながら診療しています。診療内容は、パーキンソン病並びにその関連疾患と不随意運動を含む運動障害疾患(movement disorders)、Guillain-Barre症候群や多発性硬化症などの神経免疫疾患、てんかん、ALS、認知症などです。そして、もう一つの重要な業務は当院の根幹である救急部門(ER)を大きく支える総合内科で働く若い医師に対して、モチベーションを高めながら、かつ神経疾

患の診療レベルを高めることです。内科学会認定医や専門医の目指す病歴でさえ、電子カルテの時代の今は、コピー&ペーストで飾った病歴が多いことから、せめて当院の研修医は、そのような見せかけだけの臨床医にならないように強く願っています。

加えて神経疾患の治験も可能な限り進めています。より専門化、複雑化する中で、今後の本邦の医療システムを考え、特に、総合内科や救命救急科などの神経疾患を専門としない医師が、いかに短時間で効率よく、神経疾患を正しく診断して治療ができるかを目指しています。

当院神経内科は、総合内科とともに日本神経学会専門医准教育施設になっていることに加え、当科単独で日本認知症学会の教育施設となっています。これからの日本では、患者数400万人以上となった認知症の理解なくしては成人の診療が行えなくなることは確実で、診断、そして治療へのアプローチ、治験、加えて鎌倉並びに逗葉医師会の診療機関や介護施設との連携を行っていきます。

消化器内科



■森山 友章 消化器内科部長

日本消化器病学会指導医、
日本消化器内視鏡学会指導医、
日本内科学会認定内科専門医、
日本救急医学会専門医

■佐々木 亜希子

日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会、
日本消化器内視鏡学会、日本消化管学会、
日本腹部救急学会

■金子 登（非常勤）

日本内科学会認定内科専門医、
日本救急医学会認定医、
日本人間ドック学会認定医、認定産業医

1. 展望

救急医療を主とする病院であり、消化管出血など緊急内視鏡を必要とする患者さんが多数来院される病院であるが、常勤医2名体制では十分対応しきれていない現状がある。今後常勤医の増員と肝胆膵疾患治療センターとの連携を密にすることにより、救急医療に十分対応できる体制を作る予定である。また数多く経験した症例につき学問的検討を加え、学会発表、論文発表をさらに多数行う予定である。

2. 診療実績

上部消化管内視鏡検査総数	8123件
内視鏡的粘膜切除術 (EMR)	63件
内視鏡的止血術	421件
食道静脈瘤結紮術 (EVL)	94件
胃瘻造設	43件
内視鏡的ステント造設術	11件
内視鏡的バルーン拡張術	66件
内視鏡的異物摘出術	55件
下部内視鏡検査総数	4244件
内視鏡的粘膜切除 (EMR)・ポリープ切除術	978件
内視鏡的止血術	104件
内視鏡的バルーン拡張術	2件

3. 学術業績

学会発表

1. 佐々木亜希子, 森山友章, 長主直子, 関浩孝: 大腸粘液癌の一例. 第83回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2012年5月
2. 佐々木亜希子, 森山友章, 長主直子, 関浩孝: 大動脈浸潤食道癌の一例. JDDW 2012 (内視鏡学会総会), 神戸, 2012年10月

肝・胆・膵疾患治療センター



■賀古 眞 センター長

日本肝臓学会指導医、日本消化器病学会指導医、
日本消化器内視鏡学会指導医、
日本内科学会認定内科医

■金原 猛 部長

日本肝臓学会認定肝臓専門医、
日本消化器病学会指導医、
日本内科学会認定内科医、がん治療認定医、
日本消化器内視鏡学会

■魚嶋 晴紀

日本肝臓学会、日本消化器病学会、
日本消化器内視鏡学会、
日本内科学会認定総合内科専門医、
日本腹部救急学会、日本門脈圧亢進症学会、
日本静脈経腸栄養学会

1. 展望

本センターはH21年に賀古眞により開設された、肝臓疾患を中心とした疾患に対するセンターである。当初は慢性肝疾患を中心に外来診療を行い、入院が必要な慢性肝疾患に続発する肝癌・肝硬変疾患は総合内科と連携を行い加療を行ってきた。H23年8月・H24年4月より、スタッフの増員により活動範囲が拡大。急性期胆膵疾患が対応可能となり、食道静脈瘤・重症急性膵炎等も24時間対応可能となる。さらに、C型慢性肝

炎では最先端の治療を導入し、肝細胞癌治療においても放射線科との連携により、神奈川県下でも有数の治療実績となる。現在では学会活動も積極的に行い、本邦における消化器病学会、内科学会、肝臓病学会を中心に発表を行い、今後は十分な症例の蓄積を行い、海外での発表も予定している。H24年5月より医師主導臨床研究も開始し、今後も複数の研究を予定している。肝臓病教室も定期開催する予定である。

2. 診療実績

IFN 3剤併用療法	22名
(IFN全体としては新規31名)	
RFA	50例
肝のう胞穿刺	6例
ERCP	272例
胃食道静脈瘤治療	32例
TACE (TAI含む)	71例
BRTO	8例
PSE	5例

3. 学術業績

学会発表

1. 照井仁, 魚嶋晴紀, 賀古眞, 築山俊毅:
Hemosuccus pancreaticus、仮性膵嚢胞に対してIVR治療が奏功しえた一例. 第318回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2012年2月
2. 所晋之助, 魚嶋晴紀, 賀古眞, 築山俊毅: Cone-beam CT を使用した経静脈的肝生検の有用性の検討. 第319回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2012年5月
3. 宮本雄気, 魚嶋晴紀, 金原猛, 賀古眞: 黄疸の軽快、増悪が繰り返され診断に苦慮した薬物性肝障害の一例. 第320回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2012年7月

4. 増田作栄, 魚嶋晴紀, 所慎之介, 金原猛, 賀古眞: PEG-IFN α -2 b、リバビリン、テラプレビル3剤併用療法中に急性膵炎を併発したI型高ウイルス量C型慢性肝炎の一例. 第321回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2012年9月
5. 富山周作, 所慎之介, 魚嶋晴紀, 金原猛, 賀古眞: 非代償性肝硬変患者におけるBCAA服用コンプライアンス不良群と良好群におけるイベント発生率の後ろ向き検討. 第322回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2012年12月
6. 日比美智子, 成田健太郎, 菅波由, 賀古眞: 胸腔鏡下横隔膜瘻孔閉鎖術と腹腔静脈短絡術が奏功した難治性肝性胸水の一例. 第582回日本内科学会関東地方会例会, 東京, 2012年2月
7. 角谷拓哉, 稲田悠, 魚嶋晴紀, 賀古眞: 急性膵炎ガイドライン重症度変更後における合併症、予後因子の後ろ向き検討. 第109回日本内科学会総会, 東京, 2012年4月
8. 魚嶋晴紀, 金原猛, 賀古眞: 肝細胞癌破裂51例における破裂関連因子の後ろ向き検討. 第98回日本消化器病学会総会, 東京, 2012年4月
9. 古川龍太郎, 魚嶋晴紀, 賀古眞: 急性膵炎を合併した分類不能な粘液産生嚢胞性膵腫瘍の一例. 第587回日本内科学会関東地方会例会, 東京, 2012年5月
10. 魚嶋晴紀, 金原猛, 賀古眞: C型肝細胞癌における発癌年齢と肝線維化の推移の検討. 第20回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2012年10月
11. 魚嶋晴紀, 金原猛, 賀古眞: 二例の高齢A型肝炎における重症化に関するウイルス側因子の検討. 第39回日本肝臓学会東部会, 東京, 2012年12月

4. その他 活動

肝臓病教室

内容: 慢性肝疾患 (慢性肝炎、肝硬変、肝癌、自己免疫性疾患等) は高血圧、糖尿病と同様に、長年にわたり診療を受けつつ生活する疾患であり、患者さんに対する教育や病気に関する情報の提供は不可欠です。また、慢性肝疾患患者さんは検査の意義、食事内容、病期を理解することで、より良い治療効果が得られることが知られており、医師、看護師、薬剤師、検査技師、栄養士、MSWを含めたチームの連携が必要です。この連携を行う方法として肝臓病教室は近年普及しつつあるシステムで、当院でも患者さんのための肝臓病教室を導入しました。

院内活動【肝臓病教室準備委員会】

- 第1回 2012年7月第4週火曜日
- 第2回 2012年8月第4週火曜日
- 第3回 2012年9月第4週火曜日
- 第4回 2012年10月第4週火曜日
- 第5回 2012年11月第2週火曜日
- 第6回 2012年12月第4週火曜日

院外活動【肝臓病教室】

- 第1回 2012年11月

循環器科



■齋藤 滋 副院長、循環器科部長

日本心血管インターベンション学会副理事長・理事
評議員・指導医、
日本心血管カテーテル治療学会理事評議員・指導医、
日本心臓病学会評議員・Fellow (FJCC)、
日本循環器学会認定循環器専門医、
日本内科学会認定内科医、
FACC (米国心臓病学会正規会員)、
FSCAI (米国冠動脈造影治療学会正規会員)、
日本心臓ペースティング・電気生理学会、日本心電学会、
臨床修練指導医認定医

■赤坂 武 循環器科部長

Sanford-Burnham Medical Research Institute 客員
研究員

■高橋 佐枝子 循環器科部長

米国心臓病学会正規会員 (FACC)、
日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医

■松実 純也 循環器科部長

日本内科学会専門医、日本循環器学会循環器専門医、
日本心血管インターベンション治療学会専門医、
植込み型除細動器研修証取得、
「ペースティングによる心不全治療」研修証取得、
Fellow of Asian Pacific Society of Interventional

Cardiology (FAPSIC)

■村上 正人 循環器科医長

不整脈専門医、日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会専門医、
植込み型除細動器／ペースティングによる心不全治療研
修証取得、医学博士

■田中 稯 循環器科医長

日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会総合内科専門医、
日本心血管インターベンション治療学会専門医、
日本高血圧学会高血圧専門医、
米国内科学会上級会員 (FACP)、
日本周術期経食道心エコー委員会認定医、医学博士

■末永 英隆

日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
植込み型除細動器研修証取得、
「ペースティングによる心不全治療」研修証取得

■山中 太

日本内科学会内科認定医、
日本循環器学会循環器専門医、
心臓リハビリテーション指導士

■水野 真吾

現在Brigham-Women's Hospital (Boston, USA) 留学中
日本内科学会内科認定医、
日本循環器学会循環器専門医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医

■和田 匡史

不整脈専門医、日本循環器学会循環器専門医、
日本内科学会内科認定医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
植込み型除細動器／ペースティングによる心不全治療研
修証取得、医学博士

■杉立 和也

日本循環器学会循環器専門医、
日本心血管カテーテル治療学会認定医、
日本内科学会内科認定医、
植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療研
修証取得

■谷 友之

日本内科学会内科認定医

■穴戸 晃基

日本循環器学会専門医、
日本心血管インターベンション治療学会認定医、
日本内科学会認定医、
植え込み型除細動器／ペースングによる心不全治療
研修証取得

■飛田 一樹

日本内科学会内科認定医、
日本心血管カテーテル治療学会認定医、
日本周術期経食道心エコー認定 (JB-POT)

■落合 智紀

日本内科学会内科認定医、
日本心血管カテーテル治療学会認定医

■古橋 杏輔

■森山 典晃

■田中 慎司 非常勤・湘南厚木病院循環器科部長

日本心血管インターベンション学会指導医、
日本心血管カテーテル治療学会指導医

循環器科展望

当循環器科は、1988年11月1日の開院に先立つ1カ月前の10月1日に当院設立準備委員会開催と共に、齋藤 滋が第1号職員として赴任して以来、文字通りゼロからスタートしました。私たちは、開院以来1年365日1日24時間体制で循環器疾患の救急に最高の技術と設備を持って対応し、さらにその中から世界に向けて

医療を発展させるべく医学論文を発信することをモットーに邁進してきました。このように最初1人で始まった当科ですが、現在では湘南厚木病院、東京西病院を含めて広範な地域における循環器診療および臨床研究に日夜奮闘しております。

2010年に開院となりました新病院での心臓センターとして、外来・病棟・検査・治療が1つのフロアに機能的にまとめられた効率的な診療・研究体制の中、湘南鎌倉総合病院循環器科は、冠動脈インターベンションの世界では既に世界中の誰しもが知る病院となっていますが、今後ますます世界をリードする臨床研究を発表し、世界の医学をリードし、全世界の循環器疾患に悩む患者さんを助けていきたいと思ひます。

診療実績

年間入院患者数：4899名
平均入院日数：3.7日
冠動脈造影検査数：3594件
冠動脈造影CT件数：1394件
PCI総件数：926件
PTA件数：201件
ペースメーカー植え込み件数：162件
カテーテルアブレーション件数：307件

業績

齋藤 滋

(1) 論文発表

1. Saito S, Iwabuchi M, Muramatsu T, Namiki A, Matsumura T, Igarashi K, Yajima J, Nakamura S, Allocco DJ, Dawkins KD
PLATINUM Japan SV: platinum chromium
everolimus-eluting stent in small vessels
Cardiovascular Revascularization Medicine;
Volume 13, Issue 2, March–April, 147-148, 2012

2. Saito S, Nakamura S, Fujii K, Nakamura M, Isshiki T, Hirayama H, Kikuchi T, Fujita H, Nonogi H, Mitsudo K, Kimura T, Igarashi K, Saito K, Alexandra J. Lansky, Gregg W. Stone, Honda Y, Waseda K, Peter J. Fitzgerald, Krishnankutty Sudhir

Mid-Term Results of Everolimus-Eluting Stent in a Japanese Population Compared With a US Randomized Cohort: SPIRIT III Japan Registry With Harmonization by Doing

The Journal of Invasive Cardiology; 24(9):444-450, 2012

3. Saito S
Expectation for new-generation drug eluting stents
Nihon Rinsho; February;69(2):237-9. Review, 2012

(2) 国際学会発表等

1. Angioplasty Summit 2012-TCT Asia Pacific
(The New Convention Center of Sheraton Grande Walkerhill, Hotel, Seoul, Korea) April 25-27, 2012 (Dr. Saito cancelled in 2011 due to Tohoku earthquake)
Operator: Live Case Transmission from Dongsan hospital to Live Case Session 1 & 3
2. EURO-PCR2012
(Palais des Congrès de Paris) May 15-18, 2012
Operator : Treatment of left main and multivessel disease - Tools & Techniques (TNT) :
Live demonstration from Clinique Pasteur Toulouse
Chairperson: ACS in elderly patients: is it really different?
3. Transcatheter Cardiovascular Therapeutics 2012
(Miami Beach Convention Center, Miami, FL, USA) October 22- 26, 2012

Moderator: HBD Session : Section I. Keynote:
The Japan-US Medical Device Landscape 2012
Discussant: Plenary Session III. A Memorial to Geoffrey O. Hartzler

Discussant: HBD Session : Section IV. Japan-US Synergies in Coronary Intervention

Lecturer: HBD Session : Section IV. Japan-US Synergies in Coronary Intervention: Bioabsorbable Stent Components and Stents

Live Case Discussant: Section III : Live Case from Scripps Green Hospital: How to Treat
Theater: Coronary Artery Disease I

4. 23th Great Wall International Congress of Cardiology (GW-ICC) & 6th Transradial Coronary Intervention summit (TCI)

(Beijing, China) October 12-14, 2012

Lecturer: TRI session -About TRI

Chair: Dragon trial kick-off meeting

5. China Interventional Therapeutics (CIT) 2012, TCT at CIT

(China National Convention Center (CNCC), Beijing, China) March 15-18, 2012

Operator: Live Demonstration from Fu Wai Hospital

6. The China Heart Congress 2012

(Beijing, China) August 10-11, 2012

Operator: Live Demonstration from Fu Wai Hospital

Chairperson: TRI case competition

7. 8th Trans-Radial Intervention Course-TRICO

(Ahmedabad, India) November 3-4, 2012

Course Director/Operator

8. CRT (Cardiovascular Research Technologies) 2012

(Omni Shoreham hotel, Washington DC. USA) February 5-7, 2012

Speaker: CTO Forum—The Radial Approach for CTO PCI: Utility in the Retrograde and the Antegrade Approaches

Speaker: CTO Forum—Interesting Case

Panelist : CTO Forum—Live Case Demonstration from Kusatsu Heart Center, Kusatsu, Japan

Speaker : Best Abstract Breakfast I—PLATINUM Japan SV: Platinum Chromium Everolimus-Eluting Stent in Small Vessels

Speaker: Japan-U.S. Synergies for Medical Device Innovation: A Harmonization by Doing (HBD) Educational Sympo—Heart Disease Speaks Both Japanese and English: Working Together is Better for Patients, Better for Industry, Better for Regulators

Panelist: Japan-U.S. Synergies for Medical Device Innovation: A Harmonization by Doing (HBD) Educational Sympo—Panel Discussion: The Japan-USA Medical Device Landscape

Moderator: Japan-U.S. Synergies for Medical Device Innovation: A Harmonization by Doing (HBD) Educational Sympo—PART III: CORONARY STENT INNOVATION: BIOLOGICAL POOLABILITY EAST & WEST

Moderator: Japan-U.S. Synergies for Medical Device Innovation: A Harmonization by Doing (HBD) Educational Sympo—Panel Discussion: Coronary Stent Innovation: Biological Poolability East & West

Panelist: Japan-U.S. Synergies for Medical Device Innovation: A Harmonization by Doing (HBD) Educational Sympo—Panel Discussion: Structural Heart Disease and Devices In Japan and USA

9. Transradial Experts to meet in Erlangen – Current best practice for coronary and non-coronary interventions

(Department of Medicine 2-Cardiology and Angiology, The University Heart Center, Erlangen, Germany) February 10-11, 2012

Chair & Lecturer: Adoption of the TRA in Japan
Operator: Live case V

Lecturer: Glimpse into the future: new materials and new developments

10. XXXIV Congress of the Brazilian Society of Interventional Cardiology (SBHCI) – 2012

(Centro de Convenções da Bahia, Salvador, Brazil) June 20-22, 2012

Discussant: Intervention in Left Main: International Live Case Session by Dr. Jean Fajadet from Clinical Pasteur, France

Operator: Live Case (CTO) from Hospital Espanhol Salvador

Case Presentation: How I solved it (or not) “My worst complication”

11. 5th ASIAN TRI Seminar 2012 ‘TRI for Daily PCI’ in Ho Chi-Ming, Vietnam

(Cho Ray Hospital, Ho Chi Minh City, Vietnam) March 3, 2012

Operator: Live Demonstration 3,4

Lecturer: Complications affiliated with TRI

Chairman: Live Demonstration 1

12. The 10th Gwangju Interventional Cardiology Symposium (GICS 2012)

GICS Conference

(Heart Center of Chonnam National University Hospital, Gwangju–South Korea) June, 2012

Observer to Operator: Live Demonstration #5

- Lecturer: Luncheon Symposium
13. The 5th CTO ICPS Workshop Massy
(Massy Opera, Massy, France) March 9-10, 2012
Live Case Operator
Lecturer: New wires from Japan
Spot Lecturer: Downsizing the CTO equipment
14. GulfPCR-GIM 2012
(Dubai, UAE) December 15-16, 2011
Chairpersons: Introduction - Sponsored Session:
Terumo/Eurocore/Meril Life Sciences
Chairpersons: Introduction - How should I treat
a patient with coronary chronic total occlusion
and saphenous vein graft disease?
Speaker: How would I treat? - How should I treat
a patient with coronary chronic total occlusion
and saphenous vein graft disease?
Speaker: CTO tips and tricks - How should
I treat a patient with coronary chronic total
occlusion and saphenous vein graft disease?
15. India Live 2012
(Delhi, India) February 24- 26, 2012
Lecture: Retrograde technique for chronic total
occlusion: Avoiding pitfalls and complication
Operator: Live cases at Madras medical mission
16. The Follow Up Seminar with TERUMO Medical
& JICA
(Mexico City, Mexico) March 21-24, 2012
Symposium Cardiopatía e Intervencionismo
Coronario ("CAPULIN ROOM" Hotel Nikko)
Lecturer: TRI benefit in Japan
17. GI² - Global Summit on Innovations in Interventions
(Hospital Beneficência Portuguesa , São Paulo,
Brazil) April 11-13th, 2012
Operator: How would you approach a complex
CTO : Terumo Lunch Symposium
Panelist: Live cases from Hospital Beneficência
Portuguesa de SP at WTC Theater
Case Presentation: New Techniques and innovative
strategies for old problems at WTC Theater
18. THEORETICAL-PRACTICAL WORKSHOP
(FUNDACION CARDIOINFANTIL - INSTITUTO
DE CARDIOLOGIA, Bogota, Colombia) April
16-17, 2012
Operator
Lecturer: CTO, Tips & Tricks from an Expert
Lecturer: Radial Technique. Tips & Tricks from
an Expert
19. The 14th Scientific Annual Congress of Chinese
Society of Cardiology(CSC)
(Shijiazhuang city, Hebei province, China) June
15-16, 2012
Lecture: Bioresorbable vascular scaffold (BVS)
Operator: Live Demonstration from Hebei
Province 2nd Medical Hospital
20. Kiemeneij & Saito TRI 20th Anniversary Project
(Sapporo, Asahikawa, Sendai, Kokura, Fukuoka,
Kobe, Osaka, Tokyo) July 1-8, 2012
Operator&Lecturer
21. St. John Hospital Site Visit for TRI Course
(St. John Hospital, Detroit, USA) October 8-10,
2012
Operator&Lecturer
- 赤坂 武
- (A) Peer Reviewed Publications
Scimia MC, Hurtado C, Ray S, Metzler S, Wei K,
Wang J, Woods CE, Purcell NH, Catalucci D,
Akasaka T, Bueno OF, Vlasuk GP, Kaliman P,

Bodmer R, Smith LH, Ashley E, Mercola M, Brown JH, Ruiz-Lozano P. APJ acts as a dual receptor in cardiac hypertrophy. *Nature*. 2012 Aug 16;488(7411):394-8.
Atlanta, October 16, 2011

(B) Presentations

1. The Role of Cytochrome P450 Reductase and Oxidative Stress in a Heart Failure Model: A Lesson from Fruit Flies
The 76th annual scientific meeting of the Japanese Circulation society
2. Protective roles of heat shock proteins in heart function
Sanford-Burnham Medical Research Institute Seminar
San Diego, CA USA, May 24, 2012

(C) Research Support

1. NIEHS Centers for Neurodegenerative Science (Parkinson Group)
2. Sanford Children's Health Research Center

高橋 佐枝子

(1) 論文

Prediction of progression of coronary artery disease and clinical outcomes using vascular profiling of endothelial shear stress and arterial plaque characteristics: the PREDICTION Study
Stone PH, Saito S, Takahashi S, PREDICTION Investigators.
Circulation. 2012 Jul 10;126(2):172-81.

(2) 発表

AHA 2012 発表 ; The Presence of a Coronary Obstruction Influences the Natural History of an Adjacent Downstream Obstruction

松実 純也

学会発表

1. 2012年3月 米国心臓病学会
①Long-term outcomes of endovascular therapy for chronic total occlusion of the superficial femoral arteries
②Long-term outcomes of diabetic and non-diabetic patients following endovascular therapy for superficial femoral artery diseases
2. 2012年3月 日本循環器学会総会
①Long-term outcomes of patients on hemodialysis vs. non-hemodialysis following endovascular therapy for critical limb ischemia
②Differences in the long-term outcomes of patients with intermittent claudication and critical limb ischemia following endovascular therapy
③Impact of cilostazol on the long-term outcomes following endovascular therapy in patients with iliac and/or femoropopliteal artery occlusive disease

田中 穰

(1) 研究発表

1. Tanaka Y. : Comparison of Transradial Versus Transfemoral Approach for Coronary Angioplasty of Chronic Total Occlusions. American College of Cardiology 61st Annual Scientific Session & Expo and ACC-i2 with TCT, Chicago, 2012, March.

2. 田中穰 : Feasibility of Transradial Coronary Intervention for the Treatment of Chronic Total Occlusions, 第21回日本心血管インターベンション治療学会, 新潟, 2012, July.

(2) その他

1. Tanaka Y. : Discussant, Kamakura Cardiovascular Forum, Yokohama, 2012, Dec.

末永 英隆

2012年

1. 日本不整脈学会学術集会：ポスター
当施設でのCRT upgradeを行った患者さんのICD
植え込み時における検討
2. カテーテルアブレーション関連秋季大会：口述
若年者の難治性神経調節性失神に対してcardiac
neuroablationが有効であった一例

水野 真吾

米国心臓病学会 ACC 2012 in Chicago

1. Transradial approach in primary percutaneous coronary intervention for acute myocardial infarction in the elderly aged >75 years
2. Impact of Atrial Fibrillation on Long-term Clinical Outcome in patients with acute myocardial infarction
3. Clinical Outcome and J wave After Primary Percutaneous Coronary Intervention in ST Elevation Myocardial Infarction
日本循環器学会 JCS 2012 in Fukuoka
4. The Clinical Outcome in Patients with a History of Atrial Fibrillation with ST-segment Elevation Myocardial Infarction for 3-year follow up
5. Transbrachial Intervention for Renal Atherosclerotic

stenosis Using a Novel 4.5-Fr Sheathless Guiding Catheter

山中 太

1. 2012年3月 日本循環器学会 OE
2. 2012年3月 ACC poster
Effectiveness of statin therapy for elderly acute myocardial infarction patients with normal levels of low-density lipoprotein cholesterol.
Yamanaka F, Jeong MH, Saito S et al. Int J Cardiol. 2012 Jun 28

杉立 和也

学会発表

1. 1-Year Clinical Outcomes of Everolimus-Eluting Stent implantation for Chronic Total Occlusion. CVIT2012, Niigata, July , 2012
2. 1-Year Clinical Outcomes of Everolimus-Eluting Stent implantation for Chronic Total Occlusion. AsiaPCR2013, Singapore, January 24, 2013
3. Mid-term clinical outcome of Biolimus A9 eluting stent (BES) and Predictors of Target Lesion Revascularization(TLR). JCS2013, Yokohama, March 17, 2013

穴戸 晃基

(1) 論文

The 4 Fr mother-child technique with side-branch protection for treatment of complex bifurcation lesions
Shishido K, MD; Takeshita S, MD; Tanaka Y, MD; Saito S, MD
Eurointervention 2012;8:634-637

(2) 学会発表

1. Impact of Everolimus-Eluting Stents (EES) on Clinical Outcomes in Patients on Chronic Hemodialysis: Comparison with Other Drug-Eluting Stents (DES). 第21回日本心血管インターベンション治療学会, CVIT2012, 学術集会, 新潟, 2012年7月
2. 分岐部の複雑病変に対して側枝ワイヤー保護下、4Fr mother-child techniqueを用いて治療を行った一例. 第40回日本心血管インターベンション治療学会, 関東甲信越地方会, 大手町サンケイプラザ, 2012年5月
3. 冠動脈血行再建術を行った糖尿病性腎症透析患者の特徴と予後. 日本心臓病学会, 第60回学術集会, 金沢, 2012年9月
4. Coronary Artery Bypass Grafting Versus Percutaneous Coronary Intervention with Drug-Eluting Stents for Multivessel Coronary Artery Disease in Patients with Hemodialysis. JCS 2013, 第77回日本循環器学会学術集会, シンポジウム 重症冠動脈疾患患者の冠動脈血行再建: PCIとCABGの進歩, 横浜, 2013年3月

Singapore, 2013.1

4. The Prognostic Impact of Renal Dysfunction and Anemia in Patients with Acute Myocardial Infarction. American College of Cardiology (ACC) 2013 Scientific Session, San Francisco, 2013.3

飛田 一樹

学会発表

1. Clinical Impact of RAAS Inhibitors on Reduction in Hospitalization for Heart failure Following Acute Myocardial Infarction. 第77回日本循環器学会学術集会, 2013年3月
2. Impact of Crush Stenting on Restenosis of Side Branch Following Percutaneous Coronary Intervention for Bifurcation Lesions
Five-French Transradial Coronary Intervention for Complex Lesions Using a Four-French Child Catheter
第21回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 2012年7月

一般演題

1. The Prognostic Impact of Renal Dysfunction and Anemia in Patients with Acute Myocardial Infarction
2. The Impact of Critical Limb Ischemia on Outcome in Hemodialysis Patients after Coronary Angioplasty
3. The Clinical Characteristics and Prognosis in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention with Diabetic Nephropathy on Hemodialysis. ASIAPCR/SINGLIVE 2013,

小児科



■山本 剛 小児科部長

日本小児科学会専門医

■衣川 直子

日本小児科学会専門医、
日本血液学会専門医・指導医

■高峰 紀子

日本小児科学会専門医、
日本東洋医学会認定漢方専門医

■島 貴志

日本小児科学会専門医

■門間 和夫（非常勤）

日本小児科学会認定医、
日本循環器学会認定循環器専門医

■市堰 浩（非常勤）

■田川 不知夫（非常勤）田川医院院長

精神保健指定医、
日本精神神経学会認定精神科専門医、
日本総合病院精神医学会専門医

■阿部 知子（非常勤）

■脇田 傑（非常勤）

■中村 佳恵（非常勤）

■齋藤 美和子（非常勤）

■弘中 文代（非常勤）

■平田 雅昭（非常勤、福岡徳洲会病院）

■渡邊 能久（非常勤、福岡徳洲会病院）

■小笠原 卓（非常勤、福岡徳洲会病院）

■川野 聖明（非常勤、福岡徳洲会病院）

1. 展望

平成22年9月1日、湘南鎌倉総合病院は新病院へと移転し2年が経ち、小児科スタッフも一新し新たな体制で診療を行って参ります。地域の先生方との連携もこれまで以上に進めて行きたいと考えております。これまでのかかりつけの患者さんはもちろん、周辺地域の子ども達・その御家族の皆さんに安心して頂ける医療を提供していききたいと思います。

■地域における小児医療（病診連携の強化）

地域のクリニックの先生方との医療連携の強化は当院における最重要課題であると考えております。患者さんたちのかかりつけ医である先生方との連携を密にすることで、地域の子ども達への細かな対応が可能になると考えています。具体的には、当院主催での小児科カンファレンス（症例検討会）を開催し、地域の先生方にも参加して頂く形で意見交換を行いたいと考えます。第1回の症例検討会を平成24年5月26日に開催いたしました。こういった機会を通じて、湘南地区における小児医療の問題点や病診連携のスムーズな運用など話し合いの場となればと考えております。

また、ご紹介いただいた患者さんの急性期管理や検査が終了後には、かかりつけの先生方への逆紹介を積極的に行い、地域の患者さんへの医療提供をできればと考えています。

検査目的・入院目的での御依頼、患者さんの診療情報提供、各専門外来へのご紹介など総合病院の小児科として周辺地域の先生方とともに小児医療に携わってきたいと考えます。

■周産期医療

当院は神奈川県内でも有数の分娩件数を担っており、小児科も年間1000人以上の新しい命に携わっています。しかし、これまでは早産児や異常新生児の管理は他院へ搬送せざるをえない状況でした。産科スタッフとともに周産期医療体制を強化し、平成24年10月1日よりNICUを開設しました。late preterm infant(後期早産児：在胎週数34週～36週で出生した新生児)を中心に在胎週数32週以降、出生体重1500g以上の異常新生児への対応が可能となりました。当面は当院で分娩となった病的新生児の対応のみとなりますが、順次近隣周産期施設との連携を図っていきたいと考えています。今後も地域の皆さんがより安心してお産に望める環境作りをしていきます。

■小児救急診療

当院では24時間365日体制での救急診療体制を敷いています。小児科に関しても救急総合診療部(ER)とも協力しながら、小児救急医療を24時間体制で対応します。待ち時間が長いなどの問題も多々ありますが今後改善していきたいと考えています。

■専門外来

平日午後に各専門医による専門外来も行っております。これまで以上に、専門性・質の高い医療の提供にも心がけていきます。

【専門外来のご案内】

喘息外来：毎週	月曜	山本
漢方外来：毎週	火・水曜	高峰
循環器外来：毎週	火曜	門間
	第1・3水曜	脇田
内分泌外来：毎週	月曜午後・金曜	田苗
神経外来：第1・3月曜		市堰

月1回	土曜	永田
腎臓外来：第2	水曜	中村
思春期外来：第1	月曜	阿部
予防接種：月・火・水		
担当医(山本・衣川・高峰・門間・斉藤)		
乳児健診：木・金		
担当医(山本・神道・高峰・門間・弘中)		

2. 診療実績

【外来時間】

- (1) 一般外来：月曜～土曜日
午前診(9時～12時)
夕診(17時～19時)
- (2) 専門外来：月曜～金曜日、予約制(*上記参照)
午後診(13時30分～17時)
- *小児科外来へお問い合わせください。
- (3) 救急小児外来：24時間、365日対応
*小児科・ERのスタッフが協力し24時間・365日診療体制をとります。

■表1 小児科外来患者数 年次推移

	2010年	2011年	2012年
1月	937	1,004	1,245
2月	892	981	1,247
3月	982	1,097	1,438
4月	940	1,023	1,155
5月	902	1,023	1,252
6月	1,021	1,229	1,257
7月	1,043	1,225	1,454
8月	942	1,422	1,468
9月	834	1,168	1,211
10月	895	1,158	1,292
11月	1,051	1,215	1,280
12月	1,127	1,435	1,296
合計	11,566	13,980	15,595

■表3-2 小児科入院患者数 年次推移

	2010年	2011年	2012年
1月	61	39	56
2月	71	29	50
3月	55	37	61
4月	78	54	55
5月	63	49	38
6月	79	43	72
7月	63	44	69
8月	62	59	66
9月	67	65	50
10月	59	58	68
11月	54	47	56
12月	66	70	57
合計	778	594	698

■表2 救急小児患者数 年次推移

	2010年	2011年	2012年
1月	440	580	736
2月	365	590	842
3月	346	474	632
4月	366	376	439
5月	447	465	494
6月	378	430	419
7月	435	498	567
8月	291	369	415
9月	364	427	451
10月	385	435	416
11月	416	416	450
12月	600	597	592
合計	4,833	5,657	6,453

■表4-1 分娩件数 年次推移

	2010年	2011年	2012年
1月	81	98	101
2月	74	106	112
3月	72	103	91
4月	71	111	89
5月	84	112	85
6月	108	88	100
7月	83	94	108
8月	92	126	94
9月	99	112	88
10月	89	118	104
11月	96	90	93
12月	118	105	106
合計	1,067	1,263	1,171

■表3-1 小児科紹介患者数 年次推移

	2010年	2011年	2012年
1月	10	26	20
2月	10	18	25
3月	18	19	41
4月	30	20	33
5月	15	24	46
6月	30	46	38
7月	33	27	45
8月	19	35	50
9月	24	27	39
10月	15	21	28
11月	22	31	36
12月	31	39	25
合計	257	333	426

■表4-2 新生児入院件数 年次推移

	2010年	2011年	2012年
1月	80	98	101
2月	74	106	112
3月	71	103	91
4月	71	111	91
5月	84	109	85
6月	107	87	100
7月	83	94	108
8月	91	126	96
9月	99	111	89
10月	89	118	104
11月	96	89	93
12月	117	105	104
合計	1,062	1,257	1,174

■表4-3 周産期件数

	2010年	2011年	2012年
分娩件数	1,067	1,263	1,171
出生数	1,062	1,257	1,174
双胎	4	4	6
低出生体重児	70	86	81
極低出生体重児	0	0	0
超低出生体重児	0	0	0
早産児	28	36	35
死産数	16	6	2

(2) 小児循環器レクチャー（門間）

：毎週火曜日 15時30分～

(3) 小児one pointレクチャー（衣川）

：毎週木曜日 16時～

(4) 湘南鎌倉総合病院小児科症例検討会

：年間2回開催

3. 学術業績

(1) 平成24年4月21日 第115回日本小児科学会

非典型的な臨床経過を呈し夜間発作時ビデオ撮影
が診断に有用であった百日咳の一例
木下大輔，山本剛，衣川直子

(2) 平成24年5月26日 第1回症例検討会

1. 非典型的な臨床経過を呈し夜間発作時ビデオ撮影
が診断に有用であった百日咳の4歳女児例
発表者：木下大輔
2. 長期間にわたる下痢・嘔吐より診断に至ったVIP
産生神経芽腫の1歳女児例
発表者：友邊雄太郎
3. 腹痛が先行し著明な十二指腸浮腫を認めたアレルギー性紫斑病の2例
発表者：大谷岳人
4. 尿路感染症を反復しVUR IV度を認めた乳児例
発表者：木谷嘉孝
5. 息切れ、ふらつき、倦怠感、嘔吐といった不定愁
訴を主訴に来院した頭蓋内腫瘍の2例
発表者：関根一朗

4. その他

小児科カンファレンス

(1) 小児ERカンファレンス（山本）

：第1・4火曜日 17時～



■渡部 和巨 副院長、主任外科部長、研修委員長、
茅ヶ崎徳洲会総合病院院長代行兼務
日本外科学会指導医・専門医、
日本医工学治療学会呼吸器分科会会長、
AARC(米国呼吸療法学会)、ICRC(国際部会)、
executive committee、日本ヘルニア学会理事、
日本内視鏡外科学会評議員、
日本気胸・嚢胞性肺疾患学会評議員、
短期滞在手術研究会世話人、介護支援専門員、
臨床研修指導医、一般外科、呼吸器外科、
血管外科、内視鏡外科、ヘルニア、肛門外科

■服部 浩次 内視鏡外科センター長
日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科)、
日本外科学会外科専門医、
日本消化器外科学会認定医、消化器癌治療認定医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、
医学博士、名古屋市立大学医学部臨床教授、
日本短期滞在外科手術研究会世話人、
東海外科学会評議員、
Needlescopic Surger Meeting世話人、
内視鏡外科、日帰り手術、食道外科

■荻野 秀光 外科部長
日本外科学会専門医、日本脈管学会認定脈管専門医、
日本血管外科学会認定血管内治療専門医、
胸部大動脈・腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医、

臨床研修指導医、一般外科、血管外科

■河内 順 外科部長

日本外科学会外科専門医、日本救急医学会専門医、
一般外科、外傷外科

■下山 ライ 外科部長

日本外科学会外科専門医、
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、
検診マンモグラフィ読影認定医、
日本核医学会PET認定医、
インфекションコントロールドクター、
日本医師会認定産業医、臨床研修指導医、
緩和ケアに関する指導者研修会修了、
介護支援専門員、一般外科、腫瘍外科、薬物療法、
緩和ケア

■池谷 佑樹

日本外科学会外科専門医、一般外科、血管外科

■磯貝 尚子

一般外科、血管外科

■三宅 克典

一般外科、腎移植外科

■西田 智喜

第26期チーフレジデント

■平田 裕久

第26期チーフレジデント

■篠崎 伸明(非常勤) 湘南厚木病院院長

日本外科学会指導医、日本消化器外科学会認定医、
日本救急医学会認定医、日本透析療法学会認定医、
日本オストミー協会指導医、
日本内視鏡外科学会評議員、
日本医療マネジメント学会評議員、
日本クリニカルパス学会評議員、
短期滞在手術研究会世話人、一般外科、胸部外科、
内視鏡外科手術、介護支援専門員

■砂川 剛（非常勤） 名瀬徳洲会病院外科部長

日本外科学会外科専門医、消化器外科、
乳腺・甲状腺外科

■中山 文彦（非常勤） 松原徳洲会病院外科医長

一般外科

はじめに

1988年に湘南鎌倉総合病院が開院して以来、患者さんのために「常にメスのもてる内科医であれ」を理念にこれまでやってまいりました。24年が経過した現在もその理念を守り日々患者さんのために診療を続けています。個々のスタッフは一般外科医として外科疾患全体の診療に当たるほか、それぞれが得意とする専門領域をもち各々の疾患に対して診療にあたっています。また呼吸療法士、感染症ナース、創部・褥創・人工肛門ケアナース(WOCナース)、緩和ケア認定ナースなどの専門看護師が積極的に患者さんと外科医との間に入り高いレベルでの専門ケアをともに行なっています。

当科の特徴としては在院日数が9～10日と非常に短いこと、手術件数が年間3000件近くと非常に多く種類も多様であることがあげられます。日本ではじめて行われた日帰り手術は現在国内で定着し、当科においても全手術の約50%が日帰り手術センターで行なわれています。

院内には毎日当直医がおり、緊急時にはオンコールスタッフが30分以内に病院に来院可能であるため、これまで救急、緊急手術を断ったことは一度もありません。

またスタッフには介護支援専門員の資格をもっているものもあり、訪問看護・在宅医療を積極的行なっています。

診療内容

標榜科：外科・呼吸器外科・肛門科・気管食道科

対象疾患は呼吸器外科(気管・肺・縦隔などの良性・悪性疾患)、消化器外科(腹部消化器全般の悪性腫瘍、胆石症・痔などの良性疾患など)、乳腺・甲状腺外科・内分泌外科(乳癌・乳腺腫瘍、甲状腺・副甲状腺・副腎疾患など)、血管外科(胸腹部大動脈瘤・末梢血管・下肢静脈瘤・透析シャント造設など)と多岐にわたっております。また、腹部大動脈破裂・末梢血管閉塞・腸閉塞・腹膜炎・自然気胸・外傷などの緊急手術と広い範囲をカバーしており365日、24時間いつでも対応いたします。

腹腔鏡手術、胸腔鏡手術を1990年から導入し、患者さんに負担が少ない治療を率先して行なっています。

外来は月曜日から土曜日まで一般外来、専門外来を行なっています。

専門外来：胆石外来、下肢静脈瘤外来、肛門外来、呼吸器外来、血管外科外来、乳腺甲状腺外来、腫瘍外科外来

本年の動向

昨年より引き続き1月より4月まで第25期レジデントである三宅克典医師、中務秀一医師がチーフレジデントを務めました。1月に西村貞徳医師が後期研修医として着任しました(3月まで)。

4月より総谷哲也医師、飯島広和医師が入職し、後期研修のローテーションがスタートしました。

5月より第26期レジデントである平田裕久医師がチーフレジデントとして(10月まで)、佐藤雄生医師、木村慎一医師が後期研修医として着任しました(10月まで)。

6月よりチーフレジデントを修了した三宅克典医師が外科・腎不全外科スタッフとして就任しました。

11月より西田智喜医師がチーフレジデントとして、加藤一郎医師、西田智喜医師が後期研修医として着任しました。

また11月末にて磯貝尚子医師が退職しました。

診療実績

■手術

全手術件数：2988件

■呼吸器領域

当科の診療は早期肺癌から多臓器浸潤進行肺癌、気管腫瘍、縦隔腫瘍、重症筋無力症、自然気胸、手掌多汗症など多岐にわたっており、いわゆる定型手術と言われる呼吸器外科手術のみならず他科との連携によって広い範囲の胸部外科手術をおこなっています。

完全胸腔鏡下で可能な手術も多くありますが、“手術時間2時間以内、それを過ぎた場合には創部を延長することに拘泥しない”をモットーに安全・確実な手術を行っています。

○肺癌・悪性腫瘍手術

肺葉切除：16件（うち鏡視下13件）

縦隔腫瘍摘出術：1件

○良性疾患手術

自然気胸に対する胸腔鏡下肺部分切除術・レーザー焼灼術：39件

胸部交感神経節切除術：1件

■消化器領域

対象疾患は消化器全般にわたります。

悪性疾患としては食道・胃・大腸癌の根治手術のほか、肝臓癌・膵臓癌・胆道癌に対する手術、転移性肝癌・原発性肝癌に対するラジオ波による腫瘍焼灼術、経動脈的塞栓術・経動脈的化学療法などを行っています。

食道癌

切除可能な場合には進行例に対しては術前化学療法を施行した後、可能な限り胸腔鏡・腹腔鏡による低侵襲手術を心がけております。

切除不能食道癌または手術不耐例に対しては放射線腫瘍科と連携の上、化学放射線療法を行っております。

○食道悪性腫瘍手術

食道亜全摘術：3件

胃癌

早期胃癌に対しては可能な限り腹腔鏡手術を、進行胃癌に対しては従来通りの開腹手術を選択しております。根治性を高めるため治癒切除困難例を含む高度進行胃癌に対して術前化学療法としてCDDP+S1を2コース施行し、治癒切除をめざした治療を行っています。切除不能例・再発例に対しては全身化学療法のほか、経口的食道・胃・十二指腸ステント留置、バイパス手術なども行います。

○胃悪性腫瘍手術

胃全摘術：23件（うち鏡視下3件）

幽門側胃切除術：54件（うち鏡視下22件）

胃-空腸吻合術：6件

診断的腹腔鏡：2件

大腸癌

手術適応症例に対しては可能な限り腹腔鏡下手術を行います。遠隔転移を伴う高度進行例では導入化学療法後に原発巣および転移巣の手術を行っています。

進行・再発例に対しては分子標的薬を含む化学療法や、病勢制御・症状緩和のための放射線療法も積極的に行っております。

大腸癌は緊急で来院される方も少なくありませんが、人工肛門造設をふくむ緊急手術や経肛門的大腸ステント留置などは24時間対応可能です。

○大腸悪性腫瘍手術

結腸切除術：76件（うち鏡視下51件）

直腸切除・切断術：50件（うち鏡視下37件）

人工肛門造設術：20件

肝胆膵癌

切除可能例に対する根治手術のほか、経皮的胆道ドレナージ、経皮的・内視鏡的胆道ステント留置、ラジオ波焼灼術などの低侵襲治療も行っております。

また、切除不能例に対する放射線療法、化学療法も積極的に行っています。

○肝臓悪性腫瘍手術

肝切除術：4件

ラジオ波焼灼術：2件

○胆道悪性腫瘍手術

肝切除術：1件

胆管切除術：1件

胆嚢摘出術：1件

膵頭十二指腸切除術：6件

○膵臓悪性腫瘍手術

膵頭十二指腸切除術：9件

膵体尾部切除術：2件

良性疾患

当院は胆石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の日帰り手術を日本で初めて行い、現在では標準術式として認識されています。そのほか食道アカラシア、直腸脱、内痔核など良性疾患に対する手術や特発性食道破裂、胃十二指腸潰瘍穿孔、腸閉塞、大腸穿孔などの緊急手術も多数行っており、24時間365日対応しております。

○胃・十二指腸潰瘍

大網充填術：27件

開腹止血術：1件

○胃良性腫瘍

胃部分切除術：7件（うち腹腔鏡下3件）

○食道裂孔ヘルニア

腹腔鏡下噴門形成術：5件

○腸閉塞

癒着剥離術：47件（うち鏡視下1件）

小腸部分切除術：40件（うち鏡視下1件）

○急性虫垂炎

虫垂切除術：217件（うち鏡視下2件）

○大腸良性疾患（憩室・捻転など）

大腸切除術：31件

○肛門疾患

痔核根治術：127件（うちPPH法118件）

裂孔根治術：8件

痔瘻根治術：9件

肛門ポリープ切除術：3件

直腸脱手術：10件

肛門周囲膿瘍切開排膿術：15件

○胆石症

胆嚢摘出術：226件（うち鏡視下219件）

総胆管結石載石術：5件

胆管腸吻合術：1件

■乳腺甲状腺・内分泌外科

乳腺・甲状腺・副甲状腺・副腎などの疾患に対応しております。

診察および画像検査にて乳癌が疑われる場合、もしくは否定できない場合には、その日のうちに外来にて局所麻酔下に針生検による病理診断を行っております。また、ステレオマンモグラフィー下のマンモトーム生検も行っており、非浸潤癌の診断に大きく貢献しております。乳癌の手術では約60%が温存手術であり、腋窩リンパ節転移が疑われない場合には、色素法によるセンチネルリンパ節生検を施行しており、患者さんに対する負担の軽減につとめております。また、術前・術後化学療法、再発・転移例に対する化学療法も積極的に行っております。また全摘例であっても、患者さんの希望により当院形成外科にて乳房再建手術も行っております。

甲状腺癌のほか、副甲状腺疾患(原発性、二次性副甲状腺機能亢進症など)、副腎疾患(副腎腺腫、副腎癌、褐色細胞腫など)に対する手術も行っております。

乳腺

○乳腺良性疾患

乳腺膿瘍切開術：1件

乳腺腫瘍摘出術：4件

○乳癌

乳房部分切除術(センチネルリンパ節生検)：3件

乳房部分切除術(腋窩リンパ節郭清)：15件

単純乳房全摘術(郭清無し)：2件

乳房全摘術(センチネルリンパ節生検)：3件

胸筋温存乳房切除術(腋窩リンパ節郭清)：10件

甲状腺疾患

○良性疾患

腺腫摘出術：54件

○甲状腺癌

片葉切除術：1件

甲状腺癌全摘術：4件(両側頸部郭清1例を含む)

副甲状腺疾患

腺腫過形成手術：6件

副腎疾患

副腎摘出術：4件(うち鏡視下3件)

■血管外科

腹部大動脈瘤に対するステントグラフト術は症例数が増し、ステントグラフト実施基準管理委員会の定める指導医資格を取得いたしました。

閉塞性動脈硬化症に対してはバイパス術や血栓内膜摘除術と血管内治療のhybrid手術を積極的に導入しております。

血液透析の内シャント造設とその機能低下に対するシャント血管拡張やシャント再建術は可能な限り即日手術、即日退院で行っており、他施設からも多くの御

依頼を頂いております。

○大動脈瘤

腹部大動脈瘤人工血管置換術：8件

ステントグラフト内挿術(胸部)：33件

ステントグラフト内挿術(腹部)：66件

ステントグラフト内挿術(腸骨動脈)：12件

バイパス手術：2件

○末梢血管

末梢血管バイパス手術：15件

動脈内膜摘出術：4件

血管拡張術：37件

血管造影：7件

血管塞栓術：23件

○シャント

内シャント造設術：93件

動脈表在化：5件

シャント血栓除去・血管拡張術：480件

シャント血管結紮術：4件

パーマネントカテーテル留置術：10件

○静脈瘤

抜去切除術：182件

高位結紮術：43件

血管内レーザー治療：65件

鏡視下穿通枝切離術：2件

○その他

中心静脈輸液用ポート造設：35件

下大静脈フィルター留置術：1件

腹腔静脈シャント造設術：1件

■日帰り手術センター

1995年5月に日本で初めての日帰り手術を開始し、この10年間で他施設の日帰り手術に多くの影響を与えてきました。現在年間2000件以上の手術のうち50%が日帰り手術センターで行われています。今後同

日入院・同日手術がこれまで以上に多くなり、その意味でも日帰り手術センターの役割は大きいといえます。

○ヘルニア手術

鼠径ヘルニア根治術：369件

大腿ヘルニア根治術：6件

腹壁癭痕ヘルニア根治術：11件

臍ヘルニア根治術：7件

白線ヘルニア根治術：1件

○肛門手術

痔核根治術：127件（うちPPH法118件）

裂孔根治術：8件

痔瘻根治術：9件

肛門ポリープ切除術：3件

直腸脱手術：10件

肛門周囲膿瘍切開排膿術：15件

○胆石症

胆嚢摘出術：226件（うち鏡視下219件）

○静脈瘤

抜去切除術：182件

高位結紮術：43件

血管内レーザー治療：65件

鏡視下穿通枝切離術：2件

○多汗症手術

胸腔鏡下胸部交感神経切除術：1件

○その他

皮膚腫瘍・皮下腫瘍切除術：53件

リンパ節生検：33件（うち鏡視下3件）

■外傷外科

胸腹部や、多発外傷を中心とした一般外科の外傷入院は平均して一月6人程です。特に多発外傷で全身状態が不良の患者さんは安定化するまで外科で管理し、落ち着いたら各科に転科する事になります。今年度の

外科外傷手術症例は以下の通りです。手術室に透視ベッドが導入され、腹部骨盤外傷のDSAが手術室でも出来るようになりました。手術への移行の可能性、重症度、他科のスケジュールなどを考慮して従来の血管造影室と使い分けています。

○手術

胸腔内血腫除去：2件

血管結紮・縫合術：3件

試験開腹術：2件

○IVR

血管造影：1件

血管塞栓術：7件

■オンコロジーセンター

外科部門として外来化学療法を積極的に行っております。現在、乳癌における術後補助化学療法その他、進行再発消化器癌全般、進行再発肺癌などを対象にQOLを考慮した化学療法を行っております。

また、新規抗癌剤の使用、臨床試験・治験への参加も積極的に行い治療に当たっております。

■訪問診療・在宅緩和ケア

外来通院が困難になった場合や、治癒困難な悪性疾患のため自宅でご家族とできるだけ長く生活することを望まれた場合、外科医師が往診し最期までケアさせていただきます。在宅では中心静脈栄養・末梢静脈栄養・経管栄養の他、酸素療法・経鼻胃管の管理、オピオイドによる疼痛コントロールなど入院中とほぼ同様のことが可能です。

■公開医学講座・講演

毎月10～14の講座を各地域で行っております。依頼講演も随時お引き受けしております。

痛くない痔の日帰り手術（担当：渡部・磯貝）

手のひらの汗でお悩みの方へ (担当：渡部)

胆石症・胆嚢ポリープと日帰り手術

(担当：荻野・河内)

足の静脈瘤でお悩みの方へ～最新レーザー治療～

(担当：池谷・磯貝)

鼠径ヘルニアと日帰り手術 (担当：河内)

腹部大動脈瘤の最新低侵襲治療～ステントグラフト～

(担当：荻野)

下肢閉塞性動脈硬化症～足の動脈閉塞について～

(担当：荻野・池谷)

肺がんのお話 (担当：渡部)

がんのお話～予防と早期発見のために～

(担当：下山)

胃潰瘍？それとも…～胃癌の話～ (担当：下山)

便秘や痔だと思いませんか～大腸癌の話～

(担当：下山)

静かに忍び寄る膵臓癌について (担当：下山)

のどのつかえはありませんか～食道癌のお話～

(担当：下山)

胸にしこりはありませんか？～乳癌の診断と治療～

(担当：下山)

消化器外科における新しい内視鏡外科手術について

(担当：服部)

ここまでできる腹腔鏡手術

～胃がん・大腸がん・その他～ (担当：河内)

■学術業績

(1) 学会

1. 荻野秀光, 田中正史, 片山郁雄, 伊藤智, 池谷佑樹, 磯貝尚子: 大動脈瘤破裂に対する緊急大動脈ステントグラフト治療 その工夫と問題点 破裂性腹部大動脈瘤に対する治療 湘南破裂腹部大動脈プロトコールの有効性の検討. 第40回日本血管外科学会学術総会, 長野, 2012年5月
2. 高木睦郎, 高力俊作, 渡部和巨: 当院における下肢静脈レーザー治療の現状と工夫. 第40回日本血管外科学会学術総会, 長野, 2012年5月
3. 磯貝尚子, 荻野秀光, 池谷佑樹, 河内順, 下山ライ, 渡部和巨: 当院の日帰りシャントケアセンターにおける工夫と実績. 第40回日本血管外科学会学術総会, 長野, 2012年5月
4. 磯貝尚子, 荻野秀光, 渡部和巨: 当院におけるEVAR後のType2 Endoleakに対する戦略と治療成績の検討. 第40回日本血管外科学会学術総会, 長野, 2012年5月
5. 高木睦郎, 友利浩司, 高力俊作, 渡部和巨: 安全・確実・簡単な腹腔鏡下腹膜透析カテーテル留置術. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012年6月
6. 片山郁雄, 田中正史, 伊藤智, 嶋田直洋, 橋本和憲, 荻野秀光: SMA直下の動脈閉塞を伴うCrawford2型胸腹部大動脈瘤に対しDebranching TEVARを施行した一例. 第159回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 埼玉, 2012年6月
7. 徳本直彦, 三宅克典, 小林修三, 松田明子, 東間紘, 秋葉隆, 田邊一成: 骨生検にて無形成骨症と診断した生体腎移植例の臨床経過について. 第48回日本移植学会総会, 愛知, 2012年6月
8. 丸目恭平, 高木睦郎, 中村磨美, 若井慎二郎, 日比野真, 劔木憲文, 寺木八菜, 友利浩司, 松田真一郎, 西村秀憲, 倉田修治, 西田智喜, 伴卓史朗, 高力俊策, 小銭太朗, 池谷佑樹, 荻野秀光, 宮沢善夫, 吉田利夫, 渡部和巨: 激烈な経過をたどった若年腎動脈破裂の一例. 第53回日本脈管学会総会, 東京, 2012年10月
9. 服部浩次, 渡部和巨, 太田恵一郎, 荻野秀光, 河内順, 下山ライ, 伴卓史朗, 飯島広和: 当院の単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の定型化への試み. 第74

回日本臨床外科学会総会，東京，2012年11月

10. 服部浩次，渡部和巨，太田恵一郎，荻野秀光，河内順，下山ライ，伴卓史朗，飯島広和：大腸癌手術におけるreduced port surgeryを応用した術式の工夫．第74回日本臨床外科学会総会，東京，2012年11月
11. 大西貴久，下山ライ，伴卓史朗，磯貝尚子，池谷佑樹，河内順，荻野秀光，服部浩次，渡部和巨：クローン病に合併した外傷性大腸穿孔の一例．第74回日本臨床外科学会総会，東京，2012年11月
12. 服部浩次，渡部和巨，太田恵一郎，荻野秀光，河内順，下山ライ，伴卓史朗：大腸癌手術に対するreduced port surgeryの工夫．第25回日本内視鏡外科学会総会，横浜，2012年12月
13. 服部浩次，渡部和巨，荻野秀光，河内順，下山ライ：完全腹腔内再建にこだわった腹腔鏡下幽門側胃切除術R-Y再建の工夫．第67回日本消化器外学会総会，富山，2012年7月

(2) 講演

14. R. Shimoyama. (Keynote lecture and panel discussion. Speaker and Chair) Loco-regional treatment options for oligometastatic or oligo-recurrent lesions in breast cancer. Asia Breast Cancer Collaborative Group Meeting 2012, Kanagawa, 2012.11

(3) 論文

15. 河内順，荻野秀光，池谷佑樹，篠崎伸明，前川貢一，渡部和巨：ステントグラフト内挿術を行った腰動脈損傷の一例．日本臨床外科学会雑誌 2012; 73(9):2205-2208
16. 板垣翔，田中正史，荻野秀光，池谷佑樹，嶋田直洋，片山郁雄，伊藤智：弓部分枝起始異常、Komerell憩室を合併した広範囲胸部大動脈瘤に対する二期的手術．胸部外科 2012;65(10):868-871.

形成外科・美容外科



■山下 理絵 形成外科・美容外科部長

日本形成外科学会専門医、
日本美容医療協会認定専門医、
日本レーザー医学会指導医・専門医、
日本熱傷学会専門医、日本抗加齢医学会専門医、
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医、
Medical skin care specialist Director Doctor、
医学博士

■酒井 規

日本形成外科学会専門医、日本抗加齢医学会専門医

■松尾 由紀

日本形成外科学会専門医、日本抗加齢医学会専門医、
Medical skin care specialist Doctor

■近藤 謙司

日本形成外科学会専門医、日本抗加齢医学会専門医

■遠山 哲彦

■白壁 聖亜

2012年の形成外科・美容外科の出来事

2012年1月：

湘南鎌倉形成外科・美容外科移転後のお披露目の会

2010年9月1日、鎌倉市山崎から岡本へ移転しました。その後2011年3月に大きな地震を経験、総合病院でありながら、計画停電という無計画な状況下におかれ、あわただしい2011年を過ごし、2012年に入りま

した。

延期していた形成外科のお披露目を2012年1月8日に開催いたしました。フェイスリフトの技術では日本一の白壁征夫先生、宇津木龍一先生の動画を交えたディベートディスカッション、そして市田正成先生には講堂で脂肪吸引、脂肪注入のハンズオンを行っていただきました。



講堂でハンズオン



市田先生を中心に記念写真

2012年3月：

Dallas Cosmetic Surgery Symposiumに参加

3月6～7日に米国テキサス・ダラスで開催されたシンポジウムに参加しました。Westin Hotelで1日半の講義、そしてUniversity of Texas Southwestern Medical Centerへ移動し半日のAnatomy LABを行いました。

私は、医学部1年生時の夏休み1ヶ月間、外科医である父親の勧め？教育で1ヶ月間病理学教室での研修を行いました。病理解剖はフレッシュな御遺体を解剖し

ます。医学生で10代だった当時の私にはかなり強烈な経験でした。その後、2年生時に医学教育であるホルマリン漬けの人体の解剖学実習を行いました。大学によって異なりますが、私の大学では、半体を2人で行いました。しかし、この10代の頃、医師になる前は、解剖学の重要性には気づいておらず、その時得たものは実は非常に少ないのです。多くの医師が、特に外科医は手術を自ら行うようになりその重要性を知り、もう一度人体解剖を行いたいと思っているのではないかと思います。形成外科では、月曜の夜にカンファレンスを行いますが、解剖学書は必ず机の上にあります。しかし残念ながら日本で御遺体を用いて手術の練習をすることはできません。1～2年に1回、形成外科専門医取得後の医師と共に米国に出向いてAnatomyを再度学んでいます。



講義後、これから解剖です



キャダバーを用いたトレーニング：UT解剖室

2012年4月：第55回日本形成外科学会

今年は、私が所属する医局が主催で東京のニューオータニで行いました。イブニングセミナーで、Twilight Champagne for women surgeons を企画し、WG女性支援発足記念 (women surgeons working group) と友人の作家の桐島洋子さんには、「聡明な女医たちへ」を講演、メイキャップアーティストの杉村理恵子さんには「疲れ顔解消：当直明けにハイライトマジック」というテーマで、実際のメイクを行ってもらい、とても好評でした。イブニングやランチョンの司会やシンポジウム、また湘鎌からも5題の報告を行い、本当に充実した思い出に残る学会でした。



会長招宴でDr.Rogerと



イブニングセミナーのポスター



学会報告風景



秋沢淳子さんを囲んで

2012年5月：第10回Medical Skin Care

Specialist (MSCS) 記念パーティー

MSCSは、2007年に日本美容外科学会で発足、大学や病院、クリニックの美容外科で勤務する医療スタッフに対して、メディカルエステの基礎知識、技術、運営、等の教育の場として作られました。現在、私が委員長として活動しています。毎回200名の参加があり、その3分の2は看護師です。米国では1994年から、医師の学会であるAmerican Society of Aesthetic and Plastic Surgery:ASAPS)とあわせて開催され、1997年には正式な学会として、ASAPS支援のもとで行われています。今回、開催10回を記念してパーティを開催しました。TBSアナウンサー秋沢淳子さんに、「インタビュー時に聞き手として気をつけていること」の講演、ソワサンタンウオーキングGの松尾多恵子さんに「100歳までハイヒールで歩く」の実演を交えた講演を行っていただきました。



MSCSパーティー

2012年6月：第12回日本抗加齢医学会

本年は3題の報告を行いました。医師の学会ですが、今回初めてナースが2題のポスター発表をしました。1題は、湘鎌で「再生医療における専属ナース：コンジェジュの役割」、もう1題は葉山から「男性脱毛症 (AGA) 治療時の患者心理の検討：臨床指導士の立場から」でした。



再生医療ナース発表風景

2012年9月：ISAPS (国際美容形成学会)

9月、ISAPSの会議がジュネーブであり、Facultyであるため出席、会長招宴はサーカスを貸し切り、会長が像さんに乗って登場です。やることが違います。



学会場



Dr.Trevicchi、座長の白壁征夫先生と



学会壇上で



学会スタッフと



会長招宴：サーカスを貸し切り

2012年12月：ミニ豚実験

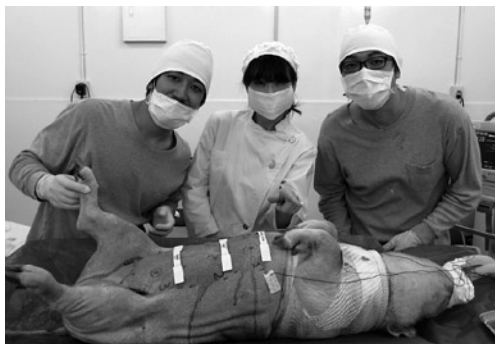
12月3日、修善寺にあるバイオリサーチ社で、ミニ豚を用いた脂肪幹細胞移植の実験を行いました。私が学位を取った時に使用した実験動物はウサギやラットでした。隣で麻酔科の先生が、ミニ豚を用いて悪性高熱の実験をしていたので、ミニ豚と言ってもある程度の大きさです。

2012年11月：日本抗加齢美容医学会 (J3A)

11月25日に私が会長を務めているJ3Aの7回目を開催、今年も無事終了しました。Dr、Trevittcによる filler、ヒアルロン酸のハンズオンも行い、充実した内容でした。



豚の脂肪注入による豊胸



実験終了後

追加：2012年5月：金環日食

前日は2時に寝て、5時に起きて6時に病院へ行き、6時半から回診、包交後、雨でしたが、7時25分にはあがり、雲の中の日食を約15分間みんなで観察しました。



金環日食観察

形成外科での治療

形成外科で扱っている疾患は病院ごとに違います。湘鎌形成では、形成外科で行われている医療のほとんどに対応できる体制を取っています。現在形成外科で行っている医療を一部紹介させていただきます。

1. 創傷外科

急性の傷：切り傷、すり傷などのケガ、熱傷（軽傷

から重傷）、顔面骨骨折、顔面軟部組織外傷、手足の外傷、指の骨折、腱断裂、切断指などの治療。

慢性の傷：肥厚性瘢痕、傷痕、ケロイド、褥瘡、難治性潰瘍、虚血肢、糖尿病性潰瘍、壊死などの治療を行っています。傷はただくっつけばよいと考えるのは昔、行う治療により、治療経過および残存する傷痕に関係します。形成外科医は傷をきれいに早く治すスペシャリストです。

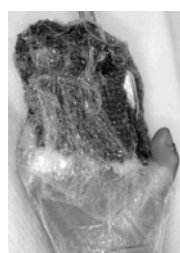
小児熱傷瘢痕拘縮の手術



術前



植皮後



VAC固定



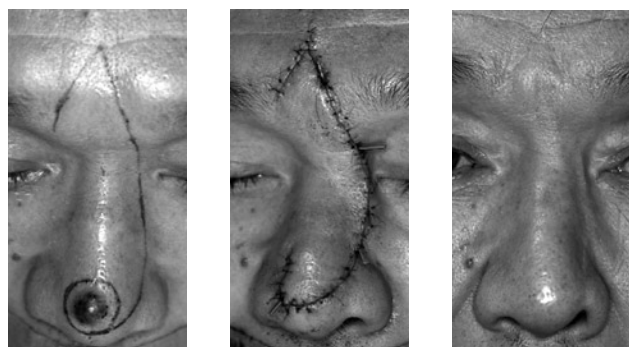
術後1年

2. 腫瘍外科

皮膚腫瘍（粉瘤、脂肪腫、ガングリオン）、皮膚悪性腫瘍（手術から化学療法まで）、軟部組織腫瘍、悪性腫瘍（肉腫など）、耳下腺、顎下腺腫瘍、悪性腫瘍（肉腫など）、血管腫、太田母斑などのレーザー治療など、皮膚表面の腫瘍や軟部組織腫瘍の治療を行い、形成外科で行う利点としては、傷をなるべく小さく、そして、切除だけでなく、最終的に残る傷をきれいに縫合し、最低限の傷跡にすることを心がけています。近医、皮膚科クリニックからの皮膚がん手術の紹介も多く、皮膚科クリニックとの連携も大切にしています。高齢化

社会を迎え、皮膚がんは益々増えていくと思います。患者さん側に確実な手術を提供していきたいと日々考えています。

鼻部基底細胞癌の手術



術前

術直後

術後6ヶ月

3. 再建外科

腫瘍外科に含まれますが、乳がんなど切除後の再建、悪性腫瘍の術後の再建、外傷後変形の再建、特に乳がん後の再建は、再生医療の試みである脂肪幹細胞による再建を開始しました。

4. 先天奇形外科

口唇裂、口蓋裂などの、口の奇形、埋没耳、副耳などの耳の奇形、眼瞼下垂、内反などの目の奇形、多指症、裂手などの手や足の奇形、出臍などの腹部の奇形などの治療を行っています。また、産婦人科、小児科ドクターと連携し、出産後に、見た目の異常がある場合、退院する前にアドバイスを行っています。

5. 美容外科

美容外科は主に2つに分かれます。ひとつは重瞼術や隆鼻術などのように、より理想に近づけるもの、もう1つはフェイスリフトに代表される老化のための治療です。当院では、両方の治療を行っています。高齢化社会になり、最近では、近医眼科クリニックからの眼瞼下垂や眼瞼のたるみの患者さんの紹介が増えてきています。眼瞼挙筋の機能異常を診察し、保険適応の

手術と、たるみの自費診療を分け、診療を行っています。

眼瞼下垂の保険手術



術前



術後

形成外科・美容外科でのセンター計画

1. アンチエイジングセンター：クリニック・ラ・プ ラージュ葉山

現在、葉山ハートセンター内にあります。アンチエイジングドック、美容皮膚ドックなどを行い、老化度を数値化し、個々の老化に対する治療を提案していきます。皮膚のアンチエイジングの他、頭髮のアンチエイジング、高濃度ビタミンC治療やキレーションなどの点滴治療、男性女性ともに起こる更年期の治療なども行っています。

しわ、たるみの治療



治療前



ヒアルロン酸注射による治療後

2. 再生医療&アンチエイジングセンター

引っ越し後、湘鎌でも、再生医療とアンチエイジングを組み合わせた医療を開始いたしました。昨年の年報に、アンチエイジングに筆者が研究していた細胞培養の技術、再生医療の分野を組みこんでいくことが構想だと書いたのですが、再生医療の最先端である脂肪細胞由来幹細胞 (stem cell) を用いた治療を開始しました。現在、主に行っているのは、乳癌術後の変形に対する治療です。乳癌手術後の患者さんは、乳房切除による喪失感、手術痕と陥凹部、日常生活の不都合など精神的苦痛を感じている人が多いようです。そういった人の心身のQOL向上が期待される治療に乳房再建があります。従来は、インプラントや筋肉皮弁を使用した大きな手術しかありませんでした。今回始めた方法は、特殊な機器 (cellution 800) を使用し、自分の脂肪から幹細胞を取り出し、自分の脂肪と混合して、乳房に移植する方法です。従来の脂肪のみだと、生着は10~40%でしたが、この方法だと70%程度に上がりました。ウエストや太ももの余分な脂肪が変形した乳房にいかされるわけですから、やせて、改善される一石二鳥の効果。この新治療は、保険治療適応外で、自費診療になります。治療に関しては、専門のコンシェルジュが、無料で相談を行っています。この方法は、乳癌術後だけでなく、豊胸手術やその他の陥凹変形目的にも行っています。

しみの治療

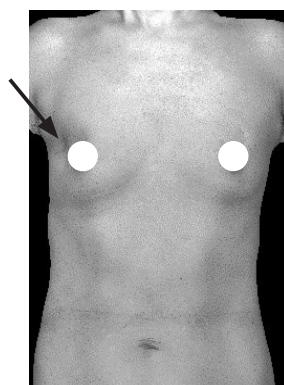


治療前

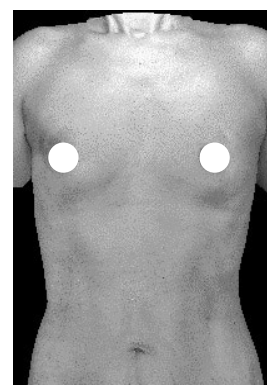


メディカルコスメ+レーザー治療

乳房の再生治療



手術前



手術6ヶ月後

3. 皮膚レーザーセンター

子供のあざ治療を中心に、最新のレーザー設備を誇るセンターを維持していきたいと思います。日本全国から患者さんが集まっています。高価なレーザー機器ですが、必要性を理解していただいています。今後は保険診療面で、国、厚生労働省への働きもしていく必要性を実感しています。

太田母斑のレーザー治療



レーザー治療前



7回治療後

4. 創傷治癒熱傷外傷センター

熱傷から褥瘡まで、幅広い創傷疾患の初期治療を行い、その後に生じる、肥厚性瘢痕やケロイドの治療までを行います。そこには、多くのメディカルドクター、そしてコメディカルがかかわっています。創傷治癒は医療の原点です。今後はwound healingもセンター化する構想です。新病院の2階にでき、今はまだ稼働し

ていないので、次の年報時にはお知らせできるようにしたいと思っています。

まず、今まで自分が行ってきた皮膚の細胞(線維芽細胞、表皮細胞)の培養を行う予定です。

2012年度業績

湘南鎌倉総合病院形成外科・美容外科業績(2012.1～)

(1) 論文

I) 総説

1. 山下理絵：外来で役立つにきび治療マニュアル, PEPARS 62, 編集 2012.2
2. 山下理絵：にきび進行期別治療の現状, PEPARS 62, 1-10, 2012.2
3. 山下理絵：手のアンチエイジング, PEPARS 66, 67-74, 2012.6

II) 著書(訳書、編書を含む)

1. 山下理絵：美容医療のボツリヌス(波利井清隆)診断と治療, 東京, 2012
2. 山下理絵：メスを用いないしわ治療, MPR(メディカル・プロフェッショナル・リレーションズ), 東京, 2012
3. 山下理絵：ケミカルピーリング 1冊でわかる最新皮膚科治療, 東京, 2012

III) 学会発表

(1) シンポジウム

1. Rie Yamashita, Yuki Matsuo, Kenji Kondo, Tetsuhiko Toyama, Mia Shirakabe, Tadashi Sakai: Melasma treatment: Low-fluence Qswitched Nd: YAG Laser Toning, IMCAS. Paris, 2012.1.17, Paris
2. 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規：レーザー治療：過去から未来へ：

美容レーザー, 第55回日本形成外科学会, 東京, 2012.4

3. 山下理絵：日本形成外科学会：Women surgeons working group (WG)：女性支援, 第55回日本形成外科学会, 東京, 2012.4
4. 山下理絵：Q-switched laserシミ・肝斑の治療, 日本美容医療協会：美容レーザー適正認定講座, 東京, 2012.6
5. 山下理絵：陰圧閉鎖療法negative pressure wound therapy：VACsystem(米国KCI社製), 第3回Wound care professional (WCP), 品川, 2012.7
6. 山下理絵：美容医学とアンチエイジング 美容皮膚科に必要なテクニックとオプション, 第30回日本美容皮膚科学会, 名古屋, 2012.8
7. 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規：Non-surgical Facial Rejuvenation しわ取り治療の適応と限界 Combination Facial Rejuvenation, 第35日本美容外科学会, 品川, 2012.10
8. 近藤謙司, 山下理絵：美容外科でのしみ, あざのレーザー治療, 第21回日本形成外科学会基礎学術集会, 福島, 2012.10
9. 山下理絵：美容医学とアンチエイジング：UPDATE, 第30回日本美容外科学会, 品川, 2012.10
10. 山下理絵：たるみ治療, 第16回スキンケア研究会, 神泉, 2012.10

(2) 一般講演

1. 松尾由紀, 山下理絵, 近藤謙司, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規：新機種KTP & Nd: YAG laserの使用経験, 第55回日本形成外科学会総会, 東京, 2012.4
2. 遠山哲彦, 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 白壁聖亜, 酒井規：眼窩底骨折手術におけるアブロー

- チ：睫毛下切開法と経結膜切開法の比較. 第55回日本形成外科学会総会, 東京, 2012.4
3. 遠山哲彦, 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 白壁聖亜, 酒井規: V.A.C.システムを用いた小児の植皮後固定. 第55回日本形成外科学会総会, 東京, 2012.4
4. 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: 冷却による非侵襲的脂肪融解術: Cryolipolysis. 第55回日本形成外科学会総会, 東京, 2012.4
5. 近藤謙司, 山下理絵, 松尾由紀, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: 脂肪幹細胞加脂肪移植術による乳房変形に対する治療: Celution 800 System® 使用. 第55回日本形成外科学会総会, 東京, 2012.4
6. 白壁聖亜, 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 遠山哲彦, 酒井規: 熱傷創の植皮生着のためにPRPとVACシステムのコンビネーション. 第55回日本形成外科学会総会, 東京, 2012.4
7. 近藤謙司, 山下理絵, 松尾由紀, 尾上綾子, 石川由美: 脂肪幹細胞加脂肪移植術による乳房変形に対する治療: Celution 800 System® 使用. 第12回日本抗加齢医学会, 横浜, 2012.6
8. 尾上綾子, 石川由美, 近藤謙司, 松尾由紀, 山下理絵: 再生医療における専属ナース: コンシェルジュの役割. 第12回日本抗加齢医学会, 横浜, 2012.6
9. 安斎浩子, 細谷陽子, 長澤美鈴, 内藤博美, 山下理絵, 松尾由紀, 酒井規: 男性脱毛症(AGA)治療時の患者心理の検討: 臨床指導士の立場から. 第12回日本抗加齢医学会, 横浜, 2012.6
10. 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: 熱傷創の植皮生着のために; PRPとV.A.C.システムのコンビネーション. 第38回日本熱傷学会, 新宿, 2012.6
11. 遠山哲彦, 山下理絵, 松尾由紀, 近藤謙司, 白壁聖亜, 酒井規: V.A.C.システムを用いた小児の植皮後固定. 第38回日本熱傷学会, 新宿, 2012.6
12. 近藤謙司, 山下理絵, 松尾由紀, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: 虚血肢に対する非侵襲的診断方法SPP: OXY-2. 第21回日本形成外科学会基礎学術集会, 福島, 2012.10
13. 近藤謙司, 山下理絵, 松尾由紀, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: Laser toning: 炎症後色素沈着の治療. 第35日本美容外科学会, 品川, 2012.10
14. 松尾由紀, 山下理絵, 近藤謙司, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: 新機種Acleara™によるにきび治療. 第35日本美容外科学会, 品川, 2012.10
15. 山下理絵, 近藤謙司, 松尾由紀, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: KTP & Nd: YAG laser: 新機種の使用経験. 第33回日本レーザー医学学会, 大阪, 2012.11
16. 近藤謙司, 山下理絵, 松尾由紀, 遠山哲彦, 白壁聖亜, 酒井規: Laser toning: 炎症後色素沈着の治療. 第33回日本レーザー医学学会, 大阪, 2012.11
17. 山下理絵: 肌のアンチエイジング. 第6回見た目のアンチエイジング, 品川, 2012.7
- (3) 招待・教育講演
1. 山下理絵: 美容医学とアンチエイジング. 日本抗加齢医学会認定取得講習会, 東京, 2012.3
2. 山下理絵: キズのケアとスキンケア 傷をきれいに治すには. 第21回日本WOC学会市民講座, 神戸, 2012.5
3. 山下理絵: Q-switched laser シミ・肝斑の治療. 横浜皮膚科医師会, 横浜, 2012.9
4. 山下理絵: 形成外科とアンチエイジング. 第84回日本形成外科学会北海道地方会, 札幌, 2012.10
5. 山下理絵: 若く・きれいでいるためのアンチエイ

ジング医療, Diet beauty, お台場, 2012.9

6. 山下理絵: Wound Healing: 創傷治癒傷をはやくきれいに治すには, Wound Healing 勉強会, 横浜, 2012.2
7. 山下理絵: Wound Healing: 創傷治癒傷をはやくきれいに治すには, Wound Healing ジャンパール, 丸の内, 2012.3
8. 山下理絵: 若く・きれいでいるためのアンチエイジング医療 part1, 沖縄抗老化研究会, 沖縄, 2012.2
9. 山下理絵: 若く・きれいでいるためのアンチエイジング医療 part2, 沖縄抗老化研究会, 沖縄, 2012.2
10. 山下理絵: にきびの治療, 第6回MSCS, 東京, 2012.4
11. 山下理絵: Oncology of Plastic Surgery, 第7回MSCS, 京都, 2012.10

Ⅲ) 公開講座・教育講演

1. 山下理絵: KTP&Nd YAG laser: 新機種の使用経験, Total Skin Therapy(TST), 2012.7
2. 山下理絵: Nd: YAG laserによる血管治療 リジュビネーション治療, Total Skin Therapy (TST), 東京, 2012.10
3. 山下理絵: 美容医療の成功事例・シミ・肝斑治療, 第1回アンチエイジングセミナー in 名古屋, 名古屋, 2012.7
4. 山下理絵: Qswitced Laser, 第1回山下塾, 名古屋, 2012.11

脳神経外科



■権藤 学司 副院長、脳神経外科部長

日本脳神経外科学会専門医・指導医、
日本脊髄外科学会認定医・指導医、
日本脳卒中学会専門医、
日本頭痛学会専門医、日本臨床神経生理学会認定医
(脳波分野、筋電図神経伝導分野)、医学博士

■渡辺 剛史 脳神経外科部長

日本脳神経外科学会専門医・指導医、
日本脊髄外科学会認定医、
日本神経内視鏡学会認定医

■田中 雅彦 脳神経外科部長

日本脳神経外科学会専門医・指導医、
日本がん治療認定機構がん治療認定医、医学博士

■山本 一徹

日本脳神経外科学会、日本脊髄外科学会

■田中 聡

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会

■土屋 雄介

日本脳神経外科学会

活動状況

2012年のスタッフは、畑岡峻介が3月末で国立病院機構横浜医療センターへ異動し、代わりに4月1日より久保田純一が同院より赴任した。また、当院初期研修医を修了した山本一徹が4月から後期研修医として

参加し、徳之島徳洲会病院の応援から遠藤聡が復帰して三島弘之、渡辺剛史、権藤学司を含めて常勤6名の体制となった。ここにローテーションとして、北原理(2～3月)、渡邊晋二(4月)、堂本佳典(5～6月)の3名の先生が加わった。

年間手術数は452件で当院での過去最高をさらに更新した。主な内訳は、脳動脈瘤頸部クリッピング(38件)と脳腫瘍(42件)を含めて開頭術109件、慢性硬膜下血腫120件、VPシャント12件、脊椎脊髄手術176件等であった。

学術活動は論文発表1件、著書1件、全国レベルの学会発表12回、地方レベルの学会発表4回であった。

JCIに取り組んだ1年であったが、臨床にも学術活動にもよく頑張った1年だったと振り返る。

学術活動

(1) 論文

渡辺剛史, 中心性頸髄損傷, 脊椎脊髄—Up to Date Clinical Neuroscience, 2012 ; 30 : 1158-1160

(2) 著書

権藤学司, 脊椎脊髄外傷, 新井一編: NS NOW 神経外傷, メジカルビュー社, 2012, 117-127

(3) 学会発表

1. 畑岡峻介, 三島弘之, 渡辺剛史, 権藤学司: 前頭葉 Solitary fibromaの1例, 第167回湘南神経談話会, 平塚, 2012年1月
2. 渡辺剛史, 権藤学司, 遠藤聡, 三島弘之, 畑岡峻介, 北原理: Shanz screwを用いた胸腰椎破裂骨折の治療経験, 第7回神奈川脳神経外科集談会, 横浜, 2012年2月
3. 三島弘之, 権藤学司, 渡辺剛史, 畑岡峻介: 症候性硬膜動静脈瘻のMRI画像の特徴, 第37回日本脳卒中学会, 福岡, 2012年3月

4. 宮原宏輔, 市川輝夫, 向原茂雄, 岡田富, 郭樟吾, 谷野慎, 瓜生康浩, 田中悠介, 久保田純一, 藤津和彦: Paraclinoid aneurysmのneck部位診断における術前CTAの有用性. 第35回日本脳神経CI学会, 横浜, 2012年3月
5. 宮原宏輔, 市川輝夫, 向原茂雄, 岡田富, 郭樟吾, 谷野慎, 瓜生康浩, 田中悠介, 久保田純一, 藤津和彦, 新野史, 柳下三郎: 脳幹部海綿状血管腫の手術—摘出病理標本の検討に基づく考察. 第41回日本脳卒中の外科学会, 福岡, 2012年3月
6. 遠藤聡, 久保田純一, 山本一徹, 三島弘之, 渡辺剛史, 榎藤学司: 胸椎硬膜内に突出した椎間板ヘルニアの1例. 第169回湘南神経談話会, 平塚, 2012年5月
7. 榎藤学司, 渡辺剛史, 三島弘之, 畑岡峻介, 遠藤聡, 山本一徹, 北原理: 頭蓋頸椎移行部外傷に対する手術療法(シンポジウム). 第27回日本脊髄外科学会, 浦安, 2012年6月
8. 門間文行, 天笠雅春, 中澤照夫, 榎藤学司, 高田寛人, 渡辺剛史, 谷野慎, 小原進: 多椎間頸椎前方圧迫病変の前方手術—固定術からの脱却・飛躍—. 第27回日本脊髄外科学会, 浦安, 2012年6月
9. 野地雅人, 笹野まり, 大貫隆広, 白水牧子, 小佐野靖己: 胸腰椎硬膜内外病変に対するT字皮膚切開の有用性. 第27回日本脊髄外科学会, 浦安, 2012年6月
10. 畑岡峻介, 榎藤学司, 三島弘之, 渡辺剛史: 当院で経験した結核性椎体炎の2例. 第27回日本脊髄外科学会, 浦安, 2012年6月
11. 三島弘之, 榎藤学司, 渡辺剛史, 畑岡峻介, 谷野慎, 瓜生康浩, 遠藤聡: 脊髄硬膜動静脈瘻に対して4DCTAが診断に有用であった1例. 第27回日本脊髄外科学会, 浦安, 2012年6月
12. 三島弘之, 久保田純一, 山本一徹, 遠藤聡, 渡辺剛史, 榎藤学司: Tumefactive multiple sclerosisの1例. 第170回湘南神経談話会, 平塚, 2012年7月
13. 宮原宏輔, 市川輝夫, 向原茂雄, 岡田富, 郭樟吾, 谷野慎, 瓜生康浩, 田中悠介, 久保田純一, 藤津和彦: Dolenc approach—Paraclinoid aneurysmの分類と手術手技—. 第24回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2012年7月
14. 宮原宏輔, 市川輝夫, 向原茂雄, 岡田富, 郭樟吾, 谷野慎, 瓜生康浩, 田中悠介, 久保田純一, 藤津和彦, 新野史, 柳下三郎: 脳幹部海綿状血管腫の手術—摘出病理標本の検討に基づく考察. 第15回日本病院脳神経外科学会, 函館, 2012年7月
15. 遠藤聡, 山本一徹, 久保田純一, 三島弘之, 渡辺剛史, 榎藤学司: ドレーン留置時間による慢性硬膜下血腫の再手術率の検討. 第71回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2012年10月
16. 渡辺剛史, 榎藤学司, 遠藤聡, 三島弘之, 久保田純一, 山本一徹: 頸椎後縦靱帯骨化症を有する高齢者の頸椎外傷. 第71回日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2012年10月

心臓血管外科



■田中 正史 心臓血管外科部長

医学博士、心臓血管外科専門医、

心臓血管外科修練指導医、外科専門医、外科指導医

■片山 郁雄 心臓血管外科医長

日本外科学会専門医

■伊藤 智 心臓血管外科医長

医学博士、心臓血管外科専門医、外科専門医

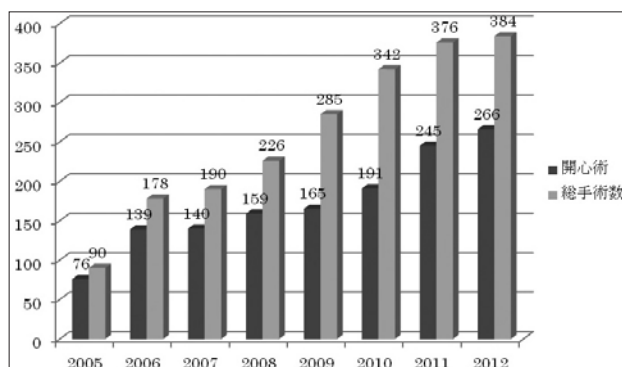
■嶋田 直洋

■橋本 和憲

■大城 規和

■白水 御代

全手術件数と開心術症例数の年次推移



	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
虚血性心疾患	27	53	68	52	41	43	33	68
弁膜症	33	57	51	70	57	59	91	97
胸部大動脈疾患	15	24	13	31	63	74	108	97
急性解離					25	35	40	33
ステントグラフト					6	10	23	33
先天性、他	1	5	4	6	4	15	13	4
開心術合計	74	139	140	159	165	191	245	266
腹部大動脈瘤	6	6	7	11	64	75	93	88
ステントグラフト					51	66	79	75
その他	8	33	43	56	56	76	38	30
合計	90	178	190	226	285	342	376	384

※2005年は4月から12月までの9ヶ月間

2012年の手術実績

総手術件数：384件

開心術（心臓・胸部大血管手術）件数：266件（うち緊急手術56件、21%）

A. 虚血性心疾患手術：68例

1. 単独冠動脈バイパス術：63例

心停止下冠動脈バイパス術 0例

人工心肺補助下心拍動下冠動脈バイパス術
2例（3%）

心拍動下冠動脈バイパス術（人工心肺非使用）
61例（97%）

平均バイパス枝数 3.1枝

透析症例 10例（17%）

2. その他：5例

CABG+左室形成術 3例

心室中隔穿孔 2例

B. 弁膜症手術：97例

緊急手術	4例 (4%)
透析症例	16例 (16%)
感染性心内膜炎	5例 (5%)
冠動脈バイパス術合併	15例 (15%)

1. 僧帽弁手術：29例

非虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁形成術 15例

僧帽弁形成術のみ 12例

僧帽弁形成術＋その他 3例

リウマチ性僧帽弁疾患または人工弁機能不全に対する僧帽弁置換術 14例

僧帽弁置換術 8例

僧帽弁置換術＋その他 6例

2. 大動脈弁手術：56例

大動脈弁置換術のみ 40例

大動脈弁置換術＋その他 16例

3. 連合弁膜症手術：10例

僧帽弁置換術＋大動脈弁置換術 2例

僧帽弁置換術＋大動脈弁置換術＋その他 6例

僧帽弁輪形成術＋大動脈弁置換術 2例

4. 三尖弁置換術：2例

C. 胸部大動脈手術：97例

1. 胸部大動脈瘤（真性瘤および慢性大動脈解離）：

30例

大動脈基部置換術（ベンタール変法） 3例

弓部大動脈人工血管置換術 15例

弓部大動脈人工血管置換術＋その他 6例

下行大動脈人工血管置換術 2例

上行-弓部-下行置換 3例

胸腹部大動脈人工血管置換術 1例

2. 破裂性胸部大動脈瘤：1例

弓部大動脈人工血管置換術 1例

3. 急性大動脈解離：33例

大動脈基部置換術（ベンタール変法） 1例

上行大動脈人工血管置換術 20例

弓部大動脈人工血管置換術 6例

弓部大動脈人工血管置換術＋エレファント

ランク挿入術 6例

4. ステントグラフト内挿術（胸部大動脈）：33例

D. 成人先天性心疾患手術：1例

心房中隔欠損症閉鎖術 1例

E. その他の開心術：3例

左房粘液腫手術 1例

左室内血栓除去術 1例

上行大動脈内血栓 1例

F. 末梢血管手術：95例

腹部大動脈人工血管置換術 13例

ステントグラフト内挿術（腹部大動脈） 75例

閉塞性動脈硬化症に対するバイパス手術 2例

仮性動脈瘤 3例

下肢静脈瘤手術 2例

G. その他：23例

再開胸止血術 5例

心嚢ドレナージ手術 6例

CRTDリード縫着 1例

大網充填術 4例

胸骨骨髓炎に対するデブリードメント 1例

気管切開術 6例

■学術業績

(1) 学会発表

1. 田中正史, 伊藤智, 片山郁雄, 嶋田直洋, 板垣翔,

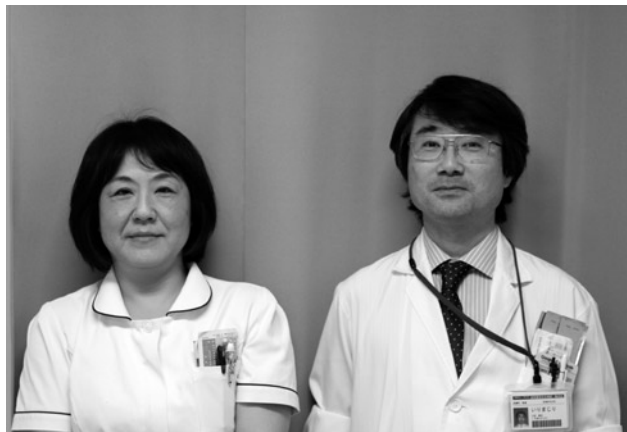
白杉岳洋：透析患者の高度僧帽弁輪石灰化病変に対する僧帽弁置換術の工夫～Translocation MVR, 第42回日本心臓血管外科学会学術総会 2012.4, 秋田, 日本心臓血管外科学会雑誌, Vol.41 supplement April 2012:p337

2. 田中正史, 片山郁雄, 伊藤智, 嶋田直洋, 橋本和憲, 大城規和, 白水御代：長期透析患者の高度僧帽弁輪石灰化病変に対する僧帽弁置換術の工夫～CUSAによる石灰化除去とTranslocation MVR, 第9回腎と心血管障害研究会 (Cardio-Renal Conference), 品川, 2012.7
3. 田中正史, 橋本和憲, 片山郁雄, 伊藤智, 嶋田直洋, 大城規和, 白水御代：解剖学的除外基準によりTAVI臨床試験不適格となりSurgical AVRを施行した大動脈弁狭窄症症例の手術成績, General Thoracic and Cardiovascular Surgery Volume 60・Supplement 2012: 第65回日本胸部外科学会定期学術集会, 福岡国際会議場, 2012.10

(2) その他

1. 田中正史：大動脈センターチーム医療について, 第20回鎌倉循環器フォーラム, 横浜, 2012.6
2. Masashi Tanaka : Mitral Valve Replacement using Teflon collared mechanical prosthesis for a dialysis patient with severe mitral annular calcification. Japan-Singapore interactive scientific session. 2012.8.25 Singapore
3. 田中正史 座長：傍腎動脈腹部大動脈瘤, 第40回日本血管外科学会学術総会, 長野, 2012.5, 日本血管外科学会雑誌, Vol.21 No.3:p50
4. 田中正史 座長：周術期管理1, 第26回日本冠疾患学会学術集会, 都内, 2012.12, 日本冠疾患学会学術集会雑誌, Vol.18, No.4 2012: p110

皮膚科



■入交 純也 皮膚科部長

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

■荻野 千秋（非常勤）

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

■田中 公美（非常勤）

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

1. 展望

昭和63年11月の当院開院時には、皮膚科は開設されていなかった様であるが、皮膚科診療開始時期に関する記録がないため、詳細は不明である。調べ得た限り最も古い記録は、平成元年6月26日、60歳女性の接触皮膚炎であった。

近年は順天堂大学、東邦大学大森病院、東京医科歯科大学から曜日ごとに非常勤医師が来院し、診療にあっていた。平成10年7月より東京医科歯科大学から常勤医師1名が派遣されることになり、渡邊憲医長が赴任、三学からの非常勤医師と共に外来患者、入院患者、外来手術、訪問診療（地域医療部）などの診療にあたった。平成11年3月、渡邊医長は横須賀市立市民病院に異動し、東京医科歯科大学からの二代目医長として入交純也が赴任した。この後も、常勤医師1名と日替りの非常勤医師という変則的な診療体制が続いていたが、平成15年7月より荻野千晶医師が常勤として

赴任、週1回の東京医科歯科大学からの非常勤医師と共に3名で診療を行っていた。非常勤医師としては、大井三恵子医師、田中智子医師、田中公美医師、根本威志医師、山下朋子医師が診療にあたった。平成17年9月より荻野医師が休業、非常勤医師の診療中止、入交のみで診療を行い、同年12月からは非常勤の沖山奈緒子医師と診療を行った。翌平成18年8月から同年12月まで非常勤で小笠原彰医師が加わり、また同年10月より荻野千晶医師が非常勤医師として復帰、平成21年7月より田中公美医師も非常勤で復帰、平成23年2月より沖山医師から森下綾子医師に交代、平成24年2月、3月は森下医師に代わり上野真紀子医師、4月より樫沢未佳子医師に交代、平成25年4月より6月まで渡部梨紗医師に交代、同年7月のみ種瀬朋美医師が診療し、現在は常勤1名、非常勤2名の体制である。また荻野医師は、湘南かまくらクリニックでも非常勤医師として診療を行っている。（入交：月～金 午前、荻野：月・水 午前、田中：火・木 午前、※湘南かまくらクリニック 荻野：火・木 午前）

平成15年4月1日付けで日本皮膚科学会認定皮膚科専門医研修施設として認定された。

平成16年10月、荻野千晶医師が専門医に認定された。

平成18年8月、外来診察室が西側から東側旧内視鏡室跡へ移動した（山崎旧病院）。

平成19年10月21日付けで、入交医長が皮膚科部長を命じられた。

平成22年、日本皮膚科学会専門医研修制度の改正に伴い、東京医科歯科大学医学部附属病院、及び東京都立墨東病院を主研修施設とする、一般研修施設として認定された。

同年、日本皮膚科学会よりTNF α 阻害薬使用施設として承認された。

平成22年9月、岡本新病院移転後は3階で診療を行っていたが、平成25年10月、2階内視鏡センターの一部を改装して移転した。

外来患者は接触皮膚炎、蕁麻疹、足白癬など様々であり、また、入院患者は大半が带状疱疹で、入院期間は1週間前後であることが多く、その他に水痘、カポジ水痘様発疹症、水疱性類天疱瘡、落葉状天疱瘡なども散見される。

今後も引き続き、皮膚科としての診療のみならず、薬疹、褥瘡などの他科からの依頼、訪問診療や、研修医教育、褥瘡対策委員会、保険委員会、学会参加などの活動にも力を注いでいく予定である。

2. 診療実績

皮膚科年間総外来患者数：14,829人

皮膚科年間総新患者数：469人

皮膚科年間総入院患者数：22人

皮膚科年間外来手術件数：33件

皮膚科年間生検件数：64件

泌尿器科



■三浦 一郎 泌尿器科部長

日本泌尿器科学会指導医、日本透析医学会認定医、
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡手術技術認定医、
日本内視鏡外科学会

■村田 憲彦

日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器内視鏡学会、
泌尿器科一般

■吉野 修司（非常勤）

日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器内視鏡学会

■村田 明弘（非常勤）

日本泌尿器科学会指導医、日本泌尿器内視鏡学会

診療科紹介

現在の当院の泌尿器科は2003年4月より杏林大学泌尿器科学教室からの派遣の形で新しい常勤体制で始まりました。

部長の三浦、医長の村田の2人と、週2日の非常勤医で日々外来・手術をこなしてきました。当初は1日外来患者数も30人程度であり比較的患者さんの話もゆっくり聞ける状態でしたが、最近では多い日には1日90人にもなりあわただしい毎日になっています。4人すべてが泌尿器科指導医でもあり泌尿器科医不足に悩む毎日です。

4月からは当院に新規開設された腎移植外科に泌尿器科医である徳本部長が赴任し、さらに泌尿器科も充

実させるべく協力体制を組んで診療に当たっています。

近年の泌尿器科治療の特徴として、非常に高額な大型機材が必要ことがあげられます。当院でも良性疾患から悪性疾患に至るほぼすべての疾患の診察治療をしていますが、腎臓結石に対しては対外衝撃波結石破碎装置がないため近隣病院との連携を保ち患者さんを紹介しあい治療を行っています。

今年度は念願のダヴィンチという前立腺癌に対する手術支援ロボットが導入されました。前立腺癌大国のアメリカでは前立腺癌に対する手術はすでに90%がこのダヴィンチを使用したものとなっています。これは人間の手では不可能な細かい操作をすることが可能になり、そのことにより患者さんにはより負担の少ない治療を提供することが可能になります。まだまだ当科では始まったばかりですが、出血量も50ml以下で輸血もなく入院期間も約1週間という良好な成績を取っています。一昨年導入された最新の放射線治療機器（トモセラピー）とも合わせ前立腺癌に対する総合的な治療が副作用も少なく可能になりました。

近年患者さんの体の負担の少ない手術と言うことで、腹腔鏡手術が普及していますが、当科でも泌尿器内視鏡外科学会の腹腔鏡技術認定医の資格を取得し主に腎癌、副腎腫瘍に対し腹腔鏡手術を施行し、手術翌日から歩行・食事も可能であり患者さんからも好評を得ています。神奈川県内の市中病院の泌尿器科ではまだ認定者は少数であり当院でも今後積極的に取り組んでいきたいと思っています。

手術不能、もしくは転移性の膀胱がんなどに対しては従来より長期入院をしての抗癌剤治療を行っていましたが、最近では当院オンコロジーセンターを活用し短期入院での外来抗癌剤治療も行い患者さんの社会復帰の一助になればと考えています。

活動状況

今年度の主な手術数を示します。

膀胱全摘術	2件
前立腺全摘術	21件
(うちダヴィンチ手術	20件)
腎摘除術	8件
(うち腹腔鏡	7件)
腎尿管全摘術	3件
経尿道的前立腺切除術	7件
経尿道的膀胱腫瘍切除術	78件
尿路結石手術	37件

その他細かい手術を含め合計207件でした。

実際には手術を希望される患者さんはたくさんいらっしゃるのですが、マンパワー不足により良性疾患の手術がなかなか予定を立てられない状況にあることが悩みの種です。

また、PSA検診の普及に伴い急速に増えている前立腺癌疑い患者さんに対する精密検査である前立腺生検が160件ありました。

新規の前立腺癌患者さんは年間60名以上います。

将来展望

泌尿器科では最近低侵襲治療が非常に普及してきています。その一つとして腹腔鏡下手術がありますが、今後さらに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

また、手術支援ロボットの導入により将来的には前立腺癌だけでなく小径腎癌に対する腎部分切除術等にも積極的に取り組めるようにしていきたいと思っています。

さらに最新型の前立腺肥大症に対するレーザー機器を導入すべく準備しており、それにより今まで以上に患者さんの負担も少なく手術が可能になるのではないかと期待しています。

学術業績

公開講座(年12回開催)

三浦一郎：前立腺肥大症の話

1. 三浦一郎：腎・泌尿器疾患の主な検査, その他の尿路系・男性生殖器の検査, 新体系看護学全書 腎・泌尿器, メヂカルフレンド社, 2012, p75-81
2. 三浦一郎：腎・泌尿器の腫瘍, 腎実質腫瘍, 新体系看護学全書 腎・泌尿器, メヂカルフレンド社, 2012, p176-179
3. 三浦一郎：男性の性・生殖器に関する疾患, 精巣水腫, 新体系看護学全書 腎・泌尿器, メヂカルフレンド社, 2012, p203

産婦人科



■井上 裕美 副院長、産婦人科部長

日本産科婦人科学会専門医、
日本産科婦人科内視鏡学会理事及び技術認定指導医、
日本内視鏡外科学会技術認定医、
日本婦人科腫瘍学会指導医、
産婦人科手術懇話会世話人、
日本救急医学会専門医及び認定医、
ヒューマニゼーション研究会世話人、
神奈川内視鏡研究会世話人、
F-LUTS&PF Meeting世話人、
日本女性骨盤底医学会幹事、
神奈川県産科婦人科医会周産期医療対策部部員、
NPO法人日本助産評価機構実践評価部評議員、
IUGA (国際婦人泌尿器学会) 会員、
ISPP (International Society for Pelviperineology)
学会Faculty、日本周産期新生児学会会員、
日本臨床細胞学会会員

■木幡 豊 産婦人科部長

日本産科婦人科学会専門医、
日本産婦人科内視鏡学会、医学博士

■日下 剛 産婦人科部長

日本産科婦人科学会専門医、
日本周産期新生児学会、日本不妊学会、
日本人類遺伝学会、周産期学、医学博士

■福田 貴則 産婦人科部長

日本産科婦人科学会専門医、
日本周産期新生児学会会員、
日本婦人科腫瘍学会会員、
日本内視鏡学会会員及び技術認定医、
日本内視鏡外科学会技術認定医

■門間 美佳

日本産科婦人科学会専門医

■鶴澤 芳枝

日本産科婦人科学会専門医

■市田 知之

日本産科婦人科学会専門医

■久保 唯奈

日本産科婦人科学会専攻医

■渡邊 零美

日本産科婦人科学会専攻医

■関口 由紀 (非常勤)

日本泌尿器科学会専門医、医学博士

■檜澤 ゆかり (非常勤)

日本産科婦人科学会専門医、日本思春期学会、
医学博士

■山本 謙二 (非常勤)

日本産科婦人科学会専門医、日本癌学会、
日本癌治療学会、日本婦人科腫瘍学会、
婦人科悪性腫瘍、医学博士

■亀井 潤子 (非常勤)

日本産科婦人科学会専門医、医学博士

はじめに

2012年は、その前年の2011年3月11日の東日本大震災によって、予定が延期された、ミッシェル・オダン来日記念講演および母子の安全と、満足して頂けるお産(厚生省の21世紀の提言である快適なお産)を話し合う、周産期シンポジウムから幕が上がった。1月

23日、鎌倉芸術館で行なわれたミッシェル・オダンのその講演会は、800人以上の聴衆で盛り上がった。

われわれ産科医療者が学んできたものより少し広い視点でのお産の追求がこの会を通して行なわれた。それは我々が湘南鎌倉総合病院産婦人科で追求し続けた本来あるお産への道である。母子共に安全で安心してのぞむお産。その後のあたたかい家族形成につながるお産である。

アメリカのマニュアルにも書いてあるようにお産は病気ではない。人類の歴史始まって以来続く生理的な営みである。Williams Obstetricsで述べられているように、“Vaginal delivery is the preferred route of delivery for most fetuses.”そして“Cesarean birth can be life-saving for the fetus, the mother, or both in certain cases.”なのである。

最近数年間帝王切開は増加したままから少し又増加傾向にある。アメリカ合衆国では3人に1人は帝王切開でお産が行なわれていると報告されている(2011年)。そこには様々な原因があると考えられる。この年報のはじめの言葉を書いている2014年の3月、アメリカ産婦人科学会(ACOG)と母子周産期学会(Society for maternal-fetal Medicine)は、共同の“Obstetric Care Consensus”: Safe prevention of the primary cesarean deliveryを発表した。そこには急速な帝王切開の増加は、母子の疾病率や死亡率の減少という明らかなevidenceなしに、乱用されていると指摘し、妊婦の最初の出産に対する帝王切開を母子共に安全に防ごうと言った取り組みが示されていた。そこでは、妊婦の母体死亡が経膈分娩の4倍にいたっていることを指摘している。

それとリンクするように帝王切開の今までに指摘されてきた母子への合併症だけではなく、様々な帝王切開の長期予後が問題視されてきている。例えば自閉症(autism spectrum disorder)、注意欠落・多動性障害(attention-deficit/hyperactivity disorder)、そして双極性障害(躁鬱病、bipolar disorder)が帝王切開の出産児に多く診られるとの報告である。(Curran 2014, Chudal 2014)

高齢出産、特に40歳を越えての妊産婦(プレミアムbabyとよぶ)が増加する中、この年齢層以上での帝王切開率は54%に達するとの報告もあり(Vaughan 2014)、今後彼女たちの母子共に安全、安心そして満足してもらう出産に、どう対応して行くかが大事な課題となってきた。

今後のお産は、今まで通り妊産婦さんの声に耳を傾けながら、母子の安全、更には子供の長期予後についても考慮し、今年のアメリカ産婦人科学会とアメリカ母子周産期学会の勧告のように、安全な帝王切開回避の方法に出来る限り努力して行くことが要求されてくるであろう。

高齢者に体する骨盤臓器脱の治療、がんに対するラパロ手術及び救急疾患等は今後も、今まで通り皆で力を合わせて頑張っていきたいと思う。

診療実績

2012年 861件の手術が行なわれた。

腹腔鏡下筋腫核出術	130件
腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出(核出)術	132件
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	17件
腹腔鏡下膣上部切断術	11件

腹腔鏡下(補助下腔式)子宮全摘出術	9件
開腹子宮全摘出術	22件
開腹筋腫核出術	20件
開腹膣上部切断術	28件
開腹卵巣嚢腫手術	16件
悪性手術(体がん 頸がん)	25件
開腹卵巣がん手術	21件
円錐切除術(LEEP)	56件
TCR(経頸管腫瘍摘出)	24件
子宮内容清掃術	22件
バルトリン腺手術	3件
Polypectomy	2件
コンジローマ切除	2件
骨盤臓器脱手術 TFS	81件
帝王切開術	167件
その他試験開腹等	

分娩に関して

総分娩数は	1164件
正常分娩(医療介入の内)	817件
帝王切開	167件
吸引・促進分娩	120件

前回帝王切開のTOLACは16例あり全例VBACとなっている。途中帝王切開の切り替えはなかった。希望帝王切開は24例に認めた。

分娩36週以前で骨盤位だった42例の内3例は自然に36週で頭位になったが、残り39例の内11例は36週で外回転術を施行、7例は頭位となったが、4例は変わ

らず、2例が帝王切開、2例が経膣分娩を選択した。結局最初から外回転を希望せず帝王切開を選んだ30例と合わせて32例が帝王切開となった。

骨盤位の経膣分娩は9例行なわれ、そのうち初産婦は2例だった。

双胎妊娠の第1子が頭位の場合で、経膣分娩を選択したのは5例だった。

NCPR(新生児蘇生法)ガイドラインによると、順調な妊娠・分娩を経過した場合でも、約10%の出生児に吸引や刺激等のサポートを必要とし、更に約1%の新生児は救命のために本格的な蘇生手段(胸骨圧迫、薬物治療、気管挿管)を必要とする。これを当院の2012年の分娩でみると、分娩児の新生児仮死(Apgar 6以下)は42例で全体の3.6%、出生児に吸引や刺激等のサポートを必要としたのは37例(3.1%)で、更に本格的な蘇生手段を必要としたのは5例(0.4%)だった。共にガイドラインで示す%よりも低い値であり、当院の分娩が近隣の産院や助産院からの急な搬送があるにもかかわらず、産科及び新生児科のスタッフの協力による分娩体制が分娩全体の安全を支えた(分娩リスクを軽減させた)事によると考えられた。今後も引き続き、これ以上の良い結果を目指したいと思っている。

産婦人科業績集 2012(平成24年)

(1) 学会・研究会 座長・発表

- 2012/3/8, ウロギネコロジーのABC(その3), 講演, 性器脱(骨盤底臓器脱)の治療, 第12回神奈川県地域地区産婦人科研修会, 相模大野, 小田急センチュリーホテル, 井上裕美
- 2012/7/28-29, 再発例に対する仙棘靱帯固定術, 第14回日本女性骨盤底医学会学術集会, ホテル

- ニューオータニ大阪, 大阪, 湘南鎌倉総合病院産婦人科, *横浜元町女性医療クリニック・ルナ、井上裕美, 関口由紀*, 木幡豊, 日下剛, 福田貴則, 門間美佳, 大林美貴, 市田知之, 鶴澤芳江, 鈴木志帆, 外山唯奈
3. 2012/7/28-29, 腹腔鏡下筋腫核出手術とTFS手術の3例と筋腫を摘出しなかった1例, 第14回日本女性骨盤底医学会学術集会, ホテルニューオータニ大阪, 大阪, 湘南鎌倉総合病院産婦人科, *横浜元町女性医療クリニック・ルナ, 井上裕美, 関口由紀*, 木幡豊, 日下剛, 福田貴則, 門間美佳, 大林美貴, 市田知之, 鶴澤芳江, 鈴木志帆, 外山唯奈
4. 2012/7/28-29, 一般演題4「手術手技」, 座長, 第14回日本女性骨盤底医学会学術集会, ホテルニューオータニ大阪, 大阪, 湘南鎌倉総合病院産婦人科, 井上裕美
5. 2012/8/26, モヤモヤ病の症例, 大阪, 市田知之, 井上裕美, 木幡豊, 日下剛, 福田貴則, 門間美佳, 大林美貴, 鶴澤芳江, 鈴木志帆, 外山唯奈
6. 2012/9/13-15, 当院における日帰り子宮鏡下手術, 第52回日本産婦人科内視鏡学会総会, 学術講演会; 大阪, 福田貴則, 井上裕美, 市田知之, 鶴澤芳江, 鈴木志帆, 大林美貴, 門間美佳, 日下剛, 木幡豊
7. 2012/9/13-15, 一般講演「単孔式4」, 座長, 第52回日本産婦人科内視鏡学会総会, 学術講演会; 札幌コンベンションセンター, 北海道, 井上裕美
8. 2012/10/11, ウロギネコロジーのABC(その4), 講演, 性器脱(骨盤底臓器脱)の手術療法, 前編, 第13回神奈川県地域地区産婦人科研修会, 相模大野, 小田急センチュリーホテル, 井上裕美
9. 2012/10/22-25, 14th ISPP preinary session Charman and Co Chairman of ISPP Japanese Meeting, Hiromi Inoue
10. 2012/10/22-25, 14th ISPP Symposium 3: TFS surgery and the Integral theory, Hiromi Inoue, Peter Petros others
11. 2012/10/28, 不妊治療中に卵巣癌, Torusseau症候群を併発し急激な転機をとった症例, 第124回関東連合産婦人科学会総会, 山梨, 門間美佳, 井上裕美, 木幡豊, 日下剛, 福田貴則, 大林美貴, 鶴澤芳江, 市田知之, 外山唯奈
12. 2012/10/26-28, The MID-PACIFIC CONFERENCE on BIRTH and PRIMARY HEALTH RESEARCH, Work shop, The effect of disasters on child birth, presentation and chairman, Hiromi Inoue
- (2) 論文, 翻訳, 教科書, エッセイ等発表
1. 井上裕美, 「生理学的に見た分娩時に“いきむ”ということ」, 助産雑誌, 医学書院, 2012年02月号 (Vol.66 No.2) p.120-124
2. 「疾病と治療」ナーシング・グラフィカ (EX2), 分担執筆, 井上裕美, MCメデイカ出版, 2012/2/20, 第1版第4刷
3. 「人体の構造と機能—解剖生理学」ナーシング・グラフィカ 1, 分担執筆, 井上裕美, MCメデイカ出版, 2012/2/20, 第2版第5刷
4. 井上裕美, 高知大学実践助産学課程, 開設記念シンポジウム, 報告書, 高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻母子看護学分野, 2012/3
5. イヤーノート第22版付録, 「イヤーノート・アトラス」, 第5版, 執筆・画像協力・編集協力, 井上裕美, Medic Media, 2012/4/1
6. 井上裕美, 長谷川充子 共著: 「妊産婦の観察と対応」—上手な聞き取りで一大事を防ぐ, 日総研, 2012/5/23
7. 大田康江: ニュージーランドバースセンター視察

- 報告 助産師(日本助産師会機関誌)(湘南鎌倉総合病院産婦人科チームの視察報告), 2012, vol66, no3, 24-27
8. 福田貴則, 井上裕美, 木幡豊, 日下剛, 門間美佳, 大林美貴, 鶴澤芳江, 鈴木志帆, 外山唯奈: 1回の子宮内容除去術で管理した胎状奇胎の検討, 臨産, 66巻10号, 2012, 901-903
9. 井上裕美, 市田知之, 鈴木志帆: 教訓的症例から学ぶ産婦人科診療のピットホール, 子宮筋腫を合併した妊娠子宮の骨盤内嵌頓の1例, 臨床産婦人科, 第66巻第11号, 2012, 1026-31
10. 井上裕美, 長谷川充子, 大田康江: 創刊19周年記念、最高に幸せなお産スペシャル、今どき出産「ホントのところ」教えます。たまごクラブ, No229, 11月号, 2012, 52-65
11. 井上裕美, 医師が語る40歳代の出産力, 「STORY」10月号, 2012/9/1, インタビュー形式
12. 井上裕美, 関口由紀*, 木幡豊, 日下剛, 福田貴則, 門間美佳, 大林美貴, 鶴澤芳江, 市田知之, 鈴木志帆, 外山唯奈: 断端脱に対する New version Tissue Fixation System (TFS) sling 手術の検討とその変遷について, 日本女性骨盤底医学会誌, 2012, 9(1), 126-131
13. 関口由紀, 井上裕美, 他, クリニックでのTFS (Tissue Fixation System) による日帰り骨盤臓器脱手術—12ヶ月目の成績, 日本女性骨盤底医学会誌, 2012, 9(1), 122-5
14. Kihara M, Usui H, Tanaka H, Inoue H, Matsui H, Shozu M. Complicating preeclampsia as a predictor of poor survival of the fetus in complete hydatidiform mole coexistent with twin fetus. J Reprod Med. 2012 Jul-Aug;57(7-8): 325-8.
- (3) 性教育講演
1. 2012/2/27, 長谷川充子, 井上裕美, 性教育, 生命の尊重, 鎌倉市腰越中学講演, 中学構内マリナー
2. 2012/3/1, 長谷川充子, 井上裕美, 性教育, 生命の尊重・男女の共生, 鎌倉市玉縄中学講演, 大船玉縄多目的教室
3. 2012/3/2, 長谷川充子, 井上裕美, 性教育, 命の大切さ, 鎌倉市大船中学講演, 鎌倉レイウエル
4. 2012/4/13, 長谷川充子, 井上裕美, 性教育, 思春期の心と性, トラブルになりがちな性の問題について, 神奈川県立横浜栄高等学校, 講堂
- (4) 講義・講演
1. 2012/1/16, 井上裕美, 「性暴力被害者支援について: 産婦人科医からみた性暴力: 性暴力とは」講演 神奈川県公安委員会指定, 犯罪被害者等早期援助団体認定特定非営利活動法人 神奈川被害者支援センター 横浜, 主催ボランティア相談員定期研修会
2. 2012/1/23, ミッシェル・オダン来日記念講演および周産期シンポジウム, 鎌倉芸術館, 主催: 湘南鎌倉総合病院産婦人科
3. 2012/5/10, 神奈川県立保健福祉大学, リプロダクティブ・ヘルスケア/助産領域, 2012年度 定例研究会 「骨盤位」 話題提供, 井上裕美
4. 2012/4/7-8/25, 長谷川充子, 井上裕美, 慶応大学医療看護学部 (28単位)
5. 2012/5/12-6/7, 井上裕美, 神奈川県保健福祉大学 助産科 (24単位)
6. 2012/6/10 & 7/21, 井上裕美, 神奈川衛生看護学校 (6単位)
7. 2012/6/20, 長谷川充子, 井上裕美: 「母子保健 (フランス語圏アフリカ) 研修」, JICA依託, 当院

にて

8. 2012/7/4, 長谷川充子, 井上裕美「産科領域におけるEBMの動向と湘南鎌倉総合病院の実践」, 茨城県立医療大学臨床講義 (4単位)
9. 2012/7/9, 井上裕美, 特別講義「お産とジェンダー」, 新潟国際情報大学情報文化学科
10. 2012/11/2. 11/12, 分娩時の合併症 帝王切開, 聖路加大学大学院 (8単位)
11. 2012/11/1. 11/29, 妊娠及び分娩時の合併症 帝王切開, 東京医療保険大学 (12単位)

(5) その他 講演等

1. 2012/10/22-25, 14th ISPP (International Society for Pelviperineology), 湘南鎌倉総合病院が中心となって主催, 日本ISPP, Meeting委員長, 井上裕美
2. 2012/10/25, 14th ISPP学会でのTFS ライブ手術 当院手術室と講堂で施行
3. 2012/11/10, 湘南鎌倉総合病院NICU開設基調講演, 当院講堂, 村松和彦先生, 仁志田博司先生, 小児科の山本剛先生と産婦人科井上裕美で各々, 座長施行

(6) 院外講師を招いての湘南鎌倉レクチャー

菊地公義先生を講師に招いての腫瘍カンファレンス

眼科

■飯島 千津子 眼科部長

日本眼科学会専門医、医学博士

診療科紹介

診療は常勤医1名、視能訓練士4名の体制で行なっている。外来診療は屈折異常、白内障、緑内障、網脈絡膜疾患など眼科一般を扱っている。午後は予約制により、視野検査、蛍光眼底造影検査、術前検査の他、網膜光凝固、YAGレーザー、霰粒腫切開などを行なっている。眼科手術は週3日(月曜午後、火曜午前、木曜午前)行なっており、ほとんどは白内障手術であるが、他に、眼瞼、翼状片、斜視手術も施行している。網膜硝子体関連の手術は大学病院に紹介している。白内障手術に関しては、従来からの単焦点眼内レンズの他、乱視用眼内レンズ、多焦点眼内レンズも導入している。基本的には片眼の手術は1泊入院としているが、希望により日帰り手術も行なっている。

診療実績(2012年1月1日～2012年12月31日)

外来患者数は1日平均60～70人程度である。

年間の手術実績(手術室)を以下に記載する。

1年間の手術統計(手術室)

【白内障手術 1,267】

水晶体再建術(眼内レンズを挿入する) 1,202

水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない) 1

後発白内障手術 64

【眼瞼 28】

眼瞼下垂症手術 17

眼瞼内反症手術 11

【斜視 8】

後転法 6

前転法及び後転法の併施 2

【その他 17】

角膜・強膜縫合術 4

結膜腫瘍摘出術 3

前房、虹彩内異物除去術 2

緑内障手術 1

虹彩切除術 2

硝子体切除術 6

総計 1,320件

展望

眼科的に患者さんのQOLを高められるよう今後も引き続き地域医療に貢献していきたい。

耳鼻咽喉科



■長船 大士 耳鼻咽喉科医長

■枝松 秀雄（非常勤）

■和田 弘太（非常勤）

■松島 康二（非常勤）

診療科紹介

診療は常勤医1名、非常勤3名、臨床検査技師3名で行っております。

外来

耳鼻咽喉科の疾患全般について診断・治療を行っています。

外来では主に顕微鏡による外耳、中耳の観察やファイバースコープによる鼻腔、咽喉頭の観察、フレンツェル眼鏡での眼振検査、専門検査技師による聴力検査、中内耳機能検査、電気眼振図による平衡機能検査を行っています。特に昨今はストレス社会の為か、めまいやふらつきなどで受診する患者さんの数が急増しております。耳性めまいと診断された時点で患者さんにはめまいのリハビリを指導しております。

鼻疾患では主に鼻閉や鼻汁などの主訴が多く、CTやMAST等で鼻内、アレルギー精査を行い、慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻茸などの加療を行っております。内服で改善を認めない場合は、内視鏡を用いた鼻内副鼻腔手術や鼻中隔彎曲矯正術、鼻茸切除、下

鼻甲介焼灼術などの手術加療を随時行っています。鼻出血の止血処置や頻回に繰り返している方には鼻粘膜焼灼術での止血処置を行っています。

耳疾患では慢性中耳炎や急性感音難聴（突発性難聴）、耳管狭窄症、耳鳴症、機能性難聴、滲出性中耳炎、ベル麻痺、ラムゼイハント症候群や前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症、メニエール病などのめまい、難聴疾患の治療を行っています。

慢性中耳炎の場合ではパッチテストを行い、聴力改善が認められれば、手術により耳漏とともに聴力改善が期待できるため、積極的に手術を勧めています。慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎、外耳道病変、また頸部腫瘍疾患に対し、月1回、東邦大学枝松教授の手術日を設けており、鼓室形成術、鼓膜形成術、頸部腫瘍摘出術などの中内耳、頸部手術を行っています。

めまい、難聴は専門の臨床検査技師により電気眼振図による平衡機能検査や聴覚検査等を行い、診断、治療を行っております。加齢に伴う難聴や聴覚精査の上、補聴器が必要と判断した場合は患者さんに補聴器外来への受診をお勧めしております。毎週火、木曜日午後に補聴器外来を設けており、補聴器の試聴や相談、フィッティング、補聴器作成を行っています。まずは耳鼻咽喉科外来を受診して頂き、補聴器が必要な状態かを医師が診察させていただきます。本年度は患者さんのご依頼により、当院補聴器外来で124台の補聴器を作成、提供させていただきました。補聴器購入後のアフターケアも当科補聴器外来で行っています。ご相談は無料ですが完全予約制となります。

咽喉頭疾患では主に咽喉頭異常感症や急性喉頭蓋炎、喉頭浮腫、急性扁桃炎、頸部膿瘍などの治療を行っています。症状に応じて適宜入院での加療を行っています。また食道造影や喉頭ファイバースコープや飲水テストなどによる嚥下機能評価を行っています。

悪性腫瘍疾患は常勤医が1名体制の為、夜間、急変

時の対応などが困難な事から精査、診断を行い、必要に応じて大学病院施設や癌専門病院施設などへご紹介しております。

特殊外来

月1回の特診日(第3土曜日)には枝松教授(耳疾患専門)の診察日を設けており、各専門分野の診療を行っています。

的に行っていきます。

- ・他科や近隣の先生方と連携をとり、鎌倉市中核病院の耳鼻咽喉科としての役割を今まで以上に果たしていきたいと思っています。

1年間の手術統計(2012年1月1日～2012年12月31日)

鼓室形成術	5件
鼓膜チューブ留置術	3件
耳瘻孔摘出術	1件
両側口蓋扁桃摘出術	19件
軟口蓋咽頭形成術	1件
アデノイド切除術	5件
鼻中隔彎曲矯正術	27件
内視鏡下鼻内副鼻腔手術	20件
鼻茸切除術	3件
鼻前庭嚢胞摘出術	1件
上顎洞根本術	3件
下鼻甲介粘膜焼灼術	11件
顎下腺腫瘍摘出術	2件

2012年度 手術件数 88件

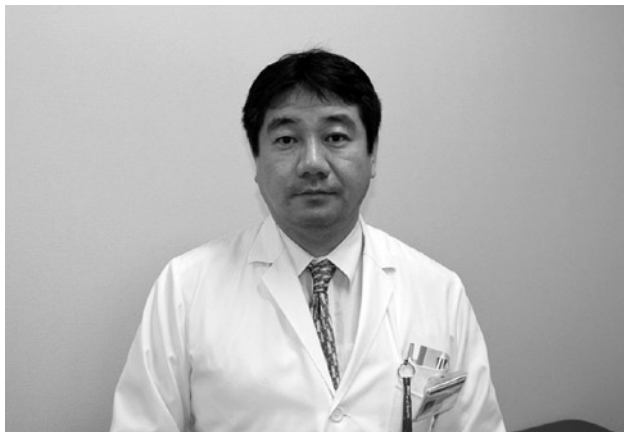
検査統計(2012年1月1日～2012年12月31日)

聴力検査	2360件
平衡機能検査	206件

展望

- ・急性期の疾患に対し、随時受け入れを行い、加療を行っていきます。
- ・患者さんのQOLが向上目的とした手術加療を積極

リウマチ科



■吉澤 和希 内科・リウマチ科部長

日本リウマチ学会専門医、
日本内科学会総合内科専門医、
日本東洋医学会専門医、日本人間ドック学会専門医、
日本プライマリケア学会認定医

1. 展望

昨年から引き続き1人部長で関節リウマチ、およびその他の膠原病に対応している。サテライトクリニックである葉山デイケアクリニックおよび湘南かまくらクリニックに月2回ずつの診療、および徳洲会グループの関連病院である松原・白根・徳之島各徳洲会に月1日ずつ専門外来診療、訪問診療でのリウマチ膠原病患者さんを含めた対応、静岡徳洲会病院の月1回の研修医教育、希望患者にはエキス剤・煎じ薬含めた漢方薬治療、通院リハビリなどを行っている。整形外科的手術については人工関節センターでTKA THAの依頼、およびそれ以外の手術については当院整形外科に適宜コンサルトを行っている。入院患者についてはリウマチ科で主治医になることもあるが、主に総合内科のスタッフ・後期研修医の積極性につき主治医になっていた。また特に膠原病については内科各々の専門家に検査・治療依頼することも多く、コンサルト・連携を図っている。このように主に外来業務中心となってい

るが、病院周囲に専従リウマチ専門家の数が不十分のため、外来は混雑しており十分な対応ができなくなることが苦慮されており、周辺のリウマチ治療に積極的な整形外科および内科Dr.と病診連携の会を施行し、交流を図っている状況である。かつ聖マリアンナ医科大学に依頼し週2コマの外来非常勤、以前当院に勤めていた東京医科歯科大学の福田Dr.に週1コマの外来をお願いしている。

昨年末より生物学的製剤のなかで新しい作用機序で副作用の少ないCTLA4-Ig製剤であるオレンシア®が発売されており、当院でも20名弱の患者さんに治療として投与を行っている。また今年9月より抗TNF- α 製剤で月1回の皮下注投与であるシンボニー®が発売され、その投与の簡便性から使用が見込まれる。これで生物学的製剤6剤体制となり、リウマチ治療のアンカードラックであるMTXが今年3月から週8mgの上限が16mgまで認められることになり、より関節リウマチの治療の幅が広がり、かつそれらの併用により特に発症早期の患者さんについては寛解が夢ではない状況になった。今後も専門家として新しい状況にキャッチアップして、充実した診療を患者さんに提供していきたい所存である。

2. 診療実績

1ヶ月あたりの外来数	約860名
内リウマチ患者数	約300名
その他のリウマチ膠原病患者数	約150名
MTX使用者	約200名
生物学的製剤使用者	約70名

脳卒中診療科



■森 貴久 脳卒中センター長 脳卒中診療科部長
医学博士、日本脳血管内治療学会指導医、
米国神経放射線学会正会員、
American Journal of Neuroradiology Editorial
Board Member (2000～)、
Reviewer: AJNR, Circulation, Cardiovascular
Intervention Neurosurgery, Stroke, PlosOne, SNIS

I. 2012年の総括

2010年9月に新病院・脳卒中センターがスタートした。脳卒中診療関係装置として、1) 3.0T-MRI、2) 320列CT装置、3) バイプレイン・フラットパネル (FPD) 脳血管専用血管造影装置、4) 画像診断ネットワーク (PACSシステム) と 5) 3D-Workstation操作が可能な電子カルテ端末が配備された。CT, MR, DSAとPACSの連携は良く、効率的な診断・治療を行える。脳卒中センターには、4階南病棟、脳卒中センター外来、320列CT装置、FPD脳血管造影装置、高気圧酸素療法装置を同じエリアに集中的に配備し、入院時と入院後の治療・管理が非常に行い易くなり、看護師の負担も減った。同じ4階に心臓病センターがあり、心臓超音波検査や心電図検査も容易である。2012年1月、茅ヶ崎徳洲会病院脳外科の溝上康治医師が血管内治療の研修に加わった。2012年3月、田尻宏之医師が古巣の放射線科に異動し、4月から循環器学会専門医の資格を持つ

高橋陽一郎医師が脳血管障害のカテーテル治療を習得すべく当科に加わった。4月からの新年度は6名体制でスタートした。新年度は脳神経血管内治療専門医2名・指導医1名で始まった。

救急病院の使命を考えると、特別な専門医がいなくても脳卒中の標準的な薬物治療を行える必要がある。本院でも、くも膜下出血を含めた脳卒中患者全体の中で緊急手術 (開頭やカテーテル) を行う患者さんの割合は10%前後であり、それ以外は薬物治療が中心である。救急病院としての使命を本院が遂行し地域の期待に応え続けるためにも、脳卒中の早期診断と手術以外の標準的な初期薬剤治療を救急室・救急外来で行える体制を構築することが重要である。

1) MRI

MRI装置は3.0T (テスラ) と1.5T装置の2台体制。緊急MRI検査の目的と変遷については年報2007に詳しく記載した。2007年1月から緊急MRI/MRA検査もCTと同じ扱いとなり救急総合診療科 (以下ER) の判断で施行し、初期治療対応を行う。症状や画像診断から救急医が脳卒中を考えた時、当科に相談が行われる体制である。緊急MRIは2007年から緊急検査の一つとして当たり前のようにERで行われている。そのため放射線科の多大な協力がある。

2) 脳卒中ガイドラインに基づいた脳外科手術の適応

脳卒中学会による脳卒中ガイドラインに基づいて院内脳卒中ガイドラインを作成し2007年1月から運用を開始し、2008年も順調に運用できた。開頭手術適応を考慮すべき患者さんについては、ERから脳神経外科に直接相談し、脳外科で迅速に治療が行われた。脳外科手術適応をER・脳卒中診療科・脳神経外科で共有し、ERをローテーションする研修医が外科手術適応について考える機会を得ることは、研修医教育・研修内容充実の上でも非常に有用である。

3) 遠隔画像相談（診断）と脳卒中初期治療

2007年から高画質大画面デジタルカメラ内臓携帯電話をERに配置し、脳卒中診療科医師も持ち、画像を見ながら携帯電話で相談できる体制を敷いた。現在はiPhoneで運用している。個人レベルの携帯使用ではなく病院契約の携帯電話で行っているところが重要である。このシステムにより、on-call脳卒中医師はどこにいても画像をみながら救急医と診断と治療について協議できるようになり、音声だけの通常の相談と比べ、診断と治療の効率は高まった。

4) 脳卒中初期診断と初期治療

症状とCTやMR画像を照らし合わせて診断し初期点滴治療を始めるわけだが、脳卒中ガイドラインと添付文書の内容を基本に治療選択肢をERと共有し、2007年から初期点滴治療の開始をERで行っている。脳卒中に対する初期点滴治療は一般的な内科的治療であるが、本院研修委員会が決めた初期研修2年間には脳卒中疾患研修が必須となっていないので、脳卒中患者治療を経験せずに研修終了している初期研修医が多い。従って、ERローテーション時に、脳卒中のCTやMRI/MRA画像を見て脳卒中・脳外科医と協議しつつ、脳卒中基本治療薬を禁忌事項まで考えながら点滴治療を開始できることは、本院の研修システムの優れた特徴の一つでもある。

部	長	森 貴久	京都大学	昭和61年卒	2000/1/1 -
医	長	田尻 宏之	弘前大学	平成7年卒	2007/4/1 - 2012/3/31
医	長	岩田 智則	島根大学	平成14年卒	2007/4/1 -
ス	タ ッ プ	宮崎 雄一	九州大学	平成16年卒	2010/4/1 -
ス	タ ッ プ	高橋陽一郎	秋田大学	平成12年卒	2012/4/1
ス	タ ッ プ	中崎 公仁	熊本大学	平成18年卒	2008/4/1 -
茅ヶ崎徳洲会		溝上 康治	佐賀大学	平成11年卒	2012/1/1 - 2012/8/31

脳卒中センター秘書：千葉のぞみ

II. 2012年の診療活動のまとめ

地域連携診療計画「連携パス」

病院間の連携を考える上で2008年に始まった地域連携診療計画、いわゆる「連携パス」の運用は順調である。急性期病院である湘南鎌倉総合病院脳卒中診療科が、回復期リハビリテーション施設として6つの病院と地域連携診療計画書（連携パス）を共有し、計画に従って転院し、リハビリテーション病院で治療を受け、その結果を計画管理病院である脳卒中診療科に報告する、という理想的な流れが完成している。当科から紹介した患者さんの退院先まで管理できるし、する義務がある（厚生局に報告している）。

2008年4月から診療報酬として、患者さんの紹介元（急性期）病院は地域連携診療計画管理料（900点）を、そして患者さんの治療を引き継いだ（リハビリテーション）病院では、退院時に退院時指導料（600点）を請求している。

地域連携診療計画書（連携パス）を共有している回復期施設は、鶴巻温泉病院、聖テレジア病院、湘南東部総合病院、茅ヶ崎新北陵病院、湘南記念病院、済生会若草病院の6病院である。10年前と比べ、地域の病院が急性期病院と（回復期）リハビリテーション病院とに自然と分かれ、地域での役割が明確である。当科では2000年の開設以来、「かかりつけ医」制度を基本方針として診療活動を開始した。藤沢市、横浜市、逗子市、葉山町の開業医の先生と連携体制を確立し、結果として紹介していただける関係を構築・継続できている。2010年から脳卒中連携パスは「かかりつけ医」まで診療報酬で結ばれている。

- ・神奈川脳卒中カンファレンス（2回／年）：急性期病院とリハビリテーション病院との勉強会。
- ・湘南脳卒中研究会（2回／年）：急性期病院と開業医の先生方との勉強会。
- ・大磯セミナー（毎年7月）：脳卒中関連全ての職種

が一同に会する機会。

開業医の先生で、脳卒中の勉強会で一度も会ったことがない先生は、脳卒中の再発予防に無関心と判断せざるをえなくなり、本院(当科)が関東厚生局に届け出る地域連携の開業医リストに記載できない。脳卒中地域連携を保険診療で扱う最大の目的は、再発予防を「かかりつけ医」にお願いすべきということなのだから、脳卒中の勉強会に参加しない医師を連携医に記載

することはできないし、積極的に逆紹介もできない。回復期施設にしても、相手が見えない施設とは、当科は連携していない。

2012年1年間の平均在院日数

6.5日

(脳卒中を扱う中では全国最短の在院日数であろう)

入院患者総数	緊急入院	予定入院(血管造影検査・血管内治療)
1048人	645人(61.5%)	403人

脳卒中患者	TIA	脳梗塞	脳内出血	くも膜下出血
858人	51人	552人	190人	60人(脳外 51人)

TIA	脳梗塞	心原性脳塞栓症	アテローム血栓性	ラクナ梗塞	梗塞(その他)
51人	545人	168人	211人	78人	88人
4.5時間未満来院・脳梗塞		224人			
rt-PA静注治療件数		17件(中大脳動脈閉塞：9人、内頸動脈閉塞：3人、その他5人)			
バス運用期間1/1-12/31		転院患者数：290人		連携バス利用転院：240人(利用率：82.8%)	

脳血管造影総数	脳血管内治療	血管造影検査			
840 件	188件	652件			
脳血管内治療	緊急治療	待機的治療			
188件	53件	135件			
緊急治療	再開通治療	破裂動脈瘤塞栓術	AVF		
53件	49件	3件	1件		
待機的治療	頸部・頸動脈形成術(ステント術)	頭蓋内血管拡張術(ステント治療)	動脈瘤塞栓術	その他	
135件	61件	25件	22件	27件	

Ⅲ. 2012年 専門医試験

2012年日本脳血管内治療学会の専門医試験合格者はいなかった。

Ⅳ. 脳梗塞治療：rt-PA静脈注射療法

rt-PA静脈注射治療は薬剤の治療なので、条件さえ整えばレジデントでも一般内科医でも可能な再開通治

療であるが、致命的な脳出血を起こす危険性があるので、安易に施行することはできない。2012年8月31日、本邦でもrt-PAは発症後4.5時間以内と時間延長が認められた。本院でも救急総合診療科(ER)と相談し、10月から運用開始した。2012年1年間に、17例にrt-PA治療を行うことができた。単純CTだけで適応を決めず、DWIとMRAで脳梗塞と脳血管閉塞が証

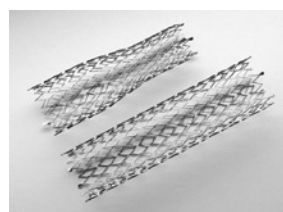
明された(疑われた)患者さんにだけrt-PA治療を施行するのが本院の特徴である。徳洲会グループの中で、rt-PA治療ができている病院が少ないことを考えると、脳外科医の常勤医が登録されてさえいればERが責任を持ってrt-PA治療を行うことも、グループ全体では必要かもしれない。今回の適応追加後に脳卒中学会の適正使用指針が出されたが、添付文書の内容に反することを指針とされていて、対応は病院毎にまかされている。本院では倫理委員会を開き、指針より添付文書遵守で治療を行う事になった。

V. 脳卒中カテーテル治療領域の出来事

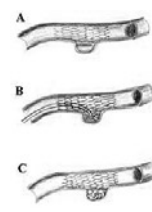
2012年に新しく使用可能になった脳血管カテーテル治療デバイスに、COVIDIEN社のPROTEGE頸動脈ステントセットとStryker社のNeuroformステント(脳動脈瘤用)がある。頸動脈ステントは2008年4月からJ&J社の頸動脈ステント(Precise)が保険収載され、2010年にBoston Scientific社の頸動脈ステント(CarotidWallstent)が保険収載されていたので、これで頸動脈ステントは3種類、同時にフィルターカテーテルも3種類が使用可能となった。動脈瘤塞栓術を助けるステントとしては、コッドマン社からエンタープライズVRD(vascular reconstruction device)が2010年7月から保険収載されていたが、Neuroformが出て2種類となった。

脳梗塞超急性期治療の領域では、経皮経管的脳血栓回収機器として2010年にMerciレトリバーが保険収載され、2011年にはPenumbraが保険収載された。急性期脳梗塞に対するカテーテル治療の歴史は、超選択的経カテーテル的血栓溶解療法に始まり、血管拡張術(形成術)が続いた。いずれも順行性の血行再建術であるが、満足いく再開通率が必ずしも得られないので、2004年頃から世界のいくつかの施設で血栓回収治療の試みが始まった。当センターもその一つである。急性期脳梗塞に対する再開通治療の現在の主流は血栓回

収治療である。



Protégé Carotidstent



Neuroformとコイル塞栓

VI. 脳卒中患者に対する栄養対策

脳卒中患者は経口摂取が出来ないことや不十分なことが多い。発症後の栄養摂取が不十分となり、結果として易感染状態となって回復力が低下することにもなりかねない。そこで、2004年頃から院内NSTの設立に先駆けて、脳卒中診療科、栄養部、リハビリ科ST、薬剤部と協力して、意識障害や嚥下障害で経口摂取ができなくて経鼻経管栄養になった患者さんに対して、栄養状態を悪化させない取り組みを始めた。院内NSTが設立され薬剤部は当科患者の対策には参加しなかったが、栄養部とSTとの協議は今も続いている。経管栄養剤の種類、投与開始時期、患者個別の総投与量の目標設定を重要視し、ハリス・ベネディクト式や、糖尿病患者の場合は、糖尿病治療を考慮したエネルギー投与量を早期に算出し、治療・管理を行っている。脳卒中発症というストレスと炎症急性期に経管栄養を開始すると、急に高血糖になり血糖管理に悩まされることがある。そこに誤嚥性肺炎を合併すると状態はさらに高血糖になる。従来はスライディング・スケールを用いて管理していたが、経管栄養の場合は投与する糖質量を知る事が出来るので、糖質量を調節しながら持効型インスリンを中心にしたBOT(Basal Oral Therapy)や即効型・超即効型インスリンを用いた強化インスリン療法を行う事で、インスリン過量での低血糖を起こし難くなった。高血糖対策には、カロリー量ではなく糖質量を意識してインスリンを使う事が出

来れば、血糖を下げるために投与するカロリー総量を減らす事無く血糖管理できる。必要なカロリーを減らすのは栄養状態を改善できないので問題である。栄養状態を悪化させないことは、感染予防の上で特に重要と考えている。誤嚥性肺炎必発と思われる重症意識障害の脳卒中患者の場合でも、入院初日から栄養管理に力を入れる事で、下痢や誤嚥性肺炎を予防し、早期に回復期リハビリ施設への転院を実現している。

VII. 学会活動、論文執筆

日々の診療の忙しさを理由に、学会発表や論文作成に無縁になってしまうと、結果として独りよがり、自身の診療になんの反省も改善も行えない医師になってしまいかねない。そうならないためにも、学会活動や論文作成は非常に重要だと考えている。自身が行った診断や治療を他者に正確に伝える事、過去の報告や考え方をまとめ、どういう根拠で診断し治療を行ったのかを表現できる実力を養う事は、責任ある診断と治療を行う実力をつける上で非常に重要である。当科に研修に来る医師には、専門医資格を得ることと全国学会で発表することは当然として(表1)、国際学会で発表できる実力と、英語論文を執筆できる実力をつけることを目指している。そして、欧米での学会発表や英語論文発表を続けられることは、質の高い診療行為の担保にもつながり、非常に重要で意義があると考え。科としては、日本脳神経血管内治療学会、日本脳卒中学会、日本神経学会など(表1)で発表し、欧米ではAmerican Heart Association (AHA/ASA), American Society of Neuroradiology, European Stroke Conference, には毎年発表できるように力を入れている。さらに湘南地域での脳卒中診療の発展のために、神奈川脳卒中カンファレンスや湘南脳卒中研究会、大磯セミナー、KNISSなど、いくつかの勉強会を立ち上げ、現在も続けている(表1)。

VIII. まとめ

2012年は脳卒中センターは順調に機能し運用できた。

IX. 内科後期研修センター設立

2011年暮れ、「総合内科」専従医が減り、後期研修医が「総合内科」に残らず、崩壊の危機であると部長会議で報告があり、皆で対策を考える事になった。そのとき初めて、いわゆる総合内科と循環器科、腎臓内科、消化器科、血液内科は全く別に運営されていることを知った。総合内科が縮小しても、自分の科とは別の科の事、のような顔をしているように見える部長もいた。いろんな意見が出されたようだが、聞く範囲では、病院全体にとっても非生産的な対策に思えた。さらに、総合内科は総合「内科」なのか、総合「診療科」なのか、総合内科自身がはっきりしていないこともわかった。というのは、医師には専門医制度があるので、「総合内科」医師がまず目指す専門医は内科認定医なのか違うのか。もし内科認定医であるのなら、内科系医師はみな内科認定医を持たなければ内科系専門学会専門医受験資格を得られないはず。ここに、内科系診療科を一つにつなぐ方策があると考え、内科系が一つになって後期研修医を育て、内科認定医を必ずとらせることを当然のことにする研修システムを提案し、小林副院長や北川・菅波両部長とで考えてもらった。この方策が成功すれば、内科系後期研修医が増え、結果として総合内科の医師も増えることになるからである。その結果、内科後期研修センターが出来、2012年春から新制度での内科後期研修が始まった。従来と違い、全ての内科専門科を自由にローテートできる後期研修は魅力であろう。これは生産的で前向きな方策であったと自負している。

学会(表1)

発表者	演題名	学会名	開催地	
Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M, Takahashi Y	Initial experience of a novel sheath guide for transbrachial coil embolization of cerebral aneurysms in the anterior cerebral circulation	36th European Society of Neuroradiology Annual Meeting 2012	Edinburgh, UK	ポスター発表
Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M, Mizokami K, Takahashi Y, Inagaki S, Sihasi G	DWI/PWI-combined determinant of endovascular reperfusion therapy in acute stroke patients within 4.5 hours of onset due to the carotid artery occlusion	36th European Society of Neuroradiology Annual Meeting 2012	Edinburgh, UK	ポスター発表
Nakazaki M, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y	The usefulness of PWI-based Time Intensity Curve to predict neurological deterioration after onset in Acute Ischemic Stroke Patients with Severe Stenosis or Occlusion Of The Internal Carotid or Middle Carotid Artery	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	口演
Tajiri H, Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Utility of CT perfusion compared with SPECT scans in acute stroke patients with the carotid artery or middle cerebral artery disease	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	口演
Mizokami K, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Clinical and Angiographic Outcomes following Balloon Angioplasty and Stenting of Venous Sinus Occlusion Coupled with Dural Arteriovenous Fistulas	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	ポスター発表
Iwata T, Mori T, Tajiri H, Miyazaki Y, Nakazaki M	Significant increase of immediate post-CAS whole-brain oxygen extraction fraction in case of hyperperfusion syndrome after carotid artery stenting	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	口演
Suzuki H, Nakazaki M, Mori T	The appropriate body position during Nasal-Gastric tube feeding (NGF) to prevent the aspiration pneumonia in acute stroke patients	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	口演
Miyazaki Y, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Nakazaki M	Preoperative risk determinants for cerebral hyperperfusion syndrome following elective carotid artery stenting	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	ポスター
Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Utility of DWI/PWI-combined factor to predict short-term clinical outcome in stroke patients within 4.5 hours of onset due to the carotid artery occlusion	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	ポスター
Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Long-term clinical outcome following elective percutaneous transluminal balloon angioplasty or stenting based on lesions features of symptomatic intracranial artery disease	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	ポスター発表
Miyazaki Y, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Nakazaki M	Comparison Of Four-dimensional CT Angiography (4D-CTA) With MRA In Acute Ischemic Stroke Patients With Probable Internal Carotid Artery Occlusion	European Stroke Conference 2012	Lisbon, Portugal	ポスター発表
Iwata T, Mori T, Tajiri H, Miyazaki Y, Nakazaki M	Feasibility, Efficacy and Safety of Transbrachial Approach for Carotid Artery Stenting	International Stroke Conference 2012	New Orleans, USA	ポスター発表
Nakazaki M, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y	The Relationship Between MRI/PWI-Time Intensity Curve And 3-month Clinical Outcome Of The Acute Ischemic Patients Who Underwent Endovascular Reperfusion Therapy For IC Or MCA Occlusion	International Stroke Conference 2012	New Orleans/ U.S	ポスター発表

発表者	演題名	学会名	開催地	
Tajiri H, Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Nutritional Predictors of Long-term Clinical Outcome in Patients Fed Through a Gastro-intestinal Tube Following Serious Acute Stroke	International Stroke Conference 2012	New Orleans/ USA	ポスター発表
Tajiri H, Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Significance of the Susceptibility Vessel Sign on T2*-Weighted Images to Predict Clinical Outcome Following Emergency Endovascular Treatment in Patients with Acute Basilar Artery Occlusion	International Stroke Conference 2012	New Orleans/ USA	ポスター発表
Miyazaki Y, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Nakazaki M	Comparison of Four-dimensional CT Angiography(4D-CTA) with MRA in Acute Ischemic Stroke Patients with Probable Internal Carotid Artery Occlusion	International Stroke Conference 2012	New Orleans/ USA	ポスター発表
Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Utility of Diffusion-Weighted Imaging/Perfusion-Weighted Imaging-Based Combined Factor to Predict Short-Term Clinical Outcome in Stroke Patients within 4.5 Hours of Onset Due to the Carotid Artery Occlusion	ASNR 2012	New York, USA	ポスター発表
Iwata T, Mori T, Tajiri H, Miyazaki Y, Nakazaki M	Feasibility, Efficacy and Safety of Transbrachial Approach for Carotid Artery Stenting	ASNR 2012	New York, USA	ポスター発表
Nakazaki M, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y	Usefulness of Perfusion-Weighted Imaging-Based Time Intensity Curve to Predict Neurologic Deterioration after Onset in Acute Ischemic Stroke Patients with Severe Stenosis or Occlusion Of the Internal Carotid or Middle Carotid Artery	ASNR 2012	New York, USA	ポスター発表
Nakazaki M, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Miyazaki Y	Utility of Diffusion-Weighted Imaging/Perfusion-Weighted Image-Combined Predictor of Favorable 3-Month Clinical Outcome in Acute Ischemic Stroke Patients Who Underwent Endovascular Reperfusion Therapy for Internal Carotid or Middle Carotid Artery Occlusion	ASNR 2012	New York, USA	ポスター発表
Tajiri H, Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M	Utility of CT Perfusion Compared with SPECT Scans in Acute Stroke Patients with Carotid Artery or Middle Cerebral Artery Disease	ASNR 2012	New York, USA	ポスター発表
Miyazaki Y, Mori T, Tajiri H, Iwata T, Nakazaki M	Comparison of Four-Dimensional CT Angiography with MR Angiography in Acute Ischemic Stroke Patients with Probable Internal Carotid Artery Occlusion	ASNR 2012	New York, USA	ポスター発表
Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M, Takahashi Y	Initial Experience of a Novel Sheath Guide for Transbrachial Carotid Artery Stenting	9th Karolinska Stroke Update Conference 2012	Stockholm, Sweden	ポスター発表
Mori T, Iwata T, Miyazaki Y, Nakazaki M, Takahashi Y	Initial experience of a novel sheath guide for transbrachial coil embolization of cerebral aneurysms in the anterior cerebral circulation	9th Karolinska Stroke Update Conference 2012	Stockholm, Sweden	ポスター発表
Iwata T, Mori T, Tajiri H, Miyazaki Y, Nakazaki M	Long-term angiographic and clinical outcome following stenting by flow reversal technique for chronic occlusions older than 3 months of the cervical carotid or vertebral artery	Neurosurgery. 2012 Jan; 70 (1): 82-90		論文
森 貴久, 田尻宏之, 岩田智則, 宮崎雄一, 中崎公仁	発症4.5時間以内に急性頸動脈閉塞で来院した脳梗塞患者に対するMR-DWI/PWI複合予後予測因子の検討	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
中崎公仁, 森 貴久, 田尻宏之, 岩田智則, 宮崎雄一	IC, MCAの狭窄, または閉塞による急性期脳梗塞において, 症状進行を予測する上でのMRI/PWIの有用性	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演

発表者	演題名	学会名	開催地	
岩田智則, 森 貴久, 田尻宏之, 宮崎雄一, 中崎公仁	経上腕動脈法による頸動脈ステント留置術	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
岩田智則, 森 貴久, 田尻宏之, 宮崎雄一, 中崎公仁	経上腕動脈法による待期的・前方循環脳動脈瘤コイル塞栓術	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
田尻宏之, 森 貴久, 岩田智則, 宮崎雄一, 中崎公仁	内頸動脈・中大脳動脈狭窄病変を伴う急性期脳梗塞における320列CTを用いた全脳Perfusion CTの有用性	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
宮崎雄一, 森 貴久, 田尻宏之, 岩田智則, 中崎公仁	頭部MRAで患側内頸動脈閉塞が疑われた急性期脳梗塞患者における頭部4D-CTA所見に関する検討	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
中崎公仁, 森 貴久, 田尻宏之, 岩田智則, 宮崎雄一	急性期脳梗塞患者のせん妄状に対する, 抑肝散の効果について検討	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
鈴木春香, 中崎公仁, 森 貴久	急性期脳梗塞患者の経管栄養投与時の体位と炎症反応の変化について	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
森 貴久, 田尻宏之, 岩田智則, 宮崎雄一, 中崎公仁	IC, MCAの狭窄, または閉塞による急性期脳梗塞において, 症状進行を予測する上でのMRI/PWIの有用性	第37回日本脳卒中学会総会 STROKE2012	福岡	口演
宮崎雄一, 森 貴久, 田尻宏之, 岩田智則, 溝上康治, 中崎公仁	脳卒中急性期の経管栄養におけるペプタメンAFとメインの比較	第4回JSPEN首都圏支部学術集会	東京	口演
宮崎雄一, 森 貴久, 岩田智則, 高橋陽一郎, 中崎公仁	待機的頸動脈ステント留置術後のステント内再狭窄に関連する因子についての検討	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	ポスター発表
森 貴久, 宮崎雄一, 岩田智則, 中崎公仁, 高橋陽一郎, 椎橋 元	上腕動脈経由で頸動脈領域の脳血管内治療を可能にする専用シースガイドの開発	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	口演
中崎公仁, 森 貴久, 岩田智則, 宮崎雄一, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎	内頸動脈あるいは中大脳動脈閉塞に対しカテーテル治療を施行した急性期脳梗塞患者の治療前DWI-ASPECTSと良好な臨床転帰との関係についての検討	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	口演
高橋陽一郎, 森 貴久, 岩田智則, 宮崎雄一, 中崎公仁, 溝上康治, 稲垣俊一郎	CAS後過灌流現象を予測するCAS前CTperfusion変数	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	口演
岩田智則, 森 貴久, 宮崎雄一, 中崎公仁, 溝上康治, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎	CAS前後・採血法OEF値とCAS直後過灌流現象	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	口演
岩田智則, 森 貴久, 宮崎雄一, 中崎公仁, 溝上康治, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎	経上腕動脈法による前方循環脳動脈瘤コイル塞栓術	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	ポスター発表
椎橋 元, 中崎公仁, 森 貴久, 岩田智則, 溝上康治, 宮崎雄一, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎	急性期脳梗塞に対する緊急血栓回収治療における来院・穿刺時間の検討	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	ポスター発表
溝上康治, 宮崎雄一, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎	左椎骨動脈起始部狭窄を合併した頭蓋内左椎骨動脈病変に対する脳血管内治療施行時の右上腕動脈経由MSK-GUIDE7.5X70guiding sheathの有用性	第28回日本脳神経血管内治療学会総会	仙台	ポスター発表

発表者	演題名	学会名	開催地	
中崎公仁, 森 貴久, 岩田智則, 宮崎雄一, 溝上康治, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎, 椎橋 元	上腕動脈アプローチによる, 中大脳動脈狭窄症に対する 経皮的脳血管形成術の検討	第14回 Kanagawa Neuro- Intervention Seminar for Stroke (KNISS)	横浜	口演
中崎公仁, 森 貴久, 岩田智則, 宮崎雄一, 溝上康治, 高橋陽一郎, 稲垣俊一郎, 椎橋 元	Penumbra systemにて再開通を得ることができな かった中大脳動脈閉塞症の検討	第14回 Kanagawa Neuro- Intervention Seminar for Stroke (KNISS)	横浜	口演
岩田智則, 森 貴久, 宮崎雄一, 中崎公仁	経上腕動脈法による頸動脈ステント留置術	第53回日本神経学会学術大 会	東京	ポスター 発表
中崎公仁	脳梗塞を繰り返した、内頸動脈軽度狭窄症に対する CAS	第5回横浜エリアCAS研究会	横浜	口演
溝上康治, 森 貴久, 岩田智則, 田尻宏之, 宮崎雄一, 中崎公仁	経上腕動脈的コイル塞栓術を施行した前方循環・脳動 脈瘤の3例	日本脳神経外科学会 関東支 部学術集会	東京	口演

腎免疫血管内科



■小林 修三 副院長、検査部長

日本内科学会評議員、日本フットケア学会理事長、
日本医工学治療学会理事、
日本下肢救済・足病学会監事、
日本腎臓学会評議員・指導医、
日本高血圧学会評議員・指導医 (FJSH)、
日本病態栄養学会評議員・専門医、
日本急性血液浄化学会評議員、
日本透析医学会評議員・指導医、
日本腹膜透析学会評議員、
日本アフレスシス学会評議員

■日高 寿美 血液浄化センター長

日本内科学会総合内科専門医、
日本腎臓学会評議員・指導医・専門医、
日本透析医学会指導医・専門医、
日本フットケア学会評議員、
日本病態栄養学会評議員・専門医

■大竹 剛靖 腎免疫血管内科主任部長

日本透析医学会指導医・専門医、
日本腎臓学会専門医、日本内科学会認定医

■守矢 英和 腎免疫血管内科部長

日本腎臓学会指導医・専門医、
日本透析医学会専門医、
日本内科学会総合内科専門医、
日本高血圧学会専門医

■岡 真知子 腎免疫血管内科医長

日本腎臓学会指導医・専門医、
日本透析医学会専門医、日本内科学会認定医

■宮本 雅仁 血液浄化センター医長

日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医、
日本内科学会総合内科専門医、
日本臨床腎移植学会認定医、日本移植学会専門医

■石岡 邦啓 腎免疫血管内科医長

日本内科学会認定医

■持田 泰寛

日本内科学会認定医

■堤 大夢

■中島 みなみ

■長谷川 正宇

■真栄里 恭子 (非常勤)

日本内科学会認定医

■甲斐 千景 (通修医)

診療

〈人事〉

2012年4月1日より腎移植外科部長に東京女子医大泌尿器科より徳本直彦先生を迎え、腎免疫血管内科、血液浄化部とともに新たに腎臓病総合医療センターを立ち上げた。

また、血液浄化部医長に聖マリアンナ大学腎・高血圧内科より宮本雅仁先生、腎免疫血管内科に後期研修医の中島みなみ先生 (東京大学医学部より)、長谷川正宇先生を迎えた。

〈腎臓の専門医は先ず内科医であるべし〉

総合内科へのバックアップを図っており、一般外来、夕診、当直など総合内科の一般業務を担っている。さらに2012年においては石岡邦啓医長が総合内科の専属スタッフとなり、総合内科の全面的なバックアップ

を行った。

各専門内科は専門医である前に先ず内科医であるべしとの原点に返り日々の診療を行うよう、われわれは常に心がけている。

〈足外来〉

外来部門では、腎臓内科が行っている足診療をさらに効率よく進め、かつ足病を持つ患者さんのゲートキーパーにもなれるよう、2010年7月より足外来を開設し継続している。また、フットカンファレンスを月2回行い、循環器科、外科、形成外科やコメディカルとの連携を密にし、足診療を推進できるように努めている。

〈他病院応援〉

徳之島徳洲会病院、湘南厚木病院において外来、入院患者の診療、救急、当直の応援を行っている。また瀬戸内徳洲会病院、葉山ハートセンターにおいては、外来患者、透析患者の診療を行っている。

〈海外透析医療支援〉

諸外国の透析医療支援は当科の大きな仕事の一つである。詳細は血液浄化部の年報を参照していただきたい。2012年に当院に研修を受けに来た国は下記の通りである。2008年にモザンビークへの透析医療支援を行って以来、海外透析医療支援を現在も続けている。

- ・2012年2月アフリカ南部のレソト王国から医師、看護師、臨床工学士の4名が研修
- ・2012年6月ガーナ共和国より医師、看護師、臨床工学士の4名が研修
- ・2012年6月モンゴルから医師、看護師、臨床工学士の4名が研修

〈学会、研究会活動〉

第8回腎と心血管障害研究会の最優秀演題賞を大竹主任部長が授与され、2012年7月22日に開かれた第9回腎と心血管障害研究会において受賞講演「透析患者のPAD—下肢動脈石灰化の意義とPADスクリーニングのためのABI至適cut off値について」を行った。

また、第83回横浜シンポジウムで開かれた神奈川腎研究会において真栄里医師が優秀演題賞を授与された。

日々の診療はもちろんであるが、学会研究会活動も重視している。何よりFor the patientsを理念とし、「世にものを問う姿勢を持ち続けること」を目標として活動をしている。

展望

今後、再生医療も視野に入れたハイレベルな診療を目指す。

学会部門では、2013年に第29回日本医工学学会と日本フットケア学会鎌倉セミナーを主催することとなっている。

診療実績

2012年診療実績データ(1月～12月)

新入院患者数	569人
延べ入院患者数	11,025人
血液透析導入患者数	51人
腹膜透析導入患者数	11人
延べ外来受診患者数	13,153人

2012年腎生検施行内訳(年間68件)

メサングウム増殖性腎炎	25件
IgA腎症	11件
Non-IgA腎症	14件
微小糸球体変化	6件
膜性腎症	5件
良性腎硬化症	0件

巣状糸球体硬化症	1件	第37回鎌倉Round Table Meeting, 鎌倉, 2012
壊死性半月体形成性腎炎	4件	7. 小林修三：糖尿病・透析患者における末梢動脈疾患の治療戦略. アンプラーグ学術講演会, 東京, 2012
ループス腎炎	2件	
管内増殖性糸球体腎炎	5件	
急性尿細管間質性腎炎	2件	8. 小林修三：透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. チーム医療で足を助ける会, 大宮, 2012
糖尿病性腎症	4件	
膜性増殖性糸球体腎炎	1件	
原発性アミロイドーシス	1件	9. 小林修三：増加する下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. 社会保険中京病院 第5回フットケア講演会, 名古屋, 2012
悪性腎硬化症	1件	
硬化性糸球体腎炎	3件	
骨髄腫腎	2件	10. 小林修三：透析患者における足病変と石灰化～早期発見と治療戦略～. ホスレノール発売3周年記念講演会, 山形, 2012
急性尿細管壊死	1件	
壊死性血管炎	1件	
血栓性微小血管症	1件	11. 小林修三：透析患者における心血管障害と石灰化～炭酸ランタンの効果～. 東葛リンセミナー, 千葉, 2012
髓質嚢胞症	1件	
その他	2件	
合計	68件	12. 小林修三：透析患者における下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. 福岡県透析医会 学術講演会, 福岡, 2012

学術業績

(1) 特別講演

- 小林修三：透析患者における閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. 第4回東海創傷治療フォーラム開催のお知らせ(第2報), 名古屋, 2012
- 小林修三：慢性腎臓病における心血管障害. 「鎌倉市薬剤師会」研究会, 鎌倉, 2012
- 小林修三：透析患者における心血管障害と冠動脈石灰化～炭酸ランタンの効果～. ホスレノール発売三周年記念講演会, 沖縄, 2012
- 大竹剛靖：再生医療の現状と展望. 湘南鎌倉総合病院 病診連携の会, 藤沢, 2012
- 小林修三：糖尿病；透析患者における末梢動脈疾患～早期発見と治療戦略. アンプラーグ学術講演会, 福岡, 2012
- 小林修三：慢性腎臓病(CKD)における心血管障害.
- 小林修三：糖尿病・透析患者における末梢動脈疾患の治療戦略. アンプラーグ学術講演会, 東京, 2012
- 小林修三：透析患者の下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. チーム医療で足を助ける会, 大宮, 2012
- 小林修三：増加する下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. 社会保険中京病院 第5回フットケア講演会, 名古屋, 2012
- 小林修三：透析患者における足病変と石灰化～早期発見と治療戦略～. ホスレノール発売3周年記念講演会, 山形, 2012
- 小林修三：透析患者における心血管障害と石灰化～炭酸ランタンの効果～. 東葛リンセミナー, 千葉, 2012
- 小林修三：透析患者における下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略～. 福岡県透析医会 学術講演会, 福岡, 2012
- 小林修三：透析患者における心血管障害～その病態と対策～. 腎不全・腹膜透析セミナー2012年度 第2回, 名古屋大学医学部附属病院, 2012
- 小林修三：透析患者における心血管障害と石灰化～炭酸ランタンの効果～. 第39回東北腎不全研究会 教育セミナー1, 2012
- 小林修三：医学の歴史と作曲家の病～モーツァルト・ベートーベン・ブラームス～. 善行雑学大学第159回講座, 藤沢, 2012
- 小林修三：医療講演 第8回 身体にいい音楽会, 藤沢, 2012
- 小林修三：ダルベポエチンの投与日の違いによる血管内皮前駆細胞と心機能への影響について. 第2回SKセミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
- 小林修三：ランチョンセミナー1「透析・糖尿病

- 患者における末梢動脈疾患～早期発見と治療戦略」, 第9回日本フットケア学会 岐阜セミナー, 岐阜, 2012
19. 小林修三: ランチョンセミナー2 Peripheral arterial disease in patients with chronic kidney disease (CKD) ～An early detection and strategy for the treatment, 第30回国際血液浄化学会総会 (ISBP2012), 横浜, 2012
20. 小林修三: LDLアフェレシスの作用機序と新たな展開, 神奈川県臨床工学技士会勉強会, 横浜, 2012
21. 小林修三: フットケアから足と命を守ろう～早期発見とその治療～, 透析合併症対策講演会 浜松地区講演会, 静岡, 2012
22. 小林修三: 透析患者における心血管障害と石灰化～炭酸ランタンの効果～, Bayer Evening Seminar 2012ーホスレノール顆粒 新発売を迎えてー, 甲府, 2012
23. 小林修三: 講演・2 透析患者における血圧管理と心血管障害, 第23回臨床工学セミナー, 横浜, 2012
24. 小林修三: ランチョンセミナー 透析患者におけるPAD～, 病態・早期発見・集学的治療 CCT 2012, 神戸, 2012
25. 小林修三: 透析患者における下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略, 第32回東北MMC研究会, 仙台, 2012
26. 大竹剛靖: ランチョンセミナー10 透析患者における心血管障害と冠動脈石灰化～炭酸ランタンの効果～, 第57回日本透析医学会学術集会, 札幌, 2012
27. 大竹剛靖: 透析患者の冠動脈病変～リン吸着薬の選択が冠動脈石灰化進展に及ぼす影響について～, 横浜透析合併症治療講演会, 横浜, 2012
28. 大竹剛靖: 透析患者の動脈硬化～心臓も足もどうしたら守れるか?～, ホスレノール勉強会, 浜松, 2012
29. 大竹剛靖: PAD合併透析患者の問題点と治療戦略～透析医から見たPAD合併透析患者の問題点～, ハートと足を守る会, 岐阜, 2012
30. 大竹剛靖: リン吸着薬をどう選ぶか? 血管石灰化進展抑制のデータから, ホスレノール発売3周年記念講演会, 藤沢, 2012
31. 大竹剛靖: 透析患者における動脈硬化～心血管障害と冠動脈石灰化～, ホスレノール発売3周年記念講演会, 前橋, 2012
- (2) シンポジウム, ワークショップ
1. 大竹剛靖: 透析患者PADの特徴と重症下肢虚血に対する治療, 第4回日本下肢救済・足病学会学術集会, 愛知, 2012
2. 持田泰寛: 持続的血液濾過透析施行患者におけるメロペネムの薬物動態, 透析医療における感染対策セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
3. 小林修三: 透析・糖尿病患者における末梢動脈疾患～早期発見と治療戦略～, 第9回日本フットケア学会 岐阜秋季セミナー, 岐阜, 2012
4. 大竹剛靖, 小林修三: LDLアフェレシスの下肢閉塞性動脈硬化症 (ASO) に対する効果とその機序, 第33回日本アフェレシス学会学術大会, ハウステンボス, 2012
5. 日高寿美: 腎と高血圧, 逗葉内科医会, 葉山, 2012
6. 小林修三: LDLアフェレシスの下肢閉塞性動脈硬化症 (ASO) に対する効果とその機序, 第16回日本アフェレシス学会中部学術集会, 名古屋, 2012
7. 守矢英和: 血液透析, 腹膜透析の予後比較～当院

のデータから. 第4回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院講堂, 2012

8. 大竹剛靖, 持田泰寛, 小林修三: ワークショップ LDLアフェレシスを用いたハイブリッド治療の応用ー下肢末梢動脈疾患. 第57回日本透析医学会学術集会, 札幌
9. 大竹剛靖: 透析患者における動脈硬化〜心血管障害と冠動脈石灰化〜. ホスレノール発売3周年記念講演会, 前橋, 2012
10. 大竹剛靖: PAD合併透析患者の問題点と治療戦略 透析医からみたPAD合併透析患者の問題点. 第21回日本心血管インターベンション治療学会, 新潟, 2012

(3) 学会発表, 国際学会

1. Ohtake T, Furuya R, Iwagami M, Mochida Y, Ishioka K, Maesato K, Oka M, Moriya H, Hidaka S, Kobayashi S: LANTHANUM CARBONATE DELAYS THE PROGRESSION OF CORONARY ARTERY CALCIFICATION COMPARED WITH CALCIUM-BASED PHOSPHATE BINDER IN PATIENTS ON HEMODIALYSIS. ERA-EDTA Paris, France 2012
2. Iwagami M, Kobayashi S, Furuya R, Tsutsumi D, Mochida Y, Ishioka K, Oka M, Maesato K, Moriya H, Ohtake T, Hidaka S: Factors Associated with Cardiac Diastolic Function in Peritoneal Dialysis Patients. 14th Congress of International Society of Peritoneal Dialysis Kuala Lumpur 2012
3. Ishioka K, Oka M, Moriya H, Ohtake T, Hidaka S, Kobayashi S: Vildagliptin improves glycaemic control and fluctuation in hemodialysis patients with type 2 diabetes. Kidney week Oct 30- Nov 4. 2012, American Society of Nephrology, San Diego, California, USA.
4. Ohtake T, Furuya R, Iwagami M, Tsutsumi D, Mochida Y, Ishioka K, Maesato K, Oka M, Moriya H, Hidaka S, Kobayashi S: Lower limbs' arterial calcification is strongly associated with the prevalence and severity of peripheral arterial disease (PAD) and predicts future limb amputation in hemodialysis patients. The 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies 2012, Yokohama, Japan
5. Miyamoto M, Sueki S, Matsui K, Tsuruoka K, Sakurada T, Moriya H, Hidaka S, Ohtake T, Sato Y, Shibagaki Y, Yasuda T, Kobayashi S and Kimura K: Evaluation of the risk factors that affect repeated access failure after vascular access intervention therapy 33rd Annual conference on dialysis. USA Seattle, 2012
6. Hidaka S, Ishioka K, Oka M, Moriya H, Ohtake T, Kobayashi S: Differences in biocompatibility exerted on endothelial function by different types of polysulfone hemodialysis membrane. 49th ERA-EDTA Congress, Paris, France, 2012.5
7. Hidaka S, Mimura Y, Tsutsumi D, Mochida Y, Maesato K, Ishioka K, Oka M, Miyamoto M, Moriya H, Ohtake T, Kobayashi S: LDL apheresis improves peripheral arterial disease with an increase in endothelial progenitor cells in patients with chronic kidney disease. 30th Annual Congress of the International Society of Blood Purification, Yokohama, Japan, 2012.9

(4) 学会発表, 国内学会

1. 山口絵美, 後藤裕子, 高橋聖子, 野沢直子, 高橋尚子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三:

- 腹膜透析 (PD) 患者における生体電気インピーダンス分析 (BIA) を用いた栄養評価～PD液貯留の影響検討～. 第15回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2012
2. 高橋聖子, 若林奈々, 高井宏幸, 軽部知子, 塩野恵美子, 西井美樹子, 三宅哲, 望月弘彦, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 長期透析患者の難治性下痢に対するL-グルタミンとN-アセチルグルコサミンの使用経験. 第15回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2012
3. 高橋聖子, 若林奈々, 高井宏幸, 軽部知子, 塩野恵美子, 西井美樹子, 田村加菜子, 渡辺優希, 三宅哲, 望月弘彦, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 経管栄養時の下痢に対して成分栄養剤に変更して有効であった症例の血液・生化学的分析. 第15回病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2012
4. 石岡邦啓, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: SPP (skin perfusion pressure) を用いた血液透析前後の末梢循環動態の変化についての検討. 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
5. 増田ゆう, 青木豪志, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 透析医療における臨床研究支援のための医療秘書の役割. 日本医療秘書学会第9回大会, 東京, 2012
6. 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 脳血流SPECTによる腹膜透析患者のアルツハイマー予備群の評価. 第109回日本内科学会講演会, 京都, 2012
7. 石岡邦啓, 古谷玲, 岩上将夫, 持田泰寛, 岡真知子, 池江亮太, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 保存期慢性腎臓病患者における末梢動脈疾患～ABIとSPP (skin perfusion pressure) を用いた検討. 第109回日本内科学会講演会, 京都, 2012
8. 愛甲美穂, 佐藤三津子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 当院のフットケアチーム力～フットケア指導士の活動報告～. 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
9. 愛甲美穂, 坊坂桂子, 山下昭二, 今井みどり, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 下肢切断を受けた患者への支援～ナラティブアプローチの実践～. 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
10. 石岡邦啓, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: SPP (skin perfusion pressure) を用いた血液透析前後の末梢循環動態の変化についての検討. 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
11. 大竹剛靖, 岡真知子, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: 当院における下肢末梢動脈疾患患者への末梢血単核球細胞移植の治療効果. 第11回日本再生医療学会総会, 横浜, 2012
12. 大竹剛靖, 岡真知子, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: 当院における下肢末梢動脈疾患 (PAD) に対するG-CSF動員末梢血単核球細胞移植の治療効果の検討. 第28回日本医工学治療学会, 札幌, 2012
13. 石岡邦啓, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 2型糖尿病合併血液透析患者におけるビルダグリプチン投与による効果. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
14. 大竹剛靖, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日

- 高寿美, 小林修三: 腹膜透析患者の腹膜厚の経年変化と腹膜機能との関連. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
15. 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 腹膜透析患者の心拡張能に影響を与える因子の検討. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
16. 守矢英和, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三, 野村昌作: 高血圧合併血液透析患者におけるアレスキレン投与による血管内皮機能と動脈硬化に関する検討. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
17. 愛甲美穂, 石岡邦啓, 日高寿美, 小林修三: 透析患者の末梢動脈疾患 (PAD) カテゴリー分類と足関節上腕血圧比 (ABI)・足趾上腕血圧比 (TBI) との関連. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
18. 坊坂桂子, 今井みどり, 山下昭仁, 日高寿美, 小林修三: アンケートからみる血液透析患者の痒み. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
19. 岡真知子, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: HCV陽性血液透析 (HD) 患者におけるIL-28遺伝子変異とその治療効果について. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
20. 一色玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 繰り返すアレルギー症状を呈し, ACTH単独欠損症の診断を得た血液透析患者の一例. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
21. 増田ゆう, 青木豪志, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 透析医療における臨床研究支援のための医療秘書の役割. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
22. 真栄里恭子, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 血液透析患者における海馬萎縮と関連因子の前向き検討. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
23. 高室昌司, 和泉雅絵, 日高寿美, 小林修三: 透析室における非常電源設備のあり方～計画停電を経験して～. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
24. 持田泰寛, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 高尿酸血症を有する血液透析患者におけるフェブキソスタットの効果. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
25. 小林修三, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 野村昌作: HD患者におけるPDMPを用いた血小板活性化と内皮機能について. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
26. 今井みどり, 坊坂桂子, 日高寿美, 小林修三: 終末期血液透析患者の家族支援についての考察. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
27. 日高寿美, 岩上将夫, 一色玲, 堤大夢, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 大竹剛靖, 小林修三, 野村昌作: 新型ポリスロホン (PS) 膜NVは血小板由来マイクロパーティクル (PDMP) を減少させ血管内皮機能を改善する. 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
28. 望月隆弘, 衣笠えり子, 草野英二, 大和田滋, 久

- 野勉, 兒嶋憲一郎, 小林修三, 佐藤稔, 重松隆, 島田憲明, 友雅司, 中尾一志, 中沢了一, 西村英樹, 野入英世, 佐中孜, 前田貞亮: VEESA-STADY: ビタミンE固定化膜VPS-HAによるESA投与量に関する多施設前向き研究～サブ解析～, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
29. 佐伯江美, 高室昌司, 日高寿美, 小林修三: ブルガリアにセントラルシステムを導入して5年後の現状と今後の課題, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
30. 堤大夢, 岩上将夫, 古谷玲, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: Nafamostat Mesialteにより著明な好酸球増加をきたし, アナフィラキシー症状を呈した血液透析患者の1例, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
31. 山口絵美, 須釜典子, 野澤葉子, 秋吉美穂, 高田佳奈, 下地葉月, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 腹膜透析(PD)患者における生体電気インピーダンス分析(BIA)を用いた栄養評価～PD液貯留の影響の検討～, 第18回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 徳島, 2012
32. 秋吉美穂, 高田佳奈, 下地葉月, 野澤葉子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 腹膜透析患者における災害時の対策～災害時勉強会を開催して～, 第18回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 徳島, 2012
33. 宮本雅仁, 長谷川正宇, 中島みなみ, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 腹膜透析における腹壁ヘルニア発症の危険因子～注液量との関係～, 第18回日本腹膜透析医学会学術集会, 徳島, 2012
34. 守矢英和, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 岡真知子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三, 野村昌作: 高血圧合併血液透析患者におけるアレスキレン投与による血管内皮機能と血小板活性化に関する検討, 第35回日本高血圧学会総会, 名古屋, 2012
35. 宮本雅仁: MMFにて寛解維持を行っているC1q腎症の1例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
36. 堤大夢: Fanconi症候群, 尿細管間質性腎炎を呈したK型Bence Jones蛋白尿症の1例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
37. 中島みなみ: 腎障害を契機に発見された全身型キャッスルマン病の1例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
38. 長谷川正宇: 原発性マクログロブリン血症治療中に敗血症をきたし, 急性腎障害およびネフローゼ症候群をきたした一例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
39. 石岡邦啓: 急性腎障害発症後に骨髄腫腎, チアノーゼ腎症と診断した一例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
40. 大竹剛靖: 認知症に対して薬物治療介入を試みた腹膜透析患者の1例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
41. 守矢英和: 真性多血症にネフローゼ症候群を合併し, 組織学的に膜性増殖性糸球体腎炎を呈した一例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
42. 持田泰寛: MSSAによる腰椎硬膜外膿瘍感染後にネフローゼ症候群をきたした一例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
43. 真栄里恭子: アルブミン尿精査で判明した両側内頸および腎動脈狭窄の1例, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
44. 日高寿美: C型慢性肝炎に糖尿病を合併したネフ

- ローゼ症候群の一例. 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 新潟, 2012
45. 和足孝之, 佐藤淑, 魚嶋晴紀, 堤大夢, 北川泉, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 集学的治療を用いて救命し得た重傷中毒性表皮壊死症の一例. 第33回日本アフレスシス学会学術大会, ハウステンボス, 2012
46. 堤大夢, 長谷川正宇, 中島みなみ, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 宮本雅仁, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 甲状腺クリーゼ, CPA蘇生後に伴う多臓器不全に対し血漿交換が奏功した一例. 日本急性血液浄化学会学術集会, 大宮, 2012
47. 土井研人, 片桐大輔, 本田謙次郎, 根岸康介, 藤田敏郎, 久木基之, 小野稔, 岩上将夫, 大竹剛靖, 小林修三, 菅谷健, 野入英世: 心臓手術後AKIにおけるバイオマーカーパネルの構築. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
48. 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: Tolvaptanによる増加尿量を予測する因子の検討. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
49. 真栄里恭子, 堤大夢, 岩上将夫, 古谷玲, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: QTc延長を認めた血液透析患者の予後について. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
50. 大竹剛靖, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: 透析患者の下肢動脈石灰化と下肢切断, 心血管死亡との関連. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
51. 石岡邦啓, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 2型糖尿病性腎症患者におけるDPP-4阻害薬ビルダグリプチンを用いた糖尿病管理の有用性の検討. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
52. 守矢英和, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 岡真知子, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 慢性腎臓病における血清NGAL (Neutrophil Gelatinase Associated Lipocalin) 濃度と腎組織障害度との関連. 第55回日本腎臓学会学術総会, 2012, 横浜
53. 持田泰寛, 安武夫, 松元加奈, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 岡真知子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 持続的血液濾過透析施行患者 (CHDF) におけるメロペネム (MEPM) の薬物動態. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
54. 日高寿美, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 小林修三: IgA腎症に対するステロイドパルス+低用量プレドニゾロン (PSL) 経口療法の予後予測因子. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
55. 小林修三, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美: HD患者における脳血流低下について～脳血流SPECTの統計画像解析を用いた報告～. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
56. 堤大夢, 岩上将夫, 古谷玲, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 血液透析患者における血小板数と脾腫に関連する因子の検討. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012

57. 岡真知子, 古谷玲, 岩上将夫, 持田泰寛, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 維持血液透析患者での異なる透析液使用時の一週間の重炭酸濃度変動の比較. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
58. 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 尿細管間質障害を主体としたMPO-ANCA関連腎炎の臨床的特徴と予後. 第55回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2012
59. 石岡邦啓, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 2型糖尿病合併血液透析患者におけるビルダグリプチン投与による効果. 第55回日本糖尿病学会年次学術, 横浜, 2012
60. 大竹剛靖, 岡真知子, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: 当院における下肢末梢動脈疾患患者への末梢血単核球細胞移植の治療効果と検討. 第4回日本下肢救済足病学会, 名古屋, 2012
- (5) 研究会
1. 古谷玲: 多彩な免疫異常を合併したParvovirus感染後急性糸球体腎炎の一例. 第57回神奈川腎炎研究会, 横浜, 2012
2. 秋吉美穂, 下地葉月, 高田佳奈, 野澤葉子, 山口絵美, 根元敬, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 多職種介入腹膜透析外来 (Shonan Kamakura Multi-Disciplinary Team Approach:SK-MDTA) を導入して. 第26回神奈川県CAPD研究会, 横浜, 2012
3. 岩上将夫: Tolvaptanによる増加尿量の予測. 8th Shonan Tokyo Renal Conferene, 横浜, 2012
4. 守矢英和: 心臓手術後に進行する腎機能障害に対し, クレメジン投与が著効を示した一例. 湘南CKDセミナー, 鎌倉, 2012
5. 真栄里恭子: 血液透析患者の脳と海馬萎縮についての検討. 第83回神奈川腎研究会 総会・研究集会, 横浜, 2012
6. 堤大夢: 当院におけるトルバプタン使用症例の検討. Tolvaptan Conference, 横浜, 2012
7. 小林修三: 血小板由来マイクロバーティクルPDMPを用いた血小板活性化と内皮機能について～膜の差異による影響を中心に～. 第27回ハイパフォーマンス・メンブレン研究会, 東京, 2012
8. 長谷川正宇: 原発性マクログロブリン血症治療中に敗血症をきたし, 急性腎障害およびネフローゼ症候群をきたした一例. 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
9. 堤大夢: Nafamostat Mesilateにより著明な好酸球増加をきたし, アナフィラキシー症状を呈した血液透析患者の一例. 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
10. 守矢英和, 長谷川正宇, 中島みなみ, 堤大夢, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 宮本雅仁, 岡真知子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: セレコキシブ内服を契機に急速進行性に腎機能が悪化し, ネフローゼ症候群を呈した1例. 第58回神奈川腎炎研究会, 横浜, 2012
11. 持田泰寛: シナカルセト投与で異所性石灰化が著明に改善した腹膜透析患者の一例. 学術講演会～腎周辺疾患セミナー～, 横浜, 2012
12. 堤大夢, 長谷川正宇, 中島みなみ, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 宮本雅仁, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: Tolvaptan投与にて良好な体液コントロールが得られたネフローゼ症候群合併CKDstage5の一例. 第44回臨床体液研究会, 東京慈恵会医科大学, 2012

13. 長谷川正宇, 中島みなみ, 堤大夢, 持田泰寛, 真栄里恭子, 石岡邦啓, 宮本雅仁, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 神経調節性失神(混合型)とⅢ度房室ブロックによる血圧変動にて腎機能障害を来した1例. 第84回神奈川腎研究会, 横浜, 2012
 14. 持田泰寛, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 石岡邦啓, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三: 慢性関節リウマチ治療中に不明熱と間質性肺炎をきたした維持透析患者の1例. 第32回東部腎カンファランス, 三島, 2012
 15. 長谷川正宇: 両腎摘にいたった多発性嚢胞腎嚢胞感染の1例. 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院 講堂, 2012
 16. 中島みなみ: 腎障害を契機に発見された全身型キャッスルマン病の1例. 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院 講堂, 2012
 17. 長谷川正宇: 両腎摘にいたった多発性嚢胞腎嚢胞感染の1例. 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院 講堂, 2012
 18. 中島みなみ: 腎障害を契機に発見された全身型キャッスルマン病の1例. 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院 講堂, 2012
 19. 真栄里恭子: 血液透析患者における海馬萎縮と関連因子. 第4回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院 講堂, 2012
 20. 石岡邦啓: 透析導入期における末梢動脈疾患. 第4回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院 講堂, 2012
 21. 大竹剛靖, 長谷川正宇, 中島みなみ, 堤大夢, 持田泰寛, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 岡真知子, 宮本雅仁, 守矢英和, 日高寿美, 小林修三: 透析患者のPAD 下肢動脈石灰化の意義とPADスクリーニングのためのABI至適cut off値について. 第9回腎と心血管障害研究会, 品川, 2012
- (6) 座長・司会・開会の辞
 1. 小林修三: 座長 腎疾患④ 第15回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2012
 2. 小林修三: 座長「薬剤性腎症(造影剤腎症を含む)の診断と対策 神戸大学大学院 腎臓内科 西慎一先生」 第8回CKD Conference in Kamakura, 鎌倉, 2012
 3. 小林修三: 座長 Overview「重症下肢虚血に対する治療」 第6回末梢循環セミナー—腎不全・糖尿病のリムサルベージを考える会—, 横浜, 2012
 4. 日高寿美: 座長 フットケア外来② 予防・アセスメント① 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
 5. 大竹剛靖: 座長 診断, 透析 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
 6. 守矢英和: 座長 フットケアの手技②, 診断, 糖尿病, 透析① 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
 7. 愛甲美穂: 座長 チーム医療③ 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
 8. 小林修三: 座長 シンポジウム4 最近話題の足の病気, 意外に知らない足の病気. 第10回日本フットケア学会年次学術集会, 大阪, 2012
 9. 大竹剛靖: 司会 8th Shonan Tokyo Renal Conference. 横浜, 2012
 10. 小林修三: 座長 湘南CKDセミナー, 横浜, 2012
 11. 小林修三: 座長 第1回尿中アルブミンからCKDを考える会, 鎌倉・逗葉地区, 鎌倉, 2012
 12. 小林修三: 座長 湘南鎌倉総合病院 病診連携の会, 藤沢, 2012
 13. 小林修三: 司会 透析現場における血糖測定のとし穴 小川智也先生, 第57回日本透析医学会

- 学術集会・総会 ランチョンセミナー 52, 札幌, 2012
14. 小林修三：司会 心保護を意識した腎性貧血治療 常喜信彦先生, 第57回日本透析医学会学術集会・総会 ランチョンセミナー 31, 札幌, 2012
15. 小林修三：座長 糖尿病の新しい治療戦略—食事療法からインクレチン治療まで— 渥美義仁先生, 第5回CKD&DM SUMMER SEMINAR IN KAMAKURA, 鎌倉, 2012
16. 小林修三：座長 腎臓内科の視点からみた心不全における体液管理：トルバプタンの有用性 柴垣有吾先生, Tolvaptan Conference, 横浜, 2012
17. 小林修三：座長 拡大シンポジウム1 透析患者の重症下肢虚血をどうするか, 第4回日本下肢救済・足病学会, 愛知, 2012
18. 一色玲：座長 内分泌-2, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
19. 持田泰寛：座長 薬剤-5, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
20. 小林修三：座長 ランチョンセミナー10, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
21. 小林修三：座長 ランチョンセミナー31, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
22. 小林修三：座長 ランチョンセミナー52, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012
23. 守矢英和：Opening Remarks, 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
24. 石岡邦啓：座長 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
25. 宮本雅仁：座長 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
26. 大竹剛靖：座長 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
27. 日高寿美：Closing Remarks, 第2回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
28. 大竹剛靖：座長 演題発表II, 第58回神奈川腎炎研究会, 横浜, 2012
29. 守矢英和：Opening Remarks, ホスレノール発売3周年記念講演会, 藤沢, 2012
30. 小林修三：座長 特別講演1, ホスレノール発売3周年記念講演会, 藤沢, 2012
31. 日高寿美：Closing Remarks, ホスレノール発売3周年記念講演会, 藤沢, 2012
32. 日高寿美：Opening Remarks, 透析医療における感染対策セミナー, 藤沢, 2012
33. 守矢英和：座長 透析医療における感染対策セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
34. 小林修三：Closing Remarks, 透析医療における感染対策セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012
35. 小林修三：座長 第1回尿中アルブミンからCKDを考える会 鎌倉・逗葉地区, 鎌倉プリンス, 2012
36. 小林修三：司会 尿細管・間質疾患3, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 静岡, 2012
37. 日高寿美：司会 ネフローゼ疾患4-P, 第42回日本腎臓学会東部学術大会, 静岡, 2012
38. 小林修三：司会 ランチョンシンポジウム3, 急性血液浄化療法に求められる血液浄化装置および回路の要件, 第23回日本急性血液浄化学会学術集会, 大宮, 2012
39. 大竹剛靖：座長 一般演題, 第32回東部腎カンファランス, 三島, 2012
40. 大竹剛靖：Opening remarks, 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院・講堂, 2012
41. 日高寿美：座長 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院・講堂, 2012
42. 小林修三：Closing remarks, 第3回SK腎セミナー, 湘南鎌倉総合病院・講堂, 2012

43. 宮本雅仁：座長 第3回SK腎セミナー，湘南鎌倉総合病院 講堂，2012
 44. 持田泰寛：座長 第3回SK腎セミナー，湘南鎌倉総合病院 講堂，2012
 45. 日高寿美：Opening Remarks，第4回SK腎セミナー，2012
 46. 堤大夢：座長 第4回SK腎セミナー，2012
 47. 宮本雅仁：座長 第4回SK腎セミナー，2012
 48. 大竹剛靖：座長 第4回SK腎セミナー，湘南鎌倉総合病院・講堂，2012
 49. 小林修三：Closing remarks，第4回SK腎セミナー，湘南鎌倉総合病院・講堂，2012
- (7) ディスカッション
1. 守矢英和：座談会「高血圧治療の新戦略—ARB/Ca拮抗薬配合剤への期待—」，メディカルトリビューン，2012
 2. 大竹剛靖，本田謙次郎，小林修三：パネルディスカッション4 重症虚血肢の集学的治療におけるMDTの役割，第4回日本創傷外科学会総会・学術集会，博多，2012
 3. 大竹剛靖，持田泰寛，小林修三：ワークショップ4 LDLアフェレシスを用いたハイブリッド治療の応用～下肢末梢動脈疾患，第57回日本透析医学会学術集会・総会，札幌，2012
 4. 愛甲美穂：パネルディスカッション 透析患者のフットケア最前線，第9回フットケア学会 岐阜セミナー，岐阜，2012
- (8) 著書
1. 小林修三，8章 CKD患者における循環器疾患 2. 血圧管理から 変革する透析医学，衣笠えり子，小岩文彦，緒方浩顕，本田浩一編，医薬ジャーナル社，2012，262-269
 2. 小林修三，II章 血圧異常 1. 総論 2. 高血圧ガイドラインサポートハンドブック 血液透析患者における心血管合併症の評価と治療，平方秀樹，深川雅史，新田孝作編，医薬ジャーナル，2012，72-82
 3. 石岡邦啓，小林修三，§3 検査 Q3 AKIにおける腎生検の適応は何ですか？急性腎不全・AKI診療Q&A，野入英世編，中外医学社，2012，41-43
 4. 守矢英和，小林修三，§5 治療 Q6 利尿薬の選択と投与のタイミングについて教えてください，急性腎不全・AKI診療Q&A，野入英世編，中外医学社，2012，129-130
 5. 岡真知子，小林修三，CKD患者と感染コントロール 肺炎球菌感染症，秋葉隆編集，医薬ジャーナル社，2012，105-113
 6. 日高寿美，高カルシウム血症 今日の治療指針—私はこう治療している—，医学書院，2012，552-553
- (9) 総説
1. 石岡邦啓，小林修三，『救急・集中治療に必要なAKI(急性腎障害)の管理Q&A』「Q17. 心不全，心筋梗塞による急性腎障害(AKI)」，救急・集中治療，総合医学社，2012；24巻3・4号
 2. 小林修三，糖尿病透析患者の下肢虚血への対応，医学のあゆみ 2012；Vol.240 NO.11：903-908
 3. 小林修三，透析患者 診断と治療 2012；vol. 100-no.4：639-643
 4. 愛甲美穂，小林修三，5. 透析患者のフットケア，フットケア 2012；第2版：147-152
 5. 小林修三，低血圧・透析困難症，腎と透析 Apr. 2012 2012；Vol.72 No.4：465-468
 6. 小林修三，6 循環器合併症ガイドライン 2.透析

- 患者の高血圧はどう評価し、治療するか？ 臨床透析 CKD・透析関連領域におけるガイドラインを日常診療にどう生かすか. 日本メディカルセンター, 2012; vol.28 no.7: 965-971
7. 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三. 特集 CKD患者の抗凝固・抗血小板療法—最新のエビデンス [各論] V末梢動脈疾患における抗凝固・抗血小板療法 臨床透析. 日本メディカルセンター, 2012; vol.28 no.8: 1103-1108
8. 岡真知子, 日高寿美, 小林修三. 《AKIの診断》画像診断 内科9 2012; Vol.110 No.3 SEPT.: 396-398
9. 小林修三. シンポジウム 血管石灰化の基礎と臨床 慢性腎臓病と血管石灰化. 腹膜透析2012 腎と透析 2012; Vol.73 別冊: 39-40
10. 日高寿美, 愛甲美穂, 小林修三. 総論 透析患者の足 透析ケア. メディカ出版, 2012; Vol.18 no.11: 14-18
11. 愛甲美穂. フットケア誌上検討会 糖尿病ケア. メディカ出版, 2012; 第9巻8号: 6-10
12. 愛甲美穂, 日高寿美, 小林修三. 26 足の病気になる. 透析ケア2012夏季増刊. メディカ出版, 2012; 274-277
13. 愛甲美穂. 5 靴・靴下・足のかたち. 透析ケア2012. メディカ出版, 2012; Vol.18 no.11: 44-47
14. 愛甲美穂. 2 TBI. 透析ケア. メディカ出版, 2012; Vol.18 no.11: 21-22
15. 愛甲美穂. 4 靴下・靴選び. 透析ケア. メディカ出版, 2012; Vol.18 no.11: 61-63
16. 小林修三. シンポジウム 血管石灰化の基礎と臨床 慢性腎不全と血管石灰化. 腎と透析 腹膜透析. 2012; 73巻別冊: 39-40
17. 山口絵美, 後藤裕子, 高橋聖子, 野沢葉子, 高橋尚子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三. 腹膜透析 (PD) 患者における栄養管理. 腎と透析 腹膜透析 2012; 73巻別冊: 223-224
18. 小林修三, 古谷玲, 岩上将夫, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 石岡邦啓, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 野村昌作. 性能評価 血小板由来マイクロパーティクルPDMPを用いた血小板活性化と内皮機能について—膜の差異による影響を中心に—. 腎と透析. 東京医学社, 2012; Vol.73 別冊 ハイパフォーマンスメンブレン'12: 82-84
19. 石岡邦啓, 小林修三. Q3 AKIにおける腎生検の適応は何ですか? 急性腎不全・AKI診療Q&A. 中外医学社, 2012
- (10)原著
1. 石岡邦啓, 堤大夢, 持田泰寛, 岡真知子, 真栄里恭子, 守矢英和, 大竹剛靖, 日高寿美, 小林修三. 血液透析がSPP (skin perfusion pressure) に及ぼす影響について—透析前後の下肢末梢循環動態の変化についての検討—. 日本下肢救済・足病学会誌 2012; vol4. No.1: 91-95
2. Ohtake T, Oka M, Ishioka K, Honda K, Mochida Y, Maesato K, Moriya H, Hidaka S, Kobayashi. S: Cardiovascular protective effects of on-line hemodiafiltration: comparison with conventional hemodialysis. Ther Apher Dial. 2012 Apr; 16(2): 181-8 2012
3. Katagiri D, Doi K, Honda K, Negishi K, Fujita T, Hisagi M, Ono M, Matsunata T, Yahagi N, Iwagami M, Ohtake T, Kobayashi S, Sugaya T, Noiri E: Combination of two urinary biomarkers predicts acute kidney injury after adult cardiac surgery. Ann Thorac Surg. 2012 Feb; 93(2): 577-83 2012

4. Iwagami M, Furuya R, Tsutsumi D, Mochida Y, Ishioka K, Oka M, Maesato K, Moriya H, Ohtake T, Hidaka S, Kobayashi S: True identity of endocapillary proliferation: a case of intravascular large B cell lymphoma diagnosed with immunohistochemical study of kidney biopsy and literature review. Springer: 61-68 2012
5. Iwagami M, Mochida Y, Ishioka K, Oka M, Moriya H, Ohtake T, Hidaka S, Kobayashi S: LDL-aheresis dramatically improves generalized calciphylaxis in a patient undergoing hemodialysis. Clin Nephrol. 2012
6. Oka M, Ohtake T, Mochida Y, Ishioka K, Maesato K, Moriya H, Hidaka S, and Kobayashi S: Correlation of coronary artery calcification with pre-hemodialysis bicarbonate levels in patients on hemodialysis. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2012; 16(3): 267-271 2012
7. 望月隆弘, 衣笠えり子, 草野英二, 大和田滋, 久野勉, 児嶋憲一郎, 小林修三, 佐藤稔, 島田憲明, 中尾一志, 中澤了一, 西村英樹, 野入英世, 重松隆, 友雅司, 佐中孜. ビタミンE固定化ダイアライザによるESA投与量に関する多施設前向き研究: VEESA-study. 透析会誌 2012; 45巻9号 2012: 853-862
8. 愛甲美穂, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三. 下肢救済—私たちの取り組み(6) 当院のフットケアチームカーフットケア指導士の活動報告—. 日本下肢救済・足病学会誌 2012; 第4巻 第3号: 149-156
9. 高橋聖子, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三. 足病変患者に対するNST介入とその効果 特集: 創傷治癒促進のための栄養管理. 日本下肢救済・足病学会誌 2012; Vol.4 No.3: 133-139
10. 持田泰寛, 安武夫, 松元加奈, 森田邦彦, 岩上将夫, 古谷玲, 堤大夢, 石岡邦啓, 真栄里恭子, 岡真知子, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三. 持続的血液濾過透析(CHDF)施行患者におけるメロペネム(MEPM)の薬物動態. 日本急性血液浄化学会雑誌 2012.12; Vol.3-2: 123-128
11. Katagiri D, Doi K, Honda K, Negishi K, Fujita T, Hisagi M, Ono M, Ohtake T, Kobayashi S, Sugaya T, Noiri E: Combination of Two Urinary Biomarkers Predicts Acute Kidney Injury After Adult Cardiac Surgery The Annals of Thoracic surgery Volume 93: 577-583 Issue 2, February 2012

血液内科



■田中 江里

日本内科学会総合内科専門医、
日本血液学会専門医、病理解剖資格医

展望

高齢者社会に伴う造血器腫瘍であるところの悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などは年々増加していますが、複数の疾患をもつことが多いため治療の選択、合併症管理は非常に難しくなっていると感じます。それらに対して、エビデンスに基づいた治療を行うのはもちろんのこと、個々の希望に沿ったよりよい医療(治療だけではなく)を提供できるように心を配っていきます。そのためとして

- (1) 症例を多くみてきたからこそできる、その人にふさわしい治療の選択肢の提供。
- (2) 初診から診断までの時間をできるだけ早くすること、その結果早い症状緩和がえられ、心の不安もとることができます。それには各科との連携が大切であり、外科、放射線科、病理診断科などとの関係を密にしています。
- (3) 治療後も長期的なフォローを行ないその他の疾患の治療もアドバイスしていきます。またセカンドキャンサー(2次発がん)は長期間観察していかないとわからないがん患者の後期合併症の一つであり、当院のように長期フォローをしている病院

が情報を発信していく必要があると思われます。

- (4) 地元で標準的な治療を。診断から緩和医療まで。
外来のオンコロジーセンターでは外来化学療法室として、専門ナース、薬剤師、臨床心理士、専属医事課担当があり、さまざまな悩みに答えてくれます。遠方に通わなくても標準的な治療ができること、具合が悪くなっても人間関係のできたスタッフにみてもらえることが、皆が望むところでしょう。それらのサービスを提供していくことをめざします。
- (5) 差別のない医療：特に血液疾患の治療は輸血が必要となったり、コストのかかる医療が長期にわたるため、宗教的な問題のあるかた、経済的な問題のあるかた、精神的な問題のあるかたが医療を断られることがあります。当科では、それらのかたに対しても平等に接し適切な医療を提供します。

研修

血液疾患は決してまれではなく、血液内科がないがゆえに内科研修として血液内科が欠けている研修病院も多くあります。これまでは当院の総合内科研修医がローテーションをしてくれていましたが、2011年度からは他院からの内科研修医をひきうけることとなりました。また外部の一般病院の総合内科をめざされる先生にもぜひ血液内科を研修してもらいたいと考えています。

実績 2012.1-2012.12

〈マルク件数〉

血液内科	283件
------	------

〈新規患者数〉

悪性リンパ腫	46例
急性骨髄性白血病	12例
慢性骨髄性白血病	9例

急性リンパ性白血病	3例
慢性リンパ性白血病	1例
骨髄異形成症候群	18例
多発性骨髄腫	16例
ITP	12例
再生不良性貧血	6例

業績

学会発表

1. 田中江里, 工藤まどか, 和足孝之, 小野淳, 白石英昌, 日比美智子, 佐藤公俊, 西口翔, 菅波由有, 北川泉: 骨髄穿刺における第1穿刺液と第2穿刺液の細胞数の違い. 日本内科学会総会, 京都, 2012.4
2. 十倉満, 木下大輔, 稲田悠, 田中江里: 免疫抑制療法が奉功したAcquired pure megakaryocytic aplasiaの1例. 日本内科学会関東地方会, 東京, 2012.7

糖尿病内分泌内科



■小見 理恵子 糖尿病内分泌内科部長

日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医、
日本医師会認定産業医

■高橋 正典

日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、
日本医師会認定産業医、
日本医師会認定健康スポーツ医、
日本温泉気候物理医学会認定温泉療法医

■田中 麻美（健康管理センター医長兼務）

日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医

■大岡 愛子（非常勤）

日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医、
日本医師会認定産業医

■浜野 久美子（非常勤）

日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医、
日本糖尿病学会研修指導医、
日本内分泌学会専門医、日本内分泌学会研修指導医、
日本抗加齢医学会専門医

■井上 真理子（非常勤）

日本内科学会認定医

2012年度 活動状況

1) 展望

①標準的な糖尿病 内分泌代謝疾患に対する医療の
提供

- ・地域医療連携および院内各科よりのご紹介患者を含め教育入院7泊8日を引き続き実施。病棟ではフットアセスメントを入院患者全員に運用し、すみやかなケア、処置の実施、専門科受診などにつながる役割を果たす。
- ・糖尿病療養指導士（CDEJ）（佐藤三津子、手塚奈央子、宮澤留衣）による療養指導看護師外来。外来インスリン・GLP1製剤導入、心理面を含めた療養指導、さらにフットケア外来などを行い、質の高い糖尿病診療を継続。
- ・療養指導連絡会議を定期的に開催し、糖尿病治療に携わる各職種（医師、看護師、栄養士、CRC）の連携を強化、教育入院や外来教室の見直しを行う。
- ・CDEJとして看護師佐藤三津子、手塚奈央子、宮澤留衣、CRC麻生圭子、管理栄養士菅原美喜子、岩井菜穂子、検査技師田村佳菜子、理学療法士藤本貴子、増田真希が活躍。2012年度はCDEJ認定試験に理学療法士根本敬、薬剤師斉藤佳苗が合格、チーム医療として専門性を発揮。
- ・月1回土曜日の外来糖尿病教室を引き続き実施。週末を利用した短期の教育入院としても対応。
- ・病診連携（DM2システム）については、引き続き推進の方向で、教育入院終了された方、治療安定された方については積極的に地域への逆紹介を行う。また逆紹介後1年目に病診連携室を通じてフォローアップ案内状を郵送し、希望者にDM2外来枠においてフォローアップを行う。今後も地域医療連携は推進していく予定である。
- ・他科入院患者の血糖管理についても入院患者のアウトカム（転帰、入院日数など）に寄与すべく対応。

②先進的医療への取り組み

- ・CGMS（持続血糖モニター）は症例数を重ね、妊

妊娠糖尿病や不安定糖尿病や治療の見直しに有用性を発揮。新しいCGMS (iPRO2) は、積極的に外来で使用。

- ・血糖変動の大きい1型糖尿病患者などには、積極的にCSII (持続皮下インスリン注入療法) の導入を行っている。

③前期後期研修医教育の充実

日本糖尿病学会教育認定施設の要件を満たすべく定期的カンファランスを開催、前期研修医については糖尿病治療のエッセンスの習得を目指す。

④臨床研究

厚生労働省主管の糖尿病血管合併症予防のための戦略的プロジェクト研究実施施設J-DOIT3に参加、2006年7月より研究開始、2012年3月に6年目をむかえ順調に推移、研究計画の変更による期間延長に伴い、参加登録者に同意をいただき継続観察中である。

臨床治験については積極的に行い、糖尿病領域における新薬 (SGLT2薬、DPP4阻害薬、GLP-1製剤など) の使用経験を通じて新しい糖尿病治療に関する研鑽を深めた。

2) 診療実績

年間診療実績

外来 10093件

入院 113件

教育入院 54名

糖尿病療養指導 707件

①初回 179名

②指導継続 506名

③臨時指導 70名 (①、②と重複)

外来自己注射導入 (インスリン・GLP-1受容体作動薬)

61件

外来糖尿病教室 64名

電話相談 62件

3) 学術業績

(1) 学会発表

1. 小見理恵子：妊娠35週に劇症1型糖尿病を発症し健常児を出産した一例、第49回糖尿病学会関東甲信越地方会、東京、2012年1月
2. 田中麻美：膵管内乳頭粘液主要 (IPMN) 術後に血糖コントロールが著明に改善した一例、第49回糖尿病学会関東甲信越地方会、東京、2012年1月
3. 田中麻美：2型糖尿病におけるリラグルチドの長期効果に関する検討、第55回日本糖尿病学会、横浜、2012年5月
4. 小見理恵子：2型糖尿病におけるNTproBNP～心腎biomarkerの可能性～、第55回日本糖尿病学会、横浜、2012年5月
5. 大岡愛子：Skin Perfusion Pressure (SPP) の糖尿病合併末梢動脈疾患 (PAD) における有用性の検討、第55回日本糖尿病学会、横浜、2012年5月
6. 岩井菜穂子：世界糖尿病デーフェスティバル (IN鎌倉) における食生活の意識調査、第55回日本糖尿病学会、横浜、2012年5月
7. 宮沢留衣：一般市民に対する啓発活動に関する一考察～世界糖尿病デーのイベントを通して～、第55回日本糖尿病学会、横浜、2012年5月
8. 藤本貴子：一般市民への歩行指導と運動習慣調査報告～世界糖尿病デーイベントより～、第55回日本糖尿病学会、横浜、2012年5月

(2) 講演・シンポジウム

1. 小見理恵子：湘南鎌倉地区 診療連携の会、講演、2012年2月
2. 高橋正典：湘南鎌倉地区 診療連携の会、講演、2012年2月

3. 田中麻美：第5回湘南三浦糖尿病内分泌症例検討会，発表，2012年3月
4. 小見理恵子：第5回CKD&DM SUMMER SEMINAR in Kamakura，座長，2012年7月
5. 田中麻美：ビクトーザ症例検討会，講演，2012年7月
6. 高橋正典：ビクトーザ症例検討会，講演，2012年8月
7. 小見理恵子：横浜南條ロータリークラブ，講演，2012年9月
8. 高橋正典：商工会，睡眠時無呼吸症候群について，講演，2012年10月
9. 高橋正典：グランマックス勉強会，睡眠時無呼吸症候群，2012年11月
10. 高橋正典：湘南SAS研究会，睡眠時無呼吸症候群，講演，2012年11月
11. 4病院合同抄読会 2012年2月，9月

4) その他

世界糖尿病デーイベント 2012年11月11日

2006年12月、国連により11月14日を「世界糖尿病デー」と策定され、初の国内活動が2007年11月14日、鎌倉地域の寺社（鎌倉大仏、大船観音、鶴岡八幡、長谷寺）をシンボルカラーのブルーにライトアップするイベントをとり行った。当科においては6年目にあたる2012年もひきつづき活動を展開。長谷寺においては当院スタッフによる医療相談、血糖・HbA1c測定などを行い、途中雨天により終了時間を切り上げたが、参加者は約800人に上る大盛況であった。

血液浄化部（血液浄化センター）



■小林 修三 副院長

医学博士、日本内科学会評議員、
日本フットケア学会理事長、
日本医工学治療学会理事、
日本下肢救済・足病学会監事、
日本腎臓学会評議員・指導医、
日本高血圧学会評議員・指導医 (FJSH)、
日本病態栄養学会評議員・専門医、
日本急性血液浄化学会評議員、
日本透析医学会評議員・指導医、
日本腹膜透析学会評議員、
日本アフェレシス学会評議員

■日高 寿美 血液浄化部部長、血液浄化センター長

医学博士、日本内科学会総合専門医、
日本腎臓学会評議員・指導医・専門医、
日本透析医学会指導医・専門医、
日本フットケア学会理事、
日本病態栄養学会評議員・専門医、
日本アフェレシス学会評議員専門医、
日本急性血液浄化学会認定指導者、
日本医工学治療学会評議員

他の医師スタッフは腎免疫血管内科の項を参照

診療と展望

1. 血液浄化部（血液浄化センター）の構成

2012年4月1日より腎移植外科が創設されたことを契機に、腎臓病総合医療センターが立ち上げられた。小林修三副院長が腎臓病総合医療センター長になり、その下に血液浄化部（血液浄化センター）、腎免疫血管内科、腎移植外科の3つが並ぶ構造となった。

血液浄化センターの診療は、小林修三副院長のもとに、血液浄化部部長日高寿美、および腎免疫血管内科の医師全員で行っている。さらに4月1日より、血液浄化部医長として聖マリアンナ大学腎・高血圧内科の宮本雅仁先生が赴任され、一層充実した布陣となった。

看護部門では、山下昭二師長、坊坂桂子副主任（透析看護認定看護師）、塩野恵美子副主任が中心となり、当院特有の重症度の高い難しい透析治療・看護にあたっている。

臨床工学技士は和泉雅絵副主任を中心に毎日6～7名が透析センター勤務にあたり、透析液の清浄化を徹底し、血液透析機器や特殊血液浄化機器の回路組み立て・メンテナンスを行ってくれている。ICUでの持続腎代替療法（CRRT）や病棟での出張透析・夜間の急性血液浄化療法に関して大きな役割を果たしている。

管理栄養士・薬剤師も血液浄化センターに定期的に訪室し、患者指導にあたっている。

事務的仕事・患者対応・医療統計などいっさいを行ってくれているクラーク、看護助手、患者さん送迎のための運転手、栄養士・調理師など多くの職種の方にお世話になりながら血液浄化センターは運営されている。

2. 血液浄化センターの設備

血液浄化センターはベッド数が57床で、6床は個室となっている。そのうち1室は特殊血液浄化療法用の個室として使用している。オンラインHDF対応機種が24台あり、出張用の個人器および出張用RO水作製

装置も2台有している。

2011年の東日本大震災時に経験した計画停電の際に多人数用透析液作製装置に不具合が生じたため、無停電電源装置(UPS)の設置を病院側に切望していたところ、非常に高額な設備であるが病院側が設置してくれた。そのため安心して血液浄化療法を施行できる環境となり、災害時の多施設からの透析の受け入れも積極的にできる環境がつけられた。

3. 血液浄化センターの診療実績

表1に2012年度末の透析センターの実績を示す。登録維持透析患者数は2012年12月末日で236人であり、179人が血液透析、57人が腹膜透析を受けている。その他に合併症治療のため他科に入院中の透析患者が1日15～20人おり、重症度が高い患者さんの透析治療を行っている。

年間の新規透析導入患者数は64人と前年度と比較し16人増であった(表1)。内訳として、血液透析が51人、腹膜透析が11人の導入となっている。血液透析患者の平均年齢は69.4歳、腹膜透析患者の平均年齢は65.3歳であった。

表2に登録維持透析患者の死亡数と死因を示す。2012年の当院年間粗死亡率は9.3%であった。日本透析医学会の全国統計調査では年間粗死亡率が10.1%であったため、それより低い値であった。死因としては敗血症・肺炎と感染症が多かったが、その中には重症

下肢虚血症例も含まれ、感染症対策だけでなく心血管疾患を含めた全身の動脈硬化管理の重要性を痛感する。

表3に特殊血液浄化療法の症例数と治療回数を示す。2012年には212症例917件の特殊血液浄化療法を施行している。その内訳としてはICUで施行している持続的血液濾過透析(CHDF)の頻度が多く、また血漿交換療法(PEX)の治療回数も増加している。今後、腎移植症例が増加するにつれ、移植手術前のPEXや二重膜濾過血漿交換療法(DFPP)の頻度が増加することが予想される。

4. 海外への透析支援

2012年に当院で透析医療の研修を行った国々は、レソト王国、ガーナ共和国、モンゴル国であり、3週間滞在し研修を行った。ブラッドアクセス作製に関しては、腎移植外科・外科の先生方をお願いして手術を見学させていただいている。また、腹膜透析も見学してもらっている。

5. 展望

今後も常に安心して安全な血液浄化療法の提供を心がけることがまず根本である。

血液透析に関しては、透析ライフという言葉があるように、患者さんにとって透析は生活の一部となっている。そのため、QOLの悪化を防ぐことができるよ

表1. 透析治療の実績

	2010年	2011年	2012年
登録維持透析患者数(名)	238	235	236
血液透析患者数(名)(平均年齢)	186(68.9±11.5歳)	179(69.5±11.4歳)	179(69.4±10.7歳)
腹膜透析患者数(名)(平均年齢)	52(62.9±10.8歳)	56(65.1±11.3歳)	57(65.3±11.6歳)
新規透析導入患者数(名)	41	48	64
新規血液透析導入患者数(名)(平均年齢)	33(68.1±12.7歳)	32(70.5±12.6歳)	51(69.5±13.0歳)
新規腹膜透析導入患者数(名)(平均年齢)	8(67.4±9.6歳)	16(64.4±12.2歳)	11(64.5±11.0歳)

表2. 登録維持透析患者死亡医療統計

	2010年	2011年	2012年
年間死亡者数(名)	14	22	22
粗死亡率	5.9%	9.4%	9.3%
全国平均	9.8%	10.2%	10.1%
血液透析	8	16	18
心不全	1	4	1
虚血性心疾患	0	2	1
不整脈	0	0	2
大動脈弁狭窄症	0	0	1
多発性脳梗塞	0	0	1
急性硬膜下血腫	0	0	1
敗血症	1	3	5
肺炎	1	0	3
悪性新生物	2	5	1
突然死・不明	3	0	1
消化管出血	0	1	0
イレウス	0	1	0
劇症型抗リン脂質抗体症候群	0	0	1
腹膜透析	6	6	4
心不全	1	0	0
虚血性心疾患	0	1	2
脳出血	1	0	0
敗血症	1	2	0
肺炎	1	1	0
腹膜炎	2	0	0
悪性新生物	0	1	1
突然死・不明	0	1	1

うな質の高い透析治療を提供したい。さらに、引き続き当院から透析治療に関するエビデンスを創出できるようにしたい。

特殊血液浄化の分野では、CHDFやエンドトキシン吸着療法(PMX-DHP)の頻度が多い。安全に施行するとともに、急性血液浄化療法に関しても新しい知見を発信できるようにしたい。

海外への血液透析支援に関しては、今後も継続して行っていく。そのカリキュラムに関して、さらに充実した内容のものにしていきたい。さらに現地での透析センターオープンに関しても積極的に関与していきたい。

表3. 特殊血液浄化療法年間施行数

	2010年		2011年		2012年	
	年間 症例数	治療 回数	年間 症例数	治療 回数	年間 症例数	治療 回数
総数	154	628	211	795	212	917
持続的血液濾過透析 (CHDF)	57	352	88	446	78	551
単純血漿交換療法 (PEX)	9	62	10	31	16	64
二重膜濾過血漿交換療法 (DFPP)	3	7	2	3	1	1
LDLアフェレシス (LDL-A)	15	66	15	124	18	123
免疫吸着療法 (IAPP)	2	8	2	21	2	8
血球吸着療法 (LCAP、GCAP)	4	20	5	25	4	17
エンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP)	48	85	60	115	66	125
ビリルビン吸着療法	0	0	0	0	3	3
直接血液灌流療法 (DHP)	1	1	0	0	1	1
末梢血単核球分離	4	4	3	3	0	0
腹水濃縮灌流療法	11	23	26	27	23	24

6. その他

12月に患者勉強会および災害時の避難訓練を実施した。50名以上の患者さんご家族が参加され、第1部は医師・看護師・臨床工学技士による勉強会、第2部は災害発生時の抜針訓練および避難経路の確認を行った。

7. 学会活動

医師についての学会活動は腎臓内科の項に記載されている。看護師・臨床工学技士ともに日本透析医学会学術集会総会を中心に学会発表を行っている。

医師の業績

腎臓内科の項を参照

看護師

(1) 特別講演

愛甲美穂：ASOフットケアについて，第4回Japan Endovascular Treatment Conference 2012，東京，2012年2月

(2) ディスカッション

愛甲美穂：パネルディスカッション 透析患者のフットケア最前線，第9回フットケア学会，岐阜セミナー，岐阜，2012年9月

(3) 発表

1. 愛甲美穂，佐藤三津子，日高寿美，大竹剛靖，小林修三：当院のフットケアチーム力～フットケア指導士の活動報告～，第10回日本フットケア学会年次学術集会，大阪，2012年3月
2. 愛甲美穂，坊坂桂子，山下昭二，今井みどり，日高寿美，大竹剛靖，小林修三：下肢切断を受けた患者への支援～ナラティブアプローチの実践～，第10回日本フットケア学会年次学術集会，大阪，2012年3月
3. 愛甲美穂，石岡邦啓，日高寿美，小林修三：透析患者の末梢動脈疾患 (PAD) カテゴリー分類と足関節上腕血圧比 (ABI)・足趾上腕血圧比 (TBI) との関連，第57回日本透析医学会学術集会・総会，札幌，2012年6月
4. 坊坂桂子，今井みどり，山下昭仁，日高寿美，小林修三：アンケートからみる血液透析患者の痒み，第57回日本透析医学会学術集会・総会，札幌，2012年6月
5. 今井みどり，坊坂桂子，日高寿美，小林修三：終末期血液透析患者の家族支援についての考察，第57回日本透析医学会学術集会・総会，札幌，2012年6月

(4) 座長

愛甲美穂：座長 チーム医療③，第10回日本フットケア学会年次学術集会，大阪，2012年3月

(5) 総説

1. 今井みどり：呼吸器疾患の有無，透析ケア 2012；18 (2)：136-137，2012
2. 今井みどり：感染のリスク・徴候の有無，透析ケア 2012；18 (2)：138-139，2012
3. 今井みどり：バスキュラーアクセス (シャント) 管理，透析ケア 2012；18 (2)：140-141，2012
4. 今井みどり：血圧管理，透析ケア 2012；18 (2)：142-143，2012
5. 愛甲美穂，小林修三：5. 透析患者のフットケア，フットケア 第2版，メディカ出版，2012；147-152
6. 愛甲美穂：フットケア誌上検討会，CASE18 どこをみますか？何がわかりますか？どうケアしますか？糖尿病ケア 2012；第9巻8号：6-10
7. 愛甲美穂，日高寿美，小林修三：26 足の病気になる，透析ケア 2012；夏季増刊：274-277，2012
8. 愛甲美穂：1 PWV (ABI)，透析ケア 2012；18 (11)：1033-1034，2012
9. 愛甲美穂：2 TBI，透析ケア 2012；Vol.18 no.11：1035-1036，2012
10. 愛甲美穂：5 靴・靴下・足のかたち，透析ケア 2012；Vol.18 no.11：1058-1061，2012
11. 愛甲美穂：4 靴下・靴選び，透析ケア 2012；Vol.18 no.11：1075-1077，2012
12. 愛甲美穂，日高寿美，大竹剛靖，小林修三：下肢救済一私たちの取り組み (6) 当院のフットケアチームカーフットケア指導士の活動報告一，日本下肢救済・足病学会誌 2012；第4巻 第3号：149-156，2012

臨床工学技士**(1) 発表**

1. 高室昌司, 和泉雅絵, 日高寿美, 小林修三: 透析室における非常電源設備のあり方～計画停電を経験して～, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012年6月
2. 佐伯江美, 高室昌司, 日高寿美, 小林修三: ブルガリアにセントラルシステムを導入して5年後の現状と今後の課題, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012年6月

秘書**(1) 発表**

1. 増田ゆう, 青木豪志, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 透析医療における臨床研究支援のための医療秘書の役割, 日本医療秘書学会第9回大会, 東京, 2012年2月
2. 増田ゆう, 青木豪志, 守矢英和, 日高寿美, 大竹剛靖, 小林修三: 透析医療における臨床研究支援のための医療秘書の役割, 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012年6月

(2) 原著

増田ゆう, 青木豪志, 守矢英和, 大竹剛靖, 小林修三, 日高寿美: 透析医療における臨床研究支援のための医療秘書の役割, 日本医療秘書学会学会誌 2012 ; 9 (1) : 27-28

ER (救急総合診療科)



- 大淵 尚 救急総合診療科部長
- 山上 浩 救急総合診療科部長
- 梅澤 耕学 救急総合診療科医長
- 山本 真嗣 救急総合診療科医員
- 谷川 徹也 後期研修医
- 青木 信也 後期研修医
- 今村 太一 後期研修医
- 北原 理 後期研修医
- 上段 あずさ 後期研修医
- 堂本 佳典 後期研修医
- 岡田 信長 後期研修医
- 川口 剛史 後期研修医
- 畑辺 なな実 後期研修医
- 廣瀬 薫 後期研修医

活動概要

医長の山上は部長となり、当科は二人部長制となった。梅澤は医長となり、引き続き当科の診療・運営にあたることになった。谷川・青木・今村・北原の4名はチーフレジデントとしてER診療に加え、研修医教育およびERマネジメントに当たった。また、この年、大淵・今村・北原の3名が日本救急医学会・救急科専門医試験に合格し、当科の専門医は5名となった。

活動実績

【診療】

救急搬送	13492人
walkin受診者数	32537人
救急からの入院患者数全国第1位(2年連続)	

【論文投稿】

1. Umezawa K, Branch J, Hasegawa K. Facial Swelling. Annals of Emergency Medicine March 2012 (Vol. 59, Issue 3, Pages 234)
2. Imamura T, Brown CA 3rd, Ofuchi H, Yamagami H, Branch J, Hagiwara Y, Brown DF, Hasegawa K; Japanese Emergency Medicine Research Alliance Investigators. Emergency airway management in geriatric and younger patients: analysis of a multicenter prospective observational study. Am J Emerg Med. 2013 Jan;31(1):190-6.
3. Hasegawa K, Hagiwara Y, Imamura T, Chiba T, Watase H, Brown CA 3rd, Brown DF. Increased incidence of hypotension in elderly patients who underwent emergency airway management: an analysis of a multi-centre prospective observational study. Int J Emerg Med. 2013 Apr 24; 6(1): 12.

【記事寄稿】

1. 山上浩. ERエラーブック. 翻訳156-167, 230-237
2. 山上浩. レジデントノート増刊「ピンチを回避する! 救急診療のツボ」. 低血糖の経過観察〜いつまで病院で診たらよいでしょう
3. 山上浩. JIM「2023年のプライマリ・ケアを夢想する—新世代の挑戦」. ネットワーク化するプライマリ・ケア専門職集団 EMAの構想と挑戦
4. 山上浩. 「今日の臨床サポート」. 麻薬中毒, 麻薬患者届出の義務, クラゲ刺傷

【学会発表】

1. 山上浩：ER混雑に対する当院の取り組み，第40回 救急医学会総会・学術集会
2. 梅澤耕学：2施設ERにおける超高齢者(85歳以上)院外心肺停止症例の転帰，第40回 救急医学会総会・学術集会
3. 谷川徹也：敗血症患者に対する初期抗生剤投与の遅れが予後に及ぼす影響について，第40回 救急医学会総会・学術集会
4. 北原理：MRI禁忌例に対する急性期脳梗塞早期診断の試み，第40回 救急医学会総会・学術集会
5. 今村太一：救急外来に於いて高齢者に対して施行された気管内挿管とその予後に関する単施設後顧的研究，第40回 救急医学会総会・学術集会
6. 堂本佳典：脳梗塞患者に対しMRI撮影時間が治療開始に及ぼす影響，第40回 救急医学会総会・学術集会
7. 岡田信長：「救急外来Rapid Sequence Intubationと非Rapid Sequence Intubationで挿管された患者の予後比較検討—単施設後顧的研究—」，第40回 救急医学会総会・学術集会
8. 川口剛史：当院における緊急症例の院内トリアージから診療開始までの所要時間の検討，第40回 救急医学会総会・学術集会
9. 北原理：睡眠時発症脳梗塞患者の長期臨床転帰，日本脳卒中学会総会 STROKE2012
10. Imamura T: Emergency Airway Management for Very Elderly Patients in Japan: an Analysis of a Multi-center Prospective Observational Study. 2012 Chicago, The Society for Academic Emergency Medicine
11. Kawaguchi T: Functional prognosis of patients and airway management in the ED. The 16th AnnualSAEM MidAtlantic Regional Research

Forum

【講演会・シンポジウム】

1. 山上浩：諸刃の剣。効果的なフィードバックとは？ 優れたチームには必須。どのように効果的な候補者の面接を行うか？ EMA education fellowshipコース講師：2012年6月8-9日

【定期カンファレンス】

湘南地域救急医療合同カンファレンス

1. 奈良唯唯子：第41回 当院でのトリアージの取り組み
2. 北原理：第42回 二つのロードアンドゴー
3. 榎本匡秀：第43回 気分不快を訴えて、意識障害で来られた一例
4. 畑辺なな実：第44回 第六感に注意！

【イベント参加】

1. 梅澤耕学，森悠紀，真田あきこ，浅野昌子：第6回北海道メディカルラリー，2012.8
2. 岡田信長，畑辺なな実，木下大輔，秋山祐子，針谷忍：2012神奈川メディカルラリー in YOKOHAMA. 2012.7

放射線科

展望

長らく不在であった常勤放射線診断医の2010年4月着任、IVRセンターの開設、2010年10月からの放射線腫瘍科の開設など、この数年で当院における“放射線診療”の変化は劇的です。

また、科という器だけではなく、本年(2012年)1月からは放射線診断常勤医が1名、4月からは診断専門医2名および放射線治療後期研修医1名が増員となり、本年だけで放射線診療の常勤医が計4名増員となりました。

これを機に今後の放射線診療における質&量の充実、次世代を担う放射線専門医の育成を重要な目標として診療科の再編を行いました。

すなわち、放射線画像診断を専門業務とする“放射線診断科”をあらたに開設しました。

また、高度の放射線診療を行う上で切り離すことのできない放射線腫瘍科と診断科業務の円滑な実施と放射線科専門医(後期研修医)教育をミッションとして科の位置づけを変更し、診断科&腫瘍科の両診療科の部長からなる“放射線科”を開設しました。

日進月歩の画像診断&放射線治療技術は、先進的な医療のみならず一般診療にとってもなくてはならないものです。放射線科は今後、その専門性を充実させて行くとともに、次世代を担う放射線専門医育成に尽力します。そのために日本医学放射線学会修練機関の認定を取得する予定です。

放射線腫瘍科



- 大村 素子 放射線腫瘍科 部長
放射線治療専門医、がん治療認定医
- 松井 謙吾
放射線治療専門医
- 向井 佑希

1. 診療科紹介

放射線治療部門は開設2年目を迎えました。2012年4月より向井佑希医師を迎え、放射線腫瘍科医師3名体制で診療にあたりました。診療放射線技師3名、医学物理士2名、看護師1名、クラーク1名とスタッフも充実しました。

他科および近隣の施設の先生方より多くの患者さんをご紹介いただき、治療患者数も増加しています。疾患や病気を問わず、放射線治療の適応のある方に質の良い治療を提供し、院内のがん診療に携わるすべての医療スタッフの方々と協力しながら、患者さんのがん治療に貢献できるように努めております。また数週間にわたる長い治療期間中、患者さんが安心して治療を受けていただけるよう、スタッフ全員で取り組んでおります。

2. 展望

一人一人の患者さんにさらに高精度高品質の放射線治療をご提供できることを目標としています。2013

年には小線源治療装置の導入を行う予定です。

診療実績(2012.1~12) 原発巣別照射数

乳腺腫瘍	65
泌尿器系腫瘍	86
肺・気管・縦隔腫瘍	61
造血・リンパ系腫瘍	27
食道腫瘍	15
胃・小腸・結腸・直腸腫瘍	26
肝・胆・膵腫瘍	8
婦人科系腫瘍	18
造血・リンパ系腫瘍	27
頭頸部腫瘍	1
脳・脊髄腫瘍	3
皮膚・骨軟部腫瘍	6
その他	6
合計	322

3. 学術実績

- 大村素子：トモセラピー治療の実際、沖縄県医師会放射線治療学術講演会、沖縄、2012年3月
- 向井佑希：TomoDirectを用いた肺癌IMRTの初期経験、日本放射線腫瘍学会第25回学術大会、東京、2012年11月
- 橋本晴満：TomoDirectを用いた乳房温存療法術後照射に対するPTVの皮膚面の設定について、公益社団法人 日本放射線技術学会 第58回関東部会研究発表大会、千葉、2012年2月
- 橋本晴満：骨盤リンパ節領域を含めた前立腺治療計画における膀胱容量の検討、日本放射線腫瘍学会 第25回学術大会、東京、2012年11月

4. その他

2012年4月、日本医学放射線学会の放射線科専門

医総合修練機関として認定されました。教育病院として初期および後期研修医が専門医取得を目標としたトレーニングを受けられるような体制が整いました。

放射線診断科

展望

診療科再編に伴い、本年4月から放射線診断科が開設されました。

1月&4月の増員に伴い、12月時点で計4名の日本医学放射線学会診断専門医の常勤スタッフと近隣大学などからの非常勤医(専門医)10名で構成されています。

このほか、専門性を生かした読影を目的として“遠隔読影”の利用も行っています。

また、放射線診断専門医としてIVRセンターの運営を担っています。

主な業務はCT、MRI、RI検査、一般撮影、健診画像(胸部Xp、胃透視)の読影書作成と各科医師および地域医療機関からのコンサルテーションへの対応などです。

しかし、医療画像技術の進歩と検査数の増加、各診療科における診療の先進化などに伴い、当科が担うべき画像診断&IVR業務をすべて実施するところまでには至っていません。

今後、当院の診療実態に見合う診断医の充足に向けた一層の努力が必要と考えています。

診療実績

画像診断(読影件数)

CT	23367
MRI	7829
RI	344
MMG	907
透視	1160
単純Xp	6573

IVRセンター

■築山 俊毅 IVR センター部長

日本医学放射線学会専門医、日本IVR学会専門医、
乳がん検診読影認定医

PSE：4

その他：61

non-vascular IVR：176

概況

2011年10月から稼働しているIVR-CT systemによりより安全かつ緻密な治療が可能となり、肝細胞癌の治療の際にはCTAPとDynaCTの撮影が標準となった。

またIVR-CT室にてCTガイド下生検やドレナージが行えるようになったことにより、緊急の手技の要請により迅速な対応が可能となった。

当科で施行するIVRの全てが同装置に集約されたため、手技時間の自由度が増し、IVR施行件数も伸ばすことが可能となるはずであったが、実際には人員の不足があり、年間を通じてフル稼働することはかなわなかった。

一方で関連他施設でのIVR施行件数は順調に伸びており、今後こちらにも注力していく。

今後の展望であるが、IVR-CT systemを充分にいかした高度のIVR施行ならびにIVR施行件数の更なる増加を目指していく。また協力していただいている看護師や技師の教育にも注力し、より魅力のある職場を目指していきたい。看護師についてはIVR専門看護師の当院第1号の資格取得が達成できた。今後さらに資格取得の意欲を高めていきたい。

診療実績

vascular IVR：220

肝TACE：75 肝TAI：8(合計83)

シャントPTA：42

BRTO：10

BAE：5

学術実績

研究会

横須賀湘南IVR研究会(発足)

その他

カンファレンス

肝臓症例検討会

画像解剖症例検討会

IVR症例検討会

公開講座

あきらめない癌治療—肝臓がん

あきらめない癌治療—膵臓がん

高血圧治療にお悩みはありませんか—副腎腫瘍の話

身体に優しい子宮筋腫の治療—子宮動脈塞栓療法

人工膝関節センター



■ 巽 一郎

日本整形外科学会認定医

■ 上野 岳暁

日本整形外科学会認定医

■ 金子 剛士

日本整形外科学会認定医

■ 野中 カンナ

1. 展望

2004年湘南鎌倉人工関節センターは、日本で最初
のMIS(最小侵襲)人工関節置換術センターとして立ち
上がりました。人工関節を最小侵襲でおこない、日本
一早く自宅へ帰られると言う事で開院以来患者さんの
数は増え続けました。

しかし20床のセンターは大変手狭になり、2010年
11月15日に膝の患者さんは湘南鎌倉総合病院内へ移
転し、新たに人工膝関節センターとして稼働し始めま
した。膝関節の患者さんは高齢者が多く、平均年齢は
76.4歳です。2012年は92歳の患者さんの手術も行い
ました。このかたも最小侵襲にて筋肉を切らずに膝半
置換術を行い、術後5日目にご自分の脚で歩いて自宅
へ帰られました。

高齢化に伴って、高血圧・糖尿病・心疾患などの合
併症をお持ちの方が急増しています。膝関節センター

を総合病院内へ移設した事により、東日本でも最高水
準の治療・検査装置を備え、内科・外科・循環器科・
形成外科など多くの専門性の高い優秀な先生方の協力
を得ることが可能となりました。このため術前・術後
の合併症対策の観点からも十二分な対応が出来るよう
になりました。昨年の術前に心臓カテーテルの精査を
受けられた患者さんは50人を超えられました。また
高知から来られた患者さんは大動脈弁閉鎖不全がみつ
かり、膝の手術前に当院心臓血管外科にて大動脈弁置
換術を受けられました。大動脈弁閉鎖不全症は自覚症
状が無い場合でも、突然死を起すことで知られていま
す。

現在日本のおもな病院における人工膝関節置換術の
平均入院期間は3～5週間です。当センターのクリニ
カルパスでは、半置換術で術後5日間、全置換術で術
後10日間で自宅へと退院します。膝関節の手術では、
術後腫れる事が多く、それが膝の屈曲を阻害しリハビ
リ期間が長くかかってきました。当センターでは全く
大腿四頭筋を切らないMIS(最小侵襲手術)を行う事
で、術後膝関節腫張を最小限に留め、術後社会復帰を
早める事を追求してきました。2012年になり、この
クリニカルパスの達成率が95%を超えるようになりました。
また2012年12月からは手術中にカクテルブ
ロックという麻酔が加わり、術後の痛みと腫脹が大幅
に軽減しました。これらの新しい治療技術を取り入れ
る事で、安全に痛みが少ない社会復帰を支援していま
す。2012年度はUKA(半置換術)、TKA(全置換術)と
もに、術後はドレーンというチューブを入れることな
く手術が終了しています。

湘南鎌倉総合病院5Fに人工膝関節センター外来ブ
ースがあります。診察室手前のレクチャールームにて初
診の患者さん・ご家族に合同説明会を行い、膝の痛み

が起る原因について解説しています。そこで保存的に痛みを取る方法を全員にお勧めしています。膝関節の軟骨が全く無くなり手術をと紹介頂いた患者さんの45%が現在手術や薬ではなく、保存療法で痛みをコントロールされています。この結果は論文としてまとめられ、Journal of Clinical Rehabilitation(0918-5259) 20巻7号に巻頭カラーで掲載されました。そして保存療法が無効な方にはMIS手術を予定していきます。

手術療法は可能な限り膝関節半置換術を試みます。これは手術後に輸血が不要で術後5日目に歩いて自宅へ退院されます。リハビリテーション科の熱心な指導もあり、90歳の方も術後5日目に自宅退院を実現しています。前十字靱帯が不安定な方は半置換術の適応でなく、全置換術を予定します。こちらでも術後10日目に自宅へ杖で退院します。全置換術の方も全く筋肉を切らないMISを可能な限り適用し、術後の良好な屈曲角度を実現しています。総合病院各科の協力を頂いて人工膝関節センターは、最先端の低侵襲手術を追求していきます。

2. 診療実績

2012年 診療実績@人工膝関節センター

初診外来：2,381名 再診外来：653名

人工膝関節手術：263件(片側置換術：115件)

初診	2,381	再診	653
神奈川県	1,534	神奈川県	397
東京都	233	東京都	64
静岡県	82	埼玉県	24
埼玉県	79	静岡県	21
千葉県	70	千葉県	16
愛知県	27	愛知県	9
大阪府	24	大阪府	9
山梨県	22	鹿児島県	9
鹿児島県	20	栃木県	9
長野県	18	熊本県	7

滋賀県	17	福島県	7
栃木県	17	山梨県	6
茨城県	16	愛媛県	6
京都府	14	長野県	6
高知県	13	茨城県	5
三重県	13	岩手県	5
熊本県	12	兵庫県	5
新潟県	12	新潟県	4
福島県	12	和歌山県	4
広島県	11	高知県	3
愛媛県	10	山口県	3
宮城県	9	青森県	3
兵庫県	9	奈良県	3
群馬県	8	福岡県	3
沖縄県	7	北海道	3
岩手県	7	京都府	2
宮崎県	7	沖縄県	2
北海道	7	宮城県	2
和歌山県	7	広島県	2
青森県	6	山形県	2
島根県	6	徳島県	2
奈良県	6	岐阜県	1
福岡県	6	宮崎県	1
山形県	5	群馬県	1
山口県	5	三重県	1
大分県	5	滋賀県	1
徳島県	5	石川県	1
岐阜県	4	大分県	1
福井県	4	長崎県	1
富山県	3	島根県	1
長崎県	3	福井県	1
石川県	2	富山県	0
岡山県	2	岡山県	0
香川県	1	香川県	0
鳥取県	1	鳥取県	0
秋田県	0	秋田県	0
佐賀県	0	佐賀県	0

3. 学術業績

1. 巽一郎：【人工膝関節のデザインとバイオメカニクス】人工膝関節の三次元解析 三次元術前計画ソフト“ATHENA” 関節外科(0286-5394) 30巻 10月増刊 Page95-103 論文種類：解説／特集

- シソーラス用語：X線診断; コンピュータ画像処理; *術前診断; X線CT; コンピュータシミュレーション; 三次元イメージング; *膝関節置換術
2. 柳沢勇一郎, 巽一郎, 浜田一壽, 塩野正喜, 浅井正大：大腿骨変形治癒後の変形性膝関節症に対して大腿骨矯正骨切り術を施行した1例. 神奈川整形災害外科研究会雑誌 (1348-043X) 25巻1号 Page 10 (2012.06) シソーラス用語：交通事故; *骨切り術; *大腿骨骨折 (合併症); *変形治癒骨折 (合併症); *変形性膝関節症 (病因, X線診断, 外科的療法) 医中誌フリーキーワード：*創外固定法 (骨折以外) チェックタグ：ヒト; 高齢者 (65～79); 男
 3. 松田芳和, 巽一郎, 平川和男, 辻耕二, 塚本理一郎, 雪竹修司, 金子剛士：術前テンプレート“ATHENA”による脛骨被覆率の評価. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 10巻1号 Page110
 4. 辻耕二, 平川和男, 巽一郎, 塚本理一郎, 松田芳和, 雪竹修司, 金子剛士：MIS THAにおける3次元術前計画ソフト (ATHENA HIP) の有用性. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 10巻1号 Page98
 5. 塚本理一郎, 辻耕二, 雪竹修司, 金子剛士, 松田芳和, 巽一郎, 平川和男：Versys and Alloclassic stemのレントゲン評価. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 10巻1号 Page98
 6. 巽一郎, 松田芳和, 平川和男, 辻耕二, 塚本理一郎, 金子剛士, 上野岳暁：MIS TKA vs Conventional TKA 筋肉を切らないMIS-TKAの優位性. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 10巻1号 Page81
 7. 辻耕二, 平川和男, 塚本理一郎, 金子剛士, 上野岳暁, 滝田泰人, 巽一郎：MIS-THAにおける手術時間からみたラーニングカーブ. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 11巻1号 Page115
 8. 金子剛士, 平川和男, 巽一郎, 辻耕二, 塚本理一郎, 滝田泰人, 岩瀬美保：1年間の当院における合併症の発生率について. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 11巻1号 Page112
 9. 齋藤彰, 金子剛士, 辻耕二, 塚本理一郎, 滝田泰人, 巽一郎, 平川和男：高齢者に対するMIS-THA早期退院クリニカルパス. 日本最小侵襲整形外科学会誌 (1348-6098) 11巻1号 Page112

呼吸器内科

展望

神奈川県地域医療を担う基幹病院として、多岐にわたる呼吸器疾患に対し十分答えられる診療科を目指します。複数の呼吸器内科医師・呼吸器外科医師・専門看護師・専門呼吸理学療法士からなる呼吸器センターを構築します。

2012年度：呼吸器内科実績

入院総数 244名（総合内科入院分含まず）
外来患者 8308名

【疾患別】（総合内科分含まず）

原発性肺癌	131例
間質性肺炎	68例
その他・びまん性肺疾患	48例
好酸球性肺炎	12例
サルコイドーシス	10例
器質化肺炎	24例
びまん性汎細気管支炎	2例
肺気腫	382例
気管支喘息	248例
慢性気管支炎	127例
肺炎	58例
胸膜炎	42例
膿胸	31例
2次性気胸	21例
気管支拡張症	124例
塵肺症	7例
石綿肺	14例
悪性胸膜中皮腫	5例
縦隔腫瘍	18例
慢性呼吸不全在宅酸素療法導入	45例

【検査】

気管支鏡	198例
診断	135例
処置	58例
ステント挿入	2例
異物除去	3例
CT下肺生検	135例
気管支動脈塞栓術	6例
上大静脈ステント挿入	2例

【学会活動・臨床研究】

手術不能非小細胞肺癌に対するCDDP+GEM+Bevacizumab治療

【医療公開講座】

肺年齢について、気管支喘息の話、肺気腫の話

【臨床治験】

COPDに対するLAMA/LABA固定容量吸入
インフルエンザウイルスに対する抗ウイルス薬注射薬の検討

2012年度：睡眠時無呼吸科実績

【疾患】

睡眠時無呼吸	310例
周期性四肢運動障害	42例
REM睡眠行動障害	18例

【検査】

携帯型PSG	356例
終夜型PSG	310例
CPAP導入	288例
BiPAP導入	11例

麻酔科



■小田 利通 麻酔科統括部長

日本麻酔科学会指導医、
日本心臓血管麻酔学会専門医(暫定)

■野村 岳志 麻酔科主任部長

日本麻酔科学会指導医、日本集中治療医学会専門医、
日本心臓血管麻酔学会専門医(暫定)、
日本周術期経食道心エコー(JB-POT)認定医、
日本医学シミュレーション学会、
DAMインストラクタ、CVCインストラクタ、
アメリカ集中治療医学会 Fundamental Critical
Care Support (FCCS) インストラクタ

■高木 芳人 麻酔科部長

日本麻酔科学会認定医

■今永 和幸 麻酔科部長

日本麻酔科学会指導医、
日本心臓血管麻酔学会専門医(暫定)

■高濱 豊 麻酔科医長

日本麻酔科学会認定医

■遠藤 民子

日本麻酔科学会認定医
日本周術期経食道心エコー(JB-POT)認定医

■太田 隆嗣

日本麻酔科学会認定医

■川岸 利臣

日本内科学会認定内科医、

日本内科学会総合内科専門医

はじめに

当院の手術の特徴の一つに高度先端医療の麻酔を行っていることと、また重傷な緊急手術が多いことが挙げられる。そのような多種多様な手術に柔軟に対応できる麻酔科の体制が求められている。高度医療また先端医療の麻酔としては、TAVIの麻酔、ロボット手術の麻酔、生体腎移植が始まり、また心臓大血管の麻酔症例も年々増加してきている。そのような数多くの困難な麻酔症例に対処し、緊急手術麻酔に1年中対応しながらも、知識を共有し患者さんの安全で満足度の高い麻酔を心がけている。

活動状況および展望

2012年総手術件数	7463件
緊急手術	1707件
総麻酔件数	3837件

2012年の麻酔件数は3837件であった。全身麻酔方法では8割が吸入麻酔薬を用いた全身麻酔で、2割が完全静脈麻酔である。また、2割の患者さんにおいて硬膜外麻酔や末梢神経ブロックを全身麻酔に併用している。また心臓・血管麻酔も約350例と、年々増加している。

2012年の活動としては、麻酔科の体制の変革である。日々の手術室麻酔管理の責任者の配置と麻酔前全身評価担当麻酔科医の外来配置を行った。JCI病院としてより安心、安全な手術麻酔管理が行えるようになったと考える。また少しずつではあるが、常勤の麻酔科医も増加してきており、徳洲会の他病院を助けることも行っている。

来年度からは、夜間の手術件数が多いことから勤務体制を当直制とし仕事のON-OFFを明らかにすること、学術活動や教育活動をさらに活発におこない種々

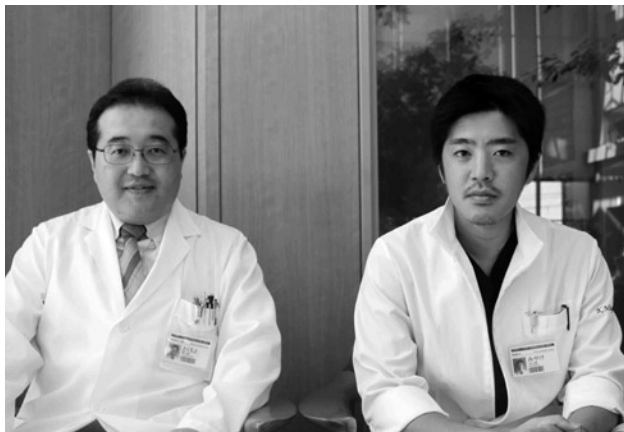
の専門医研修施設となること、若い麻酔科医にいろいろなモチベーションを常に与えつづける体制を構築したい、など展望は尽きない。

学術活動

講義・講演・学会発表

1. 野村岳志：講演・ワークショップ講師 末梢神経ブロック—Multimodal Approach—, 富山大学麻酔科, 富山市, 2012年4月
2. 野村岳志：講演 医療安全から考える超音波ガイド下中心静脈穿刺, 鈴鹿中央病院医療安全講習会, 三重県鈴鹿市, 2012年4月
3. 野村岳志：ワークショップ講師 超音波ガイド下中心静脈穿刺, 鈴鹿中央病院研修, 三重県鈴鹿市, 2012年4月
4. 野村岳志：講演・ワークショップ講師 呉医療センターDAM (Difficult Airway Management) ハンズオンセミナー 2012コース, 広島県呉市, 2012年5月
5. 野村岳志：教育講演 末梢神経ブロックSecond Stage —Multimodal Approach—, 第4回人工関節を語る若手研究会, 東京都, 2012年5月
6. 野村岳志：ワークショップ講師 人工呼吸 FCCS (Fundamental Critical Care Support) 6月関東コース, 東京ベイ・浦安医療センター, 2012年6月
7. 野村岳志：講演・ワークショップ講師 超音波装置と神経刺激装置をどのように使いこなすか? —Multimodal Approach—, 慈恵医科大学麻酔科, 東京都, 2012年6月
8. 野村岳志：講演・ワークショップ講師 緊急気道確保ハンズオンセミナー, 九州大学麻酔科, 福岡市, 2012年8月
9. 野村岳志：ワークショップ講師 DAM (Difficult Airway Management) ハンズオンセミナー, 浜松医科大学麻酔科, 浜松市, 2012年9月
10. 大澤真理子, 近藤祐子, 太田隆嗣, 岡田尚子, 小田利通：術前経口補水療法は硬膜外ブロック中の人工股関節置換術後の嘔気・嘔吐を減らすか? 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 第52回合同学術集会, 長野県軽井沢町, 2012年9月
11. 太田隆嗣, 遠藤民子, 高木芳人, 野村岳志, 小田利通：Kommerell憩室を伴う右鎖骨下動脈起始異常4症例の麻酔経験, 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部 第52回合同学術集会, 長野県軽井沢町, 2012年9月
12. 野村岳志：講演・ワークショップ 超音波ガイド下中心静脈穿刺, 島根県立中央病院, 島根県出雲市, 2012年10月
13. Endo T, Koide Y, Oda T, Edakubo S. Impact of Renal Transplantation on Echocardiographic Findings in Patients With End-Stage Renal Failure. American Society of Anesthesiologists 2012 Annual Meeting. Washington DC, USA. October 2012
14. 野村岳志：ワークショップ講師 気道確保 FCCS 10月関東2ndコース, 北里大学医学部, 2012年10月
15. 野村岳志, 遠藤民子, 太田隆嗣：湘南鎌倉総合病院気道確保セミナー, 湘南鎌倉総合病院, 2012年10月
16. 野村岳志：講演・ワークショップ講師 区域麻酔セミナー 超音波ガイド下神経ブロック, 北里大学麻酔科, 2012年11月

腎移植外科



■徳本 直彦 腎移植外科部長

日本泌尿器科学会専門医・指導医、
日本透析医学会専門医・指導医、
日本泌尿器科学会・日本泌尿器科内視鏡学会泌尿器
腹腔鏡技術認定制度認定医、
日本内視鏡外科学会技術認定（泌尿器腹腔鏡）、
日本移植学会腎移植認定医、
日本臨床腎移植学会腎移植認定医、医学博士

■三宅 克典

日本外科学会外科専門医、日本移植学会移植認定医、
日本臨床外科学会、日本血管外科学会、
日本脈管学会、日本救急医学会、日本移植学会、
日本臨床腎移植学会、日本透析学会

1. 展望

2012年4月、湘南鎌倉総合病院に腎移植外科が新たに新設され、同年12月には第1例目の生体腎移植手術を施行し成功を収めた。この徳洲会基幹病院から真の腎移植専門医を育てるための研修プログラムがようやくスタートした。今後は、腎移植を生存率、生着率などの成績に加えて症例数にもこだわって伸ばしていきたいと考えている。

2. 診療実績

週間スケジュール

病棟回診：毎日AM8:00-9:00

腎移植外科・泌尿器科手術前カンファ：

毎週月曜日AM8:00-9:00

da Vinci手術：毎週月、金、土曜日（適時）

腎移植外来カンファ：毎週水曜日AM8:00-9:00

腎移植外科腹腔鏡下手術：毎週水曜日PM（適時）

腎センター腎移植カンファ：

毎週水曜日PM16:00-17:00

腎移植手術：毎週木曜日（適時）

腎不全外科関連手術：毎日（適時）

学術活動

(1) 学術論文

1. 徳本直彦，三宅克典，瀬戸口誠，早川希，溝口翔悟，佐藤泰之，松田明子，川島洋一郎，東間紘，野崎大司，平井敏仁，尾本和也，田邊一成：2011年度戸田中央総合病院における腎移植の臨床統計．腎移植症例集2012：169-171
2. 瀬戸口誠，徳本直彦，松田明子，佐藤泰之，早川希，溝口翔悟，川島洋一郎，東間紘：戸田中央総合病院における免疫抑制剤グラセプターの使用経験．腎移植症例集2012：21-22
3. 瀬戸口誠，松田明子，杉織江，江泉仁人，井野純，川島洋一郎，早川希，溝口翔悟，佐藤泰之，徳本直彦，東間紘：血液型抗体価著明高値例に対する血液型不適合生体腎移植の1例．腎移植症例集2012：91-92
4. 佐藤泰之，徳本直彦，瀬戸口誠，野崎大司，早川希，東間紘：生体腎移植時に血行再建術で下腹壁動脈を使用した3例の検討．腎移植血管外科学会雑誌 2012；24（1）：88-91
5. T. Tokumoto, T. Akiba, A. Matsuda, T. Nozaki,

K. Setoguchi, S. Mizoguchi, N. Hayakawa, Y. Sato, H. Toma, and K. Tanabe: Clinical Outcomes of Recipients With Aplastic Bone Disease After Renal Transplantation. Transplant Proc. 2012; 44(3):680-3.

(2) 学会発表

1. 溝口翔悟, 徳本直彦, 早川希, 佐藤泰之, 松田明子, 瀬戸口誠, 川島洋一郎, 東間紘: CMV IgG抗体陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植の1例. 第49回埼玉県医学会総会, 2012.1
2. 徳本直彦, 瀬戸口誠, 溝口翔悟, 早川希, 佐藤泰之, 東間紘: 当院におけるラパロ前立腺全摘術(Lap-P) 41例の検討. 第49回埼玉県医学会総会, 2012.1
3. 徳本直彦, 田中絵里子: 一般演題医師部門22, 原疾患1. 第45回日本臨床腎移植学会, 軽井沢, 2012.2
4. 徳本直彦, 三宅克典, 瀬戸口誠, 早川希, 溝口翔悟, 佐藤泰之, 松田明子, 川島洋一郎, 東間紘, 野崎大司, 平井敏仁, 尾本和也, 田邊一成: 2011年度戸田中央総合病院における腎移植の臨床統計. 第45回日本臨床腎移植学会, 軽井沢, 2012.2
5. 早川希, 徳本直彦, 佐藤泰之, 溝口翔悟, 松田明子, 瀬戸口誠, 川島洋一郎, 東間紘: クロリムス吸収不良により急性拒絶反応に至った献腎移植の一例. 第45回日本臨床腎移植学会, 軽井沢, 2012.2
6. 溝口翔悟, 徳本直彦, 早川希, 佐藤泰之, 松田明子, 瀬戸口誠, 川島洋一郎, 東間紘: CMV IgG抗体陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植の1例. 第45回日本臨床腎移植学会, 軽井沢, 2012.2
7. 瀬戸口誠, 徳本直彦, 松田明子, 佐藤泰之, 早川希, 溝口翔悟, 川島洋一郎, 東間紘: 戸田中央総合病院における免疫抑制剤グラセプターの使用経験. 第45回日本臨床腎移植学会, 軽井沢, 2012.2
8. 瀬戸口誠, 松田明子, 杉織江, 江泉仁人, 井野純, 川島洋一郎, 早川希, 溝口翔悟, 佐藤泰之, 徳本直彦, 東間紘: 院における生体腎移植で血行再建術を要した38例の検討. 第45回日本臨床腎移植学会, 軽井沢, 2012.2
9. T. Nozaki, H. Ishida, K. Omoto, T. Shimizu, H. Shirakawa, T. Tokumoto, M. Furusawa, H. Hirano, K. Tanabe: Excellent Long-Term Outcome of ABO-Incompatible Living Donor Kidney Transplantation; a Single Center Experience for over 20 Years. American Transplant Congress 2012, Boston, USA, 2012.6
10. 徳本直彦, 秋葉隆, 瀬戸口誠, 佐藤泰之, 溝口翔悟, 早川希, 松田明子, 東間紘, 田邊一成. 生体腎移植時の骨生検にて無形成骨症と診断した症例の臨床経過: 第57回日本透析医学会学術集会・総会, 札幌, 2012.6
11. Harada H, Ishida Hideki, Hotta K, Nihei H, Fujikata S, Oooka K, Tokumoto T, Ito S, Kurihara K, Takahara S, Aikawa A, Tanabe K: 15-Deoxyspergualin Rescues Chronically Damaged Kidney Allograft Function: Japan Multicenter Cooperative Study. 24th International Congress of The Transplantation Society, Berlin, Germany, 2012.7
12. 徳本直彦, 剣持敬: 一般演題1, 自家腎移植術. 第28回腎移植・血管外科研究会学会, 箱根, 2012.7
13. 徳本直彦, 三宅克典, 小林修三, 松田明子, 東間紘, 秋葉隆, 田邊一成: 骨生検にて無形成骨症と

診断した生体腎移植例の臨床経過について，第48回日本移植学会総会，名古屋，2012.9

14. 白川浩希，戸田直裕，加賀俊江，安井由紀子，遠藤真理子，若井幸子，徳本直彦，野崎大司，尾本和也，田邊一成：東京都保健医療公社大久保病院における腎移植の臨床統計，第77回日本泌尿器科学会東部総会，東京，2012.10

4. その他

学会認定医・取得資格など

日本泌尿器科学会認定施設、日本外科学会認定施設

泌尿器科学会専門医、日本外科学会専門医

泌尿器科指導医、透析医学会認定医・指導医、移植学

会腎移植認定医、臨床腎移植学会腎移植認定医、日本

泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定制度認定医、

日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定制度認定医



「カメラコンプレックス」

カメラ (Camelia) とは、日本で言う椿のことです。シャネルのシンボルフラワーです。カメラコンプレックスとは、不幸な女性を見ると、救ってあげたくなる男性が持つ深層心理状態のことです。男性は常にナイトであり、弱っている女性を救わなければならないのです。男女平等？男尊女卑？医師である以上、女性の特権を出すつもりはないのですが、賢いナイトほど、自分とは違った能力を持つ女性を上手に使います。男性と女性の遺伝子コードは99%以上が同じであり、性によって違うのはたった1%程度。しかし胎児の頃から、脳はまったく違うのです。女性の脳は他人の言葉にならない信号を読み取り、敏感に反応します。大きくて攻撃的な男性が何をするのかを予測する能力を持ち、同じ場では争いを好みません。女性で医師になるのは、がんばり屋さんが多いと思います。無理をしている時があるかもしれません。だから、ナイトはさりげなくそれを補助する人間的大きさを持ってほしいと思います。先日、学会の会長招宴パーティーで、ウイーンヒルの音楽を聞きました。その時に聞いたウイーンの言い伝えを最後に、「オシャレを忘れたら女は終わり、優しさを忘れたら男は終わり、音楽を忘れたら人生は終わり。」納得!!

女性医師の環境問題

湘南鎌倉総合病院、女性医師の会：BeJOY会は、8年前に発足、1年に2回のミーティングを行い、女性医師の勤務状況や勤務設備の改善、上級医師から下級医師へのアドバイスなど話し合いを行っています。新病院設立前のミーティングでは、意見を聞き、女性医師の更衣室や当直室を図面に入れてもらうことを交渉し、狭いながらもリラックスできる空間を確保することができました。

現在では、あることが当たり前のように思われていますが、ほんの10年前は、女性医師のための更衣室も当直室もありませんでした。体調が悪い時や帰れない時は、狭い外来のベッドや、ストレッチャーの上、パイプイス3つをつなげての休息や仮眠もよくあることでした。私自身も大学病院時代から、ずっとそんな環境で過ごしてきたので、我慢することが女性の美学だと思っていました。しかし、セクハラ、パワハラなどが表に出ようになってからは、最低限の主張は、後輩医師たちのためにも必要なことだと思い、BeJOY会を作り、意見をするようになりました。小さな希望ですが、現院長にご理解していただき、ハードの面では過ごしやすい環境になってきたと思っています。どんな女性医師でも仕事が安心してできる環境作りのために、さらには女性医師のキャリアアップ継続のためのママドクターの応援のために、BeJOY会は活動していきたいと考えています。

女性医師の昇進問題

医療の世界もそうですが、ほとんどの仕事はまだまだ男尊女卑の現状です。ここ最近、各調査機関から女性医師へのアンケート調査が多く行われています。最近届いたのは、「女性医師の昇進に関する調査」です。女性医師を取り巻く問題として、妊娠、出産、育児と診療業務との両立は重要な課題となっています。昇進

を考えて仕事をしている人は、女性医師には少ないでしょう。実際の医療現場においては、女性医師がいなければ成り立たない現状です。女性医師が診療業務を円滑に行うには、個人の努力、夫や両親の理解と協力、医療現場での保育施設併設などの現実的な支援体制の設備完備、および病院側の理解が必要になります。仕事との両立を図れたとしても、実際には仕事の責務を十分にできない自責の念、仕事のペースダウンを余儀なくされる焦り、また、自分の子供とのスキンシップの制限、これに夫の協力が得られない場合に起こる苛立ちやあせり、抱えている問題は多くあります。また、男性と同等、それ以上に働いていても、ステップアップに疑問を持っている人も多いと思います。最近の医師国家試験合格者に占める女性の割合は3割を超えるのですが、大学附属病院の教授、准教授に占める女性の割合は、精神科、皮膚科、眼科を除くと1割にも到達していません。今後の女性医師の管理職クラスへの昇進は、徐々に増加することは予想されますが、いまだに多くの若い女性医師は所属施設でロールモデルに出会えていない状況のようです。医師をしていて一番の目標は、仕事ができるスマートな医師になることですが、パーソナルライフの充実もかせません。それにはキャリアアップは必要ないのかもしれませんが。また、女性は男性と違い、称号や人事力を得たいと思っている人は、争いを好まない女性遺伝子的にも少ないでしょう。与えてもらえれば嬉しいでしょうが、人から奪うことは苦手です。湘鎌では、血液内科の田中絵里先生が若いながらも功績が認められ、副院長に任命され病院運営にも携わっています。毎日夜遅くまで働き、病院、患者さんのことを考え医療をしている先生が、この立場で元気に活動的にいることは非常に嬉しいことで、下級医師への良いロールモデルになるのではないのでしょうか。医師の仕事は、自分の腕で患者さんの生死にかかわる過激なストレス社会です。医師と

しての自分の価値を見出せるかどうか、仕事に対する考え方はみな違いますが、与えられる仕事だけでおなかいっぱいにならずに、つまらないことでも、やらなくてはいけないことは前向きに、自己のステップアップを目指したいものです。女性という立場にあぐらをかかず、魅力ある女性医師を目指して！

